

大正八年麥作 (竹下種) 完全肥料區 一七六

堆肥 種油 肥 三〇〇〇
 硫加里 (四二%) 三〇〇〇
 完全肥料區 二〇〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

大正八年麥作 (竹下種) 無磷酸區 一七七

堆肥 種油 肥 一五〇〇
 硫加里 (四二%) 一五〇〇
 完全肥料區 二〇〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

大正九年稻作 (改良神力種) 完全肥料區 一七六

堆肥 種油 肥 三〇〇〇
 硫加里 (四二%) 三〇〇〇
 完全肥料區 二〇〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

大正九年稻作 (改良神力種) 無磷酸區 一七七

堆肥 種油 肥 一五〇〇
 硫加里 (四二%) 一五〇〇
 完全肥料區 二〇〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

大正八年麥作 (竹下種) 完全肥料區 一七六

堆肥 種油 肥 三〇〇〇
 硫加里 (四二%) 三〇〇〇
 完全肥料區 二〇〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

大正八年麥作 (竹下種) 無磷酸區 一七七

堆肥 種油 肥 一五〇〇
 硫加里 (四二%) 一五〇〇
 完全肥料區 二〇〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

試驗地區劃分.....

右成績ニヨルニ無磷酸區ニ於テ成績良好ナリ之レ病虫害ニ依リ成績判明ナラズ

試驗地 早良郡金武村大字飯盛字昆沙門二二三番地

地主及作人 倉光茂造

肥料名 施肥量 (反當) 元肥 (貫)

堆肥 一五〇〇
 種油 一五〇〇
 下種油 二荷
 完全肥料區 二〇〇〇
 無磷酸區 一五〇〇
 第一回追肥 三荷
 第二回追肥 二荷

硫酸加里	完全肥料區	三〇〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
堆肥	完全肥料區	一五〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
下種油	完全肥料區	一五〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
過磷酸加里	完全肥料區	一五〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
硫酸加里	完全肥料區	一五〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
成績 (反當收量)	無磷酸區	三〇〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇

右成績ニヨルニ反當過磷酸石灰十貫目施用ニヨリ種實反當一斗三升五合ノ增收ヲ得タリ
 大正九年稻作 (神力種) 施肥量 (反當)

硫酸加里	完全肥料區	二〇〇	追肥 (貫)	一〇
堆肥	完全肥料區	一〇〇	追肥 (貫)	一〇
大豆	完全肥料區	一〇〇	追肥 (貫)	一〇
過磷酸加里	完全肥料區	一〇〇	追肥 (貫)	一〇
成績 (反當收量)	無磷酸區	二〇〇	追肥 (貫)	一〇

粗米	容量	一四八	完全肥料區	六〇
玄米	容量	一三五	完全肥料區	六〇
玄米	容量	一三七	完全肥料區	六〇
成績 (反當收量)	無磷酸區	一四八	完全肥料區	六〇

右成績ニヨルニ反當過磷酸石灰十貫目施用ニヨリ玄米反當一斗八升四合ノ增收ヲ得タリ
 試驗地 早良郡原村大字原小字割町
 地主及作人 高木新藏

試驗地區劃.....
 大正八年麥作 (竹下種) 施肥量 (反當)

堆肥	完全肥料區	二〇〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
下種油	完全肥料區	二〇〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
硫酸加里	完全肥料區	二〇〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇
成績 (反當收量)	無磷酸區	二〇〇	第一回追肥	三〇	第二回追肥	二〇

過磷酸石灰 (一五%) 一〇〇〇
成績 (反當收量) 三〇〇〇

種實容重 (石) 一、三〇五
種實重量 (貫) 四六、三五〇
莖稈重量 (貫) 七一、二五〇

右成績ニヨルニ反當種實三升八合ノ增收ヲ得タリ
大正九年稻作 (神力種) 磷酸ノ肥効著シカラズ尙追テ報告セシ

肥料名 無磷酸區

元肥 (貫) 二〇〇、〇

追肥 (貫) 一〇、五

堆肥 豆粕肥 (四二%)

元肥 (貫) 一七〇、五

過磷酸石灰 (一五%) 一〇〇〇
成績 (反當收量) 三〇〇〇

粗容重量 (貫) 一一二、〇五〇

無磷酸區

完全肥料區 一一三、四〇〇

右成績ニヨルニ反當玄米四升二合ノ增收ヲ得タリ
試驗地 浮羽郡姫治村大字小鹽字櫻田九二番地
地主及作人 佐藤隆夫
試驗地區劃 無磷酸區 五畝步
完全肥料區 五畝步

大正八年麥作 (稈麥)

肥料名 無磷酸區

元肥 (貫) 一五〇、〇

第一回追肥 二荷

第二回追肥 一荷

堆肥 菜種油肥 (四二%)

元肥 (貫) 一五〇、〇

第一回追肥 二荷

第二回追肥 一荷

完全肥料區

堆肥 菜種油肥 (一五%)

元肥 (貫) 一五〇、〇

第一回追肥 二荷

第二回追肥 一荷

成績 (反當收量) 三〇〇〇

無磷酸區

完全肥料區 一八二

右成績ニヨルニ反當過磷酸石灰十貫目施用ニヨリ種實反當一石三斗五升ノ增收ヲ得タリ磷酸ノ肥効顯著ナリ
 本土壤ハ特ニ磷酸分ニ缺乏セルモノナリ
 大正九年稻作 (神力種)

種實容量 (石)	種實重量 (貫)	追肥 (貫)
一、六五〇	六三、〇〇〇	一〇九、五〇〇
一、八三三	五二、〇〇〇	九三、〇〇〇

施肥量 (反當)

肥料名	完全肥料區	無磷酸區
硫酸豆里粕肥 (四二%)	元肥 (貫) 二〇〇、〇〇〇	追肥 (貫) 二〇〇、〇〇〇
硫酸豆里粕肥 (四二%)	四〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇

成績 (反當收量)

種實容量 (石)	種實重量 (貫)	完全肥料區	無磷酸區
一、八三三	六三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
一、七二五	五二、〇〇〇	三二〇、九五〇	三二四、九〇〇
一、八三三	五二、〇〇〇	三二四、九〇〇	三二〇、九五〇
一、八三三	五二、〇〇〇	三二〇、九五〇	三二四、九〇〇

右成績ニヨルニ反當過磷酸石灰十貫目施用ニヨリ玄米反當二斗〇七合ノ增收ヲ得タリ

試驗地 浮羽郡江南村大字高田字木寺一二〇一番地
 地主 矢野友吉
 作人 篠原茂三郎
 試驗地區劃.....
 大正八年麥作 (竹下種)
 施肥量 (反當)
 無磷酸區 元肥 (貫) 二〇〇、〇〇〇
 完全肥料區 五畝步 五畝步

施肥量 (反當)

肥料名	完全肥料區	無磷酸區
硫酸豆里粕肥 (四二%)	元肥 (貫) 二〇〇、〇〇〇	追肥 (貫) 一〇〇、〇〇〇
硫酸豆里粕肥 (四二%)	三〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

成績 (反當收量)

種實容量 (石)	種實重量 (貫)	完全肥料區	無磷酸區
一、八三三	六三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
一、七二五	五二、〇〇〇	三二〇、九五〇	三二四、九〇〇
一、八三三	五二、〇〇〇	三二四、九〇〇	三二〇、九五〇
一、八三三	五二、〇〇〇	三二〇、九五〇	三二四、九〇〇

大正八年

右成績ニヨルニ兩區ノ差種實容量ニ於テハ無シ種實重量ニ於テ完全肥料區多少大ナリ
 大正九年稻作 (神力種) 施肥料量 (反當) 無磷酸區 元肥 (貫) 追肥 (貫)

肥料名	完全肥料區	無磷酸區
大豆	二〇〇〇	一〇〇〇
油粕	二〇〇〇	一〇〇〇
灰	二〇〇〇	一〇〇〇
石	二〇〇〇	一〇〇〇
磷	二〇〇〇	一〇〇〇
硫	二〇〇〇	一〇〇〇
種實重量 (貫)	六七、五〇〇	九三、六〇〇
種實容量 (石)	一、八〇〇	一、八〇〇
種實重量 (貫)	六七、七二五	九三、七五〇

大五八平麥非 (成) 績 (反當收量) 無磷酸區 完全肥料區
 右成績ニヨルニ種實容量ニ於テハ無磷酸區完全肥料區ニ比シ却テ增收ナレドモ種實重量ニ於テハ完全肥料區三貫
 四百八十目大ナリ以テ其充實セルヲ知ルベシ

試驗地 企救郡會根村大字葛原字枝松一四四番地
 地主及作人 龜谷八重藏

試驗地區劃 大正八年麥作 (竹下種) 無磷酸區 五畝步 完全肥料區 五畝步

肥料名	完全肥料區	無磷酸區
大豆	二五〇〇	一五〇〇
油粕	二五〇〇	一五〇〇
灰	二五〇〇	一五〇〇
石	二五〇〇	一五〇〇
磷	二五〇〇	一五〇〇
硫	二五〇〇	一五〇〇
種實重量 (貫)	六二、八〇〇	五七、〇〇〇
種實容量 (石)	一、八〇〇	一、八〇〇
種實重量 (貫)	六四、五〇〇	五七、〇〇〇

大五五此種 種實重量 (貫) 六二、八〇〇 種實容量 (石) 一、八〇〇
 大五五此種 種實重量 (貫) 六四、五〇〇 種實容量 (石) 一、八〇〇

大正九年肥料(名)

堆肥(元肥)

(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

右成績ニヨルニ反當玄米二升二合ノ增收ヲ得タリ磷酸ノ効果著シカラズ

試驗地 柏屋郡志免村大字別府字中ノ坪五八七番地

地主及作人 藤 誠徳三郎 (反當)

試驗地區劃 無加里區 五畝步

大正八年麥作(竹下種)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

右成績ニヨルニ反當硫酸加里五貫加用ニヨリ種實反當七升五合ノ增收ヲ得タリ尙追テ報告セシ

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

堆肥(完全肥料區)

(一五%)
(四二%)

元肥(貫)

追肥(貫)

大堆肥 (一五%) 完全肥料區
 過磷酸石灰 (一七、五)
 大豆 (一〇、五)

堆肥 (一五%)
 過磷酸石灰 (一五%)
 大豆 (一〇、五)
 完全肥料區 (一〇、五)

完全肥料區
 一〇、五

以上成績ニヨルニ反當玄米三升八合ノ增收ヲ得タリ加里ノ肥効著シカラズ
 但シ以上揚ゲタル稻作麥作藝芸試驗ノ收量ハ何レモ四坪刈取り之レヲ反當收量ニ換算セルモノナリ

第一肥料試驗

試驗用ニ供ツタル品種ハ水稻ニアリテハ特別ノ者ヲ除ク外青撰種ニシテ耕種ノ梗概ハ種藝部ノ方法ニ準ゼリ

(一)石灰窒素肥効試驗(第十二回)
 石灰窒素ノ肥効ヲ試驗スル爲、三尺角ノ木框中ニ於テ試培セルモノニシテ大正九年稻作成績次如シ

- | | | |
|-----------------|----------|----------|
| 加用肥料名 | 一框稻重量(瓦) | 一框麥重量(瓦) |
| 石灰窒素、過磷酸石灰、硫酸加里 | 三六三、八 | 三九四、五 |

共ニ石灰窒素、磷酸曹達、炭酸加里、硫酸安母尼亞、過磷酸石灰、硫酸加里、硫酸安母尼亞、磷酸曹達、炭酸加里
 右成績ニヨルニ石灰窒素區ハ何レモ優レリ而シテ石灰窒素、過磷酸石灰、硫酸加里加用區ハ最優良ニシテ硫酸安母尼亞、過磷酸石灰、硫酸加里加用區ハ最劣レリ尙試驗ヲ重ネテ報告セン
 但炭酸加里、炭酸加里及磷酸曹達ハ化學用ノモノヲ使用モリ

(二)窒素肥料連用試驗(第十二回)
 主要窒素肥料連用ノ結果ヲ見ル爲メ三尺角ノ木框中ニ栽培セリ大正九年水稻作ノ成績左ノ如シ

- | | | |
|------|-------|-------|
| 無肥料區 | 一〇八、三 | 一〇五、七 |
| 大豆區 | 三八一、八 | 三七五、八 |
| 紫雲英區 | 三二二、六 | 三一六、五 |
| 大豆區 | 三七六、四 | 三七七、二 |
| 大豆區 | 三七五、一 | 三七九、六 |
| 大豆區 | 三七八、九 | 三八九、〇 |
| 大豆區 | 三二八、三 | 三六九、八 |

以上成績ニヨルニ大豆區最モ良好ナリ尙試驗ヲ重ネテ報告セン

(三)磷酸肥料連用試驗(第十二回)
 主要磷酸肥料連用ノ結果ヲ見ル爲メ直徑二尺ノ陶管中ニ於テ試培セルモノニテ大正九年ノ水稻作成績次ノ如シ

- | | | |
|----|-------|-------|
| 米區 | 一六四、六 | 一七四、七 |
| 米區 | 一四五、九 | 一七〇、八 |
| 米區 | 一二二、八 | 一三八、四 |
| 米區 | 一一九、〇 | 一三三、五 |

無磷酸區

以上成績ニヨルニ米糠最モ良好ニシテ過磷酸石灰區最劣等ナリ尙試驗ヲ重ネテ報告セシ
(四) 石灰連用試驗 (第十二回)
永年ニ於ケル石灰連用ノ地力ニ及ボス影響ヲ試驗センガ爲メ三尺角ノ木框ニ試培セリ大正九年水稻作成績ヲ示セバ次ノ如シ

無石灰區	一四〇、三	一六八、六
石灰廿五貫區	二九三、七	二九二、六
石灰五十貫區	三三〇、四	二九六、四
石灰百貫區	三三三、五	三〇二、八
石灰二百貫區	三三九、三	二九二、八
石灰三百貫區	三五九、三	三〇九、二
無石灰區	一八一、三	一五二、六

以上成績ニヨルニ石灰二百貫區ハ成績最モ良好ナリ尙試驗ヲ重ネテ報告セシ
(五) 加里肥料肥効試驗 (第二回)
諸種加里肥料ノ肥効ヲ試驗スル爲メ直徑二尺ノ陶管ニ試培セリ
供試品種神力種ニ供試加里肥料分拆成績次ノ如シ

今印加里肥料甲號區	二九、〇二	一六九、九
今印加里肥料乙號區	八、六〇	一四四、八
木加里區	一、二一	一七一、五
肥料用硫酸加里區	一、二一	一八五、六
木加里區	三、七五	一八八、九
共通肥料トシテ硫酸安母尼亞及過磷酸石灰ヲ使用セリ而シテ三要素ノ施肥量ハ各反當三貫宛トセリ	三、七五	二四、六

大正九年稻作成績ヲ示セバ次ノ如シ

今印加里肥料甲號區	一四八、一	一六九、九
今印加里肥料乙號區	一七〇、三	一四四、八
肥料用硫酸加里區	一五九、三	一七一、五
化學用硫酸加里區	一五九、三	一八五、六
木加里區	一三〇、五	一八八、九
無加里區	一三〇、五	二四、六

以上成績ニヨルニ今印加里肥料乙號區成績最モ良好ニシク今印加里肥料甲號區最モ劣レリ尙重ネテ試驗報告
以上掲ゲタル框及陶管試驗ニ供用セル肥料成分含量ヲ記載スレバ次ノ如シ

硫酸安母尼亞	二〇、〇九	一六六、六
石灰	一八、五〇	九〇、〇
大豆	九、二七	八〇、〇
大豆	六、三三	九二、二
大豆	五、二一	四二、二
大豆	三、一三	三六、二
大豆	二、六九	二二、二
硫酸加里肥効試驗 (第二回)	二四、〇三	三二、〇
本場土壤ニ於テ硫酸加里ヲ施用セルモノト然ラザル場合トノ收量ノ相違ヲ比較シ尙永年ノ間ニ於ケル成績ヲ得ルヲ目的トス	一五、五〇	〇〇、〇

本試驗施行前ニ土壤ヲ採集シ分拆セル結果次ノ如シ

水	17.9	弱酸	0.3
反	15.9	0.0	
腐	4.3	0.0	
酸	3.5	0.0	
植	4.6	0.0	
化	8.6	0.0	
石	5.4	0.0	
礬	4.7	0.0	
鐵	5.9	0.0	
質	4.7	0.0	
度	5.9	0.0	
應	4.7	0.0	
分	5.9	0.0	
中	4.7	0.0	
(無水物)	5.9	0.0	
室	0.0	0.0	0.0
磷	0.0	0.0	0.0
加	0.0	0.0	0.0
有	0.0	0.0	0.0
有	0.0	0.0	0.0
硫	0.0	0.0	0.0
効	0.0	0.0	0.0
効	0.0	0.0	0.0
加	0.0	0.0	0.0
磷	0.0	0.0	0.0
素	0.0	0.0	0.0
酸	0.0	0.0	0.0
里	0.0	0.0	0.0
酸	0.0	0.0	0.0
里	0.0	0.0	0.0
酸	0.0	0.0	0.0

試驗地區劃.....

大正八年麥作 (竹下種)

成 績 (反當收量)

完全肥料區	一畝歩	100.5
無加里區	一畝歩	95.2

右成績ニヨルニ硫酸加里ノ肥効著シカラズ

大正九年稻作 (神力種)

成 績 (反當收量)

完全肥料區	一畝歩	100.5
無加里區	一畝歩	95.2

右成績ニヨルニ兩區テ差六升二合ナリ尙試驗ヲ重ネテ報告セン

(七) 有機質及無機質肥料連用試驗 (第七回)

有機質及無機質肥料ノ地力ニ及ボス影響ヲ試驗セントス

試驗地區劃.....

大正八年麥作 (竹下種)

成 績 (反當收量)

有機質肥料區	二畝歩	100.5
無機質肥料區	二畝歩	95.2

右成績ニヨルニ有機質肥料區ニ於テ反當種實一斗二升七合ノ增收ヲ得タリ

大正九年稻作 (神力種)

成 績 (反當收量)

有機質肥料區	一畝歩	100.5
無機質肥料區	一畝歩	95.2

右成績ニヨルニ水稲ニ於テハ無機質肥料區ニ於テ反當玄米一斗一升ノ增收ヲ得タリ尙試驗ヲ重ネテ報告セン

(八) 過磷酸石灰肥効試驗 (第二回)

過磷酸石灰ヲ施用セルト否ラザル場合トノ收量ノ相違ヲ比較シ尙永年ノ間ニ於ケル成績ヲ得ルヲ目的トス

試驗地區劃.....

大正八年麥作 (竹下種)

成 績 (反當收量)

完全肥料區	一畝歩	100.5
無磷酸區	一畝歩	95.2

土壤分拆成績ハ硫酸加里肥効試驗地ト同一ナルヲ以テ省略ス

大正八年種實容量(石) 無磷酸區 一九六
 完全肥料區 四〇、〇五四
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八

大正八年種實容量(石) 無磷酸區 一九六
 完全肥料區 四〇、〇五四
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八

大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八
 大正九年種實重量(石) 一、一七二
 大正九年種實重量(貫) 四四、八八八

區名	第一回調査		第二回調査	
	草丈(尺)	分蘗數(本)	草丈(尺)	分蘗數(本)
無石灰完全肥料區	二・二八	二五	三・四五	四二
元肥施用區	二・一九	二六	三・二五	四五
七月十七日追肥區	二・二一	二四	三・三三	四五
七月二十七日追肥區	二・二七	二六	三・四一	四五
八月六日追肥區	二・一九	二五	三・二八	四六
八月十六日追肥區	二・二四	二六	三・三五	四四

第三 不良土改良試験

(一) 新田原果樹肥料試験
 試驗地 京都都仲津村
 地主 柏木勘八郎
 管理人 谷次郎
 供試反別 三反歩

收量調査ハ病害ノ爲メ不明ナリキ尙試験ヲ重ネテ報告セシ
 試驗地區劃……………
 無石灰完全肥料區
 石灰加用無磷酸區
 石灰加用完全肥料區
 目的 不良土ニ於ケル果樹ニ對スル磷酸及石灰ノ効果ヲ試験スルニアリ

施肥量(一本當)
 無石灰完全肥料區

大豆	粕	三百目	過磷酸石灰 (一五%)	百五十目
硫酸加里	灰	四十目	過磷酸石灰	灰
石灰加用無磷酸區	施肥量 (一本當)	三百目	大豆	粕
石灰加用完全肥料區	施肥量 (一本當)	四十目	三百目	
大豆	粕	三百目	過磷酸石灰	灰
硫酸加里	灰	四十目	灰	三百目
石灰加用完全肥料區	施肥量 (一本當)	四十目		

果樹一本ニ於ケル枝ノ總延長 (十六本平均) 長十郎

大正九年秋

石灰加用完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	一九六二	三三三
石灰加用無磷酸區	枇	杷 (十二本平均)	二四九三	三三三
無石灰完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	〇九六九	三三三
石灰加用完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	一〇三八	三三三
石灰加用無磷酸區	枇	杷 (十二本平均)	九八八一	三三三
無石灰完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	九一二四	三三三

右ノ成績ニヨルニ石灰ノ効果ガ生育上著シキヲ認ム

(二) 黒土果樹肥料試驗

前年ヨリ引續キ新田原ニ於ケルト同一設計ニヨリ黒土ニ對スル石灰及磷酸ノ肥効試驗ヲ行ヘリ
其ノ成績左ノ如シ

果樹一本ニ於ケル枝ノ總延長 (二十本平均)

大正九年秋

石灰加用完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	一四二四	三三三
石灰加用無磷酸區	枇	杷 (十二本平均)	一一七五	三三三
無石灰完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	一四一七	三三三
石灰加用完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	一〇〇四	三三三
石灰加用無磷酸區	枇	杷 (十二本平均)	九二九六	三三三
無石灰完全肥料區	枇	杷 (十二本平均)	八二〇八	三三三

(三) 砂地改良試驗 (第七年目)

前年ニ引續キ粕屋郡古賀驛附近ノ砂地ニ於テ落花生及小麥ノ試作ヲ行ヒツ、アリ其成績左ノ如シ

大正八年冬作 (赤坊主)

種實容量 (石)	〇、六六六
種實重量 (貫)	二五、三〇八
莖稈重量 (貫)	二八、八〇〇
種實容量 (石)	二、六一〇

畜産之部

右成績ニヨルニ益々良好ニシテ落花生ノ如キ年ヲ重ヌルニ從ヒ充實ノ度ヲ増加セリ
 種實重量(貫) 三九、〇〇〇
 稈重量 四〇、五〇〇

第四分拆成績

(一) 依頼分拆
 大正九年度依頼分拆成分數ハ五八ニシテ其主ルモノノ成績ヲ掲グレバ左ノ如シ
 供試品百分中

物品名	窒素	燐	酸	加里	依頼者
大豆	五・三五	〇・四〇	一・一〇	二六・八八	武田新
精製油粕	三・九四	〇・三八	一・一〇	二六・八八	田中
粗製油粕	三・三二	一・一〇	一・一〇	二六・八八	村上
印度魚粉	五・五四	一・一〇	一・一〇	二六・八八	永田
煙草	〇・二四	〇・〇三	〇・〇三	一・一〇	花田
石灰	〇・二四	〇・〇三	〇・〇三	一・一〇	永田
石加用液	〇・二四	〇・〇三	〇・〇三	一・一〇	永田
鋸屑	一・八九	三・二三	一・一〇	一・一〇	永田
鮮魚	六・七二	三・二三	一・一〇	一・一〇	永田
大豆	一・八九	三・二三	一・一〇	一・一〇	永田
木灰	二・四七	〇・六七	七・〇九	七・〇九	遠賀
海草	二・四七	〇・六七	七・〇九	七・〇九	三谷
生草	四・二五	二・〇六	四・二七	一・三五	大松
蠟	四・二五	二・〇六	四・二七	一・三五	本行

數字ノ記載ナキハ分拆セザルモノナリ
 (二) 其他依頼ニヨリ鑛毒ノ有無ヲ檢スル爲メ發芽試験ヲ行ヒタルモノ貳点アリ
 本場試験用土壤肥料及試作物等ノ分拆成分數ハ三百〇三ナリ

畜産之部

種實重量 (貫)
 右成績ニヨルニ益々良好ニシテ落花生ノ如キ年ヲ重スルニ從ヒ充實ノ度ヲ増加セリ
 三九、〇〇〇
 四〇、五〇〇

第四分拆成績

(一) 依頼分拆

大正九年度依頼分拆成分數ハ五八ニシテ其主ルモノノ成績ヲ掲グレバ左ノ如シ
 供試品百分中

物品名	窒素	燐	酸	加里	依頼者
大豆粕	五・三五	〇・四〇	一・三〇	二六・八八	武田中
精製油粕	三・九四	〇・四〇	一・三〇	二六・八八	武田中
粗製油粕	三・三二	一・三八	一・三〇	二六・八八	武田中
魚粉	五・五四	一・二四	一・三〇	二六・八八	武田中
煙灰	〇・二四	〇・〇三	〇・〇三	一・八七	結田永
石灰	〇・二四	〇・〇三	〇・〇三	一・八七	結田永
朝鮮魚粉	一・八九	三・二三	三・二三	一・八七	結田永
大豆	六・七二	三・二三	三・二三	一・八七	結田永
木灰	二・四七	〇・六七	〇・六七	七・三〇	遠賀永
海草	二・四七	〇・六七	〇・六七	七・三〇	遠賀永
生骨	四・二五	二〇・五六	四・二七	一・三五	大谷カ
鐵粉	四・二五	二〇・五六	四・二七	一・三五	大谷カ

數字ノ記載ナキハ分拆セザルモノナリ
 其他依頼ニヨリ鑛毒ノ有無ヲ檢スル爲メ發芽試験ヲ行ヒタルモノニ貳点アリ
 (二) 場用分拆
 本場試験用土壤肥料及試作物等ノ分拆成分數ハ三百〇三ナリ

畜産之部

業務ノ主ナルモノハ種禽種卵及仔豚ノ配布トシ併テ之レニ關スル須要ナル試驗ヲ施行セリ

第一 豚

副業獎勵ニ兼テ自給肥料生産ノ目的ヲ以テ飼養容易ニシテ且ツ肉質善良ナルパークシャー種ヲ繁殖育成シ仔豚ノ拂下ヲ行ヘリ

(一) 本年度配布數 四四頭

(二) 種豚種付 優良豚繁殖ヲ計ランガタメ無代ニテ一般當業者ノ種付ニ應ゼリ

本年度種付回数 十五回

(三) 飼料 本年度内ニ使用セシ飼料配合左ノ如シ

一頭一日分量	大麥	米糠	糠	醬油粕	大豆粕	其ノ他根菜類及礦物質
親豚	一升	一升五合	一升	二百匁	二百匁	若干
妊豚	一升	一升	一升五合	二百匁	二百匁	若干
仔豚	五合	五合	五合	五十匁	五十匁	若干

第一 家 禽

農家ニ最モ適切ナル副業的養鶏ヲ獎勵シテ益々雞數ノ増加ヲ圖リ且ツ品質改善ノ目的ヲ以テ實用ニ適スル種

(一) 類即チ白色レグホーン、黑色ミノルカ、名古屋ノ三種ヲ撰擇シ種禽種卵ノ配布ヲ行ヘリ

本年度内配布數左ノ如シ

年 月	産卵總數	種卵配布數	同箇所	種禽配布數	同箇所
大正九年四月	四八四	三九七	二九	二一	六
同 五月	五〇一	三二〇	一五	二一	六
同 六月	四四三	二四六	一七	三〇	八
同 七月	三三一	一九七	一二	二〇	二
同 八月	三〇二	二〇六	一四	一七	五
同 九月	二一三	一三六	九	一四	六
同 十月	一九六	一四四	一一	一五	二
同 十一月	二〇九	一〇四	六	一七	五
同 十二月	一九四	七七	六	一四	四
大正十年一月	三〇五	一一八	七	一〇	三
同 二月	三四六	六〇	四	二四	三
同 三月	五七一	三二二	三二	六三	五
計	四〇九五	二・三二七	一六二	二六六	五五

(二) 孵化育雛

本年度施行回数

方法	回数	産卵總數	種卵配布數	同箇所
(イ) 孵化	サイフア式孵卵器 (農商務省ヨリ交付ノモノ)	百四十卵入	壹臺	二回 (九月、二月)
人工法	伴田式孵卵器	百二十卵入	壹臺	二回 (九月、三月)
自然法	名古屋種母鶏	拾羽	二回 (三、四月)	
(ロ) 育雛				

(三) 飼料

本年度ニ常時給與セル種禽飼料配合左ノ如シ

飼料	一日十羽分量
米糠	五合
米	四合
小麦	二合
魚粉	三十分
大豆	四合
青 菜	百匁
貝 殼	三勺
大 麥	四合

備考

大麥ハ前夜ヨリ浸積セルモノヲ播餌(夕餌)トナシ其他ノモノハ煮沸セル魚粉ト共ニ調製シテ練餌トナシ食器ニ入レテ朝晝ノ二回ニ分與ス飲料水ハ常ニ新鮮ナルモノヲ鉢ニ入レテ備エテ置ク

(四) 家禽管理

雨天或ハ寒氣甚ダシカラザル限リハ毎日舍外ニ出シテ運動セシメ雞舍及運動場ハ毎日午前中ニ一回奇麗ニ掃除シ尙鶏舍ハ春秋ノ二回ニクレオリン五十倍液ヲ以テ消毒ヲ行ヒテ病害ノ發生ヲ防ギ尙砂浴場ノ土ハ二三日毎ニ土換又ハ打起ヲナシテ砂浴ニ便ナラシメ且ツ驅虫濟(石灰四硫黃華一ノ割合ニテ混ジタルモノ)ヲ撒布シテ羽虱ノ驅除ヲ行フ其他撻扞器具類ハ時ニ日光消毒或ハ洗濯シテ清潔ニス

(五) 種類試験

本年度ニ於ケル成績左ノ如シ

種類	体質	繁殖性	産卵早晚	一ヶ月一羽平均産卵數	平均一個卵量	雄重	雌重
白色レグホーン	健	乏	早	一五三個	一五・八	五九〇匁	四一〇
褐色レグホーン	健	乏	早	一一九	一三・七	五四〇	四二〇
黑色ミノルカ	健	乏	稍早	一三八	一七・〇	九一九	八一二
名古屋	最健	強	稍早	一三一	一四・九	九八三	七三六

名古屋對白色レグ
ホーン一代雜種
最健 精強 早 一五八 一四・七 六五三 五二二

(六) 雄ヲ配セザル雌ノ産卵能力試験
本年ハ三歳鶏ノ一代雜種ニ依ツテ雄ヲ配スルモノト雄ヲ配セザルモノトノ産卵能力ヲ比較セシニ前年度ト同ジク雄ヲ配セザル雌ノ産卵ハ雄ヲ配スルモノヨリ産卵力劣ラズ健康極メテ良好ニシテ三歳ニ達シテモ無配雄成績可良ナルヲ認メタリ

(七) 鶏卵貯藏試験
有精卵ト無精卵ノ貯藏力ヲ比較センガタメ糲糠上ニ併列セルモノ及硅酸曹達液(水三升硅酸曹達一封度)ニ浸積セルモノヲ調査セシニ何レモ無精卵ハ有精卵ニ比シ耐久力ニ富ム

(八) 産卵増進試験
純粹種ト雖モ各個体ニ依ツテ能力ニ優劣アルヲ以テ冠、体型、恥骨、肛門壁、羽毛等ヲ調査ノ上産卵能力ヲ試験シ多産鶏ノ作出ヲ行ヘリ之レニ使用セシ羽數左ノ如シ

白色レグホーン 十羽
名古屋 十羽

(九) 委託試験
本場ニ於ケル種禽種卵ノ不足ヲ補ナタメ左記ノ所ニ依託シ名古屋種ノ優良ナルモノヲ撰擇シ配布セリ

三瀨郡 三又村 三谷 高音

病蟲害之部

名古屋對白色レガ
ホーン一代雜種
最健
精強
早
一五八
一四・七
六五三
五二二

(六) 雄ヲ配セザル雌ノ産卵能力試験
本年ハ三歳鶏ノ一代雜種ニ依ツテ雄ヲ配スルモノト雄ヲ配セザルモノトノ産卵能力ヲ比較セシニ前年度ト同ジク雄ヲ配セザル雌ノ産卵ハ雄ヲ配スルモノヨリ産卵力劣ラズ健康極メテ良好ニシテ三歳ニ達シテモ無配雄成績可良ナルヲ認メタリ

(七) 鶏卵貯藏試験
有精卵ト無精卵ノ貯藏力ヲ比較センガタメ靱糠上ニ併列セルモノ及硅酸曹達液(水三升硅酸曹達一封度)ニ浸積セルモノヲ調査セシニ何レモ無精卵ハ有精卵ニ比シ耐久力ニ富ム

供一試卵
名古屋雌對白色レガホーン雄ノ一代雜種.....無精卵
名古屋.....有精卵

(八) 産卵増進試験
純粹種ト雖モ各個体ニ依ツテ能力ニ優劣アルヲ以テ冠、体型、恥骨、肛門壁、羽毛等ヲ調査ノ上産卵能力ヲ試験シ多産鶏ノ作出ヲ行ヘリ之レニ使用セシ羽數左ノ如シ

白色レガホーン
名古屋
十羽
十羽
委託試験
本場ニ於ケル種禽種卵ノ不足ヲ補ナタメ左記ノ所ニ依託シ名古屋種ノ優良ナルモノヲ撰擇シ配布セリ

三潞郡三又村 三谷高音

病蟲害之部

病蟲害之部

第一 稻白葉枯病對品種比較試驗

- 一、試驗目的 前年度ヨリノ繼續試驗ニシテ左記品種ノ稻白葉枯病ニ對スル抵抗力ノ強弱ヲ檢セントス
- 一、供試品種 檉棒、旭、山北坊主、赤神力、九晚一號、味坂中稻六號、日之出撰、神力龜治二號、福岡晚
- 一、試驗場所 三井郡味坂村大字八坂牟田豊太郎氏所有田
- 一、肥料 本場標準肥料ニ依ル
- 一、試驗區面積 各區一畝
- 一、成績

區名	被害程度	發病ノ割合	備考
檉棒	ナ	被害始トナシ	中
旭	ナ	被害始トナシ	晚
山北坊主	ナ	被害始トナシ	晚
赤神力	ナ	被害始トナシ	晚
九晚一號	ナ	被害始トナシ	晚
味坂中稻六號	ナ	被害始トナシ	中
日之出撰	輕	○・二	晚
福岡晚稻四號(一)	ナ	被害始トナシ	晚
福岡晚稻四號(二)	ナ	被害始トナシ	中
神力龜治二號	ナ	○・三五	晚ノ早
標準區改良神力	輕	○・三五	

備考 發病割合ハ被害非常ニ輕微ナレバ被害株數歩合ヲ示ス
一、收量表

區名	一畝一升ノ重量	畝當收量	畝當重量	畝當莖重量
檜	二二〇	七・五五〇	一六・六五〇	三六・二〇〇
旭	二六五	七・一〇〇	一八・四五〇	四〇・九五〇
山	二五五	七・六〇〇	一九・五〇〇	四四・三〇〇
赤	二七五	六・五三〇	一八・二五〇	四七・六〇〇
九	二五五	七・四五〇	一八・七〇〇	四四・九〇〇
味	二四五	七・一五〇	一七・五五〇	四四・四〇〇
日	二四〇	六・八二〇	一五・一〇〇	三四・一〇〇
福	二三五	七・四四〇	一七・二五〇	四〇・八〇〇
福	二五五	七・四八〇	一七・三〇〇	四一・〇〇〇
神	二六五	六・七三〇	一七・八五〇	四二・七〇〇
標	二七〇	六・七二〇	一七・七〇〇	四三・二五〇

以上試驗ノ成績ニ依レバ
山北坊主、日之出撰、改良神力等ハ抵抗力大ナラズシテ前年度試驗ニ一致スルヲ見ル其他ニ於テハ殆ド被害ヲ認メズ之本年度稻作期間ニ於ケル天候ハ極メテ良好ニシテ七月上旬ノ挿秧當初ハ降雨アリシモ同月中旬ヨリ八月中旬マデ殆ド降雨ナカリシ爲メ稻ハ莖葉共ニ非常ニ強靱ニ發育シ殆ド病害發生ヲ認メザリリシニ八月中旬ヨリ下旬ニ涉リ屢々降雨アリテ曇天勝チナリシカバ八月廿七日頃ヨリ二三區ノ發病ヲ見ルニ至リシモ被害輕微ニシテ例年ニ比ス可クモナシ九月十日頃ニハ被害稍々進ミシト雖一區(一畝步)ニ僅十株乃至二、三十株位ノ發病ヲ見ルニ止マル程ナリシカバ本年度ニ於テ發病シタル品種ハ本病ニ對シテ抵抗力甚

ダ微弱ナリト見テ可ナレ共尙收量其他ヨリ推セバ本試驗ハ年數ヲ重ヌルニ非ザレバ確言スルヲ得ズ

第一、白菜類腐敗病豫防試驗

目的 白菜類腐敗病豫防トシテ藥劑撒布ノ効果ヲ檢知セントス
施行月日 大正九年十月二十二日
場所 本場 蔬菜園
供試品種 包頭連白菜
設計

區番	藥劑名	反當撒布量	一畦ニ對スル撒布量	一株ニ對スル撒布量
一	硫黃華撒布區	五	一・一〇	二・二〇
二	消石灰撒布區	五	一・一〇	二・二〇
三	木灰撒布區	四	一・七〇	一七・四
四	銅石鹼液撒布區	二	一・五	八・五(九九〇)
五	標準	一	一・五	一

備考

一、已ニ被害シテ下葉ノ腐敗セルモノハ之ヲ除去シタル後ニ撒布セリ
二、撒布ノ回数ハ一回トス

區番	生育株數	被害株數	同率上百分率
一	四九	三六	七三・四
二	四九	三八	七七・五

三	五〇	三二	六四・〇
四	五一	三三	六四・七
五	四九	四一	八三・六

右成績ニ依レバ

藥劑一回ノミ撒布スルモ豫防ノ効果ヲ上ゲ得ザル事ヲ知ル
 尙本試験ハ數年繼續試験スルニ非ザレバ何レノ藥劑ハ果シテ効果アルヤハ言スルヲ得ズ

第三、白菜類腐敗病被害試験

目的 如何ナル品種ハ本病ニ對シ耐病性强キカヲ知ラントス

調査日 大正九年十月二十日
 場所 本場白菜類模範栽培試験地

番 號	品 種 名	調 査 株 數	被 害 株 數	同 上 百 分 率
一	茨城	四九	一三	二六・五
二	芝罘	五〇	一九	二二・〇
三	金州	五〇	一一	二二・〇
四	直隸	四九	一一	二二・四
五	包頭	五〇	一一	二二・〇
六	本場	六六	三九	一八・〇
七	野崎	六六	三九	四・五

八	結球山東	六七	四	五・九
九	愛知	六七	六	八・九

備考 少シニテモ病斑ヲ認メタルモノハ被害株トシテ計上セリ
 以上ノ試験ニ依リバ 結球山東 愛知 野崎 白菜類模範栽培試験地
 野崎白菜結球山東菜ハ被害最モ少ク愛知白菜本場白菜金洲白菜ハ之ニ次ギ包頭蓮白菜直隸白菜芝罘白菜茨城白菜最モ被害ヲ見タリ本試験ハ尙數年繼續セントス

第四、銅石鹼液調合量決定試験

目的 本試験ハ銅石鹼液原液調製ニアタリ各種石鹼ニ依リ硫酸銅ト調合スベキ量ヲ異ニスルモノナレバ其最適量ヲ決定セントスルニアリ

供試石鹼ノ種類及硫酸銅 福岡市内ニ於テ一般ニ求メラレ易キ種類ヲ比較的多種類ニ渡リ聚集セリ今其種類及單價ヲ左ニ示セバ

1	マール	浮石鹼	〇・二三〇
2	シスター	浮石鹼	〇・二五〇
3	キヤロ	浮石鹼	〇・一八〇
4	スロ	浮石鹼	〇・二五〇
5	ピノ	浮石鹼	〇・三〇〇
6	長崎	石鹼	〇・二五〇
7	マール	石鹼	〇・二五〇
8	松印	石鹼	〇・〇七〇
9	中印	長形洗濯石鹼	〇・〇五〇
10	粉末	石鹼 (五〇目)	〇・一〇〇

11	ベストイレイト石鹼第五六號	〇・二四〇
12	スミンノエ石鹼	〇・二〇〇
13	サインダ浮石鹼	〇・一六〇
14	第九八號石鹼	〇・一六〇
15	セシタ浮石鹼	〇・一六〇
16	モト浮石鹼	〇・一六〇
17	角柱洗滌石鹼	〇・一八〇
18	鯨油石鹼	〇・二五〇
19	アルボース石鹼	〇・二〇〇
20	藥用石鹼	〇・二〇〇
21	福姫印粉末石鹼(百目)	〇・四〇〇

硫酸銅ハ普通工業用ノモノヲ用ヒタリ

試驗ノ方法 先ヅ硫酸銅及石鹼ヲ左記 割合ニテ一%ノ水溶液ヲ別々ニ作りタリ此際用ヒタル水ハ井水ヲ煮沸ンテ熱湯ノ儘用ヒタリ

1 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
2 硫酸銅 六〇立方寸
水 六〇立方寸
3 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
4 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
5 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
6 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
7 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
8 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
9 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
10 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
11 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
12 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
13 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
14 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
15 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
16 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
17 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
18 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
19 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
20 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸
21 硫酸銅 一八〇立方寸
水 一八〇立方寸

成績

番	號	石鹼名	硫酸銅一%液ニ對スル石鹼一%液ノ倍量
一	一	マルハン浮石鹼	四倍乃至四倍半
二	二	シスノ浮石鹼	四倍乃至四倍半
三	三	キヤロル浮石鹼	三倍乃至四倍
四	四	スワソン浮石鹼	三倍乃至四倍
五	五	ピノア浮石鹼	三倍乃至四倍
六	六	長崎浮石鹼	三倍乃至四倍
七	七	マルセル石鹼	三倍乃至四倍
八	八	松印マツダ石鹼	三倍乃至四倍
九	九	牛印長形洗滌石鹼	五倍乃至六倍
一〇	一〇	粉末石鹼	六倍
一一	一一	ベストイレイト石鹼第五六號	七倍
一二	一二	スミンノエ石鹼	三倍乃至四倍
一三	一三	ウインダ浮石鹼	三倍乃至四倍
一四	一四	第八九八號石鹼	三倍乃至四倍
一五	一五	セシタ浮石鹼	四倍
一六	一六	モト浮石鹼	三倍乃至四倍
一七	一七	棒狀洗滌石鹼	五倍
一八	一八	鯨油石鹼	十
一九	一九	アルボース石鹼	六倍
二〇	二〇	藥用石鹼	三倍乃至四倍
二一	二一	福姫印粉末石鹼	四倍乃至五倍

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
九.七	九.六	九.五	九.四	九.三	九.二	九.一	九.〇	九.九	九.八	九.七	九.六	九.五	九.四	九.三	九.二	九.一	九.〇	九.九	九.八
八.六	八.五	八.四	八.三	八.二	八.一	八.〇	七.九	七.八	七.七	七.六	七.五	七.四	七.三	七.二	七.一	七.〇	七.九	七.八	七.七
快晴	快晴	雨	曇	晴	晴	曇	曇	快晴	晴	曇	快晴	雨	曇	雨	雨	曇	雷雨	晴	曇
九.四	九.〇	七.四	七.四	七.九	七.五	七.二	七.〇	七.四	七.九	七.四	七.八	七.七	七.二	七.三	七.三	七.五	八.〇	八.八	八.〇

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
九.三	九.二	九.一	八.三	八.〇	八.元	八.八	八.七	八.六	八.五	八.四	八.三	八.二	八.一	八.〇	八.九	八.八	八.七	八.六	八.五
七.三	七.〇	七.九	七.八	七.七	七.六	七.五	七.四	七.三	七.二	七.一	七.〇	七.九	七.八	七.七	七.六	七.五	七.四	七.三	七.二
晴	曇	快晴	晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇	晴	雨	晴	雨	雨	曇	雨	雨	雷雨	晴
八.六	八.〇	八.三	八.一	八.五	九.〇	九.五	九.〇	八.五	八.八	八.九	八.九	八.六	八.三	七.三	七.六	七.二	七.四	七.六	七.五

二十日
電燈故障

自九・一一日 至九・一五日	一七	一六	一五	一一					
自九・一六日 至九・二〇日	一五	三三	三一	四四					
自九・二一日 至九・二五日	一五	一一	二一	四四					
自九・二六日 至九・三〇日	一五	一一	一四	一一					

備考

- 一、電燈十燭燐点火
- 一、水盤ノ直徑一尺五寸

第一、螟蛾發生期調査

(大正九年度螟虫試験地ニ於ケルモノ)

螟虫試験地ニ誘蛾燈ヲ点火シ本調査ヲ施行セバ燈火ノ有無ニヨリ飛翔スル螟蛾今ニ差異ヲ生ズルコトハ免ガレ難キ事實ニシテ而モ限定セラレタル比較の面積内ニ於テ調査試験スベキ現日單へ本試験ノミニ止マラザレバ勢ヒ他ノ試験ニ及ボス影響ナカラザルヲ以テ試験地内ノ点火ヲ本年度ハ一切撤回シ道路溝渠等ニテ局部ノ狀件ニ差アルハ止ムヲ得ザルモ事更ラ点火ノ如キヲ以テ局部ノ差異ヲ避ケテ他ノ試験ヲ遂行シ本調査ハ事務所内ノ適當ナル位置ヲ選定シテ点火シ調査セリ然レドモ附近ハ本田ノノミナレバ苗代期間内ノ調査ハ地元農民ノ設置セル共同苗代ニ其了解ヲ得テ三燈点火調査シ前年度及ビ苗代地ニアラザル位置トノ比較資料ニ供セリ參考ノタメ事務所内ニ設置ノ誘蛾燈第一號燈ハ点火位置ヲ地上一間半トシ第二號燈ハ普通(地上二尺本出移植後ハ葉上七八寸)ノ位置トシ各拾燭光ヲ点火シ又共同苗代ニ設置ノ誘蛾燈第三號及第四號燈ハ拾燭光ヲ点火第五號燈ハ五燭光トシ燈火ノ位置ハ第二號燈同様普通トセリ

以上ノ設備ノ下ニ本年度ノ螟蛾發生期ヲ調査セシニ第一回發生初期ノ二化螟虫ハ六月五日ニシテ第二號燈ニ

雄蛾ニ第四號燈ニ雄蛾一第五號燈ニ雄蛾一飛來セリ即チ螟蛾ノ雌雄ニ拘泥セザレバ二化螟虫ノ第一回發生初期ハ苗代ノ遠近並ニ光力ノ差ヲ認メズ第一號燈ハ九日間延期セシモ第三號燈ニ對照セバ其差ヲ認メズシテ發生初期ニ其何レニモ甚ダシキ差ヲ認メザルガ如シ三化螟虫ニ五月拾七日ニシテ第三號燈ニ雄蛾一飛來ル第一號燈ニ五月貳拾日ニ雄蛾三第二號燈五月貳拾貳日雄蛾ニ第四號燈ニ同日雌蛾三雄蛾五第五號燈モ同日雄蛾七飛來セリ三化螟虫ニ於テハ苗代ノ遠近並ニ燈火ノ高低ニヨリ三日間遅速ヲ生ゼシモ第二號燈第四號燈第五號燈ニ對シテハ反テ第壹燈ニ二日間早ク飛來セルヲ見レバ二化螟虫同様其差ヲ認メザルガ如シ

大正八年度ニ於テハ二化螟虫發生初期ニ於テハ創立初半ニシテ未ダ調査ノ設備整ハズシテ其遅速ヲ比較對照スルコト能ハザルヲ遺憾トス

第一回發生盛期ノ二化螟虫ハ七月八日ニシテ第壹燈ニ雌蛾拾參雄蛾五二計六五第貳號燈モ同日ニシテ雌蛾三〇雄蛾一三〇計百六拾即チ約二倍半飛來セリ然ルニ第參號燈乃至第五號燈即チ苗代地ニ点火調査セシモノハ本田移植後(七月以後ハ)ハ地元農民等ノ誘蛾燈消火セシヲ以テ調査用ノ誘蛾燈モ又撤回シ爲メニ各燈ニツキ最盛期ヲ知ルコト能ハザルモ第二號燈ノ位置三方本田ニ面シ然モ第一回發生期ヲ通ジテ絶對多數ナルヲ以テ本年度ノ最盛期ト認メテ毫モ支障ナカラシ第一號燈第二號燈ノ飛來螟蛾數ニ多少ノ差ハアリト雖モ盛期トシテハ燈火ノ高低關係ナキガ如シ

大正八年度ニ於テ調査セシ最盛期ハ六月三十日ニシテ一燈ノ飛來數ハ雌蛾四八、四雄蛾三九、八計八八、二飛來シ本年度ヨリ八日早キモ飛來數ハ第二號燈比スレバ約半數ニシテ第壹號燈ヨリニ三蛾多キニ過ギズ三化螟虫ハ第一號燈ニ五月二十二日ニ雄蛾三雌蛾四計七飛來シ第三號燈ハ六月九日ニ雌蛾三十三雄蛾一計三四飛來シ第四號燈ニ六月二日雌蛾ニ雄蛾二二計三四飛來シ第五號燈モ同シク六月二日ニシテ雄蛾一二飛來セリ三化螟虫ノ第一回發生盛期ハ己々ニシテ直チニ斷定シ難キモ苗代ノ遠近ニハ相當左右セラル、ガ如ク今後ノ調査研究ヲ要ス大正八年度ニ於テハ前記ノ通り五月末日ヨリ調査ニ着手セシヲ以テ盛期ヲ斷定シ難ク從ツテ其遅速多少ヲ比較對照スルコト能ハス

第一回發生終期ノ二化螟虫ハ七月廿六日ニシテ第一號燈ニ雄蛾二第二號燈ニ雄蛾四飛來セルヲ以テ終期モ又燈火ノ高低ニハ左右セラレザルガ如シ大正八年度ニ於テ調査セシ終期ハ七月三十日ニシテ本年ヨリ四日遅カ
 リキ三化螟虫ハ六月廿四日ニシテ第一六號燈ニ雄蛾一飛來シ第二號燈ハ六月拾九日ニ雄蛾一第叁號燈ハ六月十八日ニ雄蛾一第四號燈ハ五月拾日ニ雄蛾一雄蛾五第五號燈ハ六月十四日ニ雄蛾一雄蛾一飛來セリ此レニヨリ之ヲ觀レバ三化螟虫ハ高所ニ点火セシ方即チ換言スレバ光ガ遠距離迄及ビ從ツテ大ナル飛翔力ヲ要スル箇所ニ五日期モ遅レテ出現シ然モ比較的膨大ナル螟蛾ナリシハ彼等ノ習性上何等カ潜在シ居ラザルカ今後ノ調査研究ヲ俟テテ斷定スルヲ要ス大正八年度ニ於テ調査セシ終期ハ六月廿八日ニシテ雄蛾六飛來シ本年度ヨリ四日遅ク而シテ前記ノ雄蛾ナリキ

第二回發生初期ノ二化螟虫ハ八月一日ニシテ第一號燈ニ雄蛾一飛來シ第二號燈ノ燈ハ八月六日ニ雄蛾一雄蛾七飛來シ第一號燈ニ於テ三日間早キモ同燈ニハ三日ヲ經テ八月五日ニ雄蛾一飛來シ翌六日ニ雄蛾一飛來シ更ニ三日ヲ經テ八月九日ニ雄蛾一飛來シ其後引續キ飛來セルヨリ觀レバ八月一日同五日同六日ノ飛來蛾ハ或ヒハ第一回發生期ニ屬スベキモノナラザルカ疑点トスベキモ本年ハ其間隔五日間ニシテ飛來セザリシ期間最モ距タレルヲ以テ第二回發生初期トシテ記載セルモ尙今後ノ調査研究ニ俟タザルベカラズ大正八年度ニ於テ調査セシ初期ハ八月八日ニシテ本年ヨリ七日間遅ク而シテ飛來蛾ハ雄蛾三ナリキ三化螟虫ハ七月拾貳日ニシテ第一號燈ニ雄蛾一飛來シ第十二號燈ハ七月拾四日ニ雄蛾一雄蛾一飛來シ第壹號燈ヨリ二日間遅カズ大正八年度ニ於テ調査ノ初期ハ七月拾壹日ニシテ雄蛾一飛來シ本年度ヨリ一日早カリキ

第二回發生盛期ノ二化螟虫ハ八月拾九日ニシテ第四號燈ニ雄蛾四三雄蛾一計一五三飛來シ第一號燈ハ八月貳拾參日ニ雄蛾一四雄蛾一四計二八飛來シ前者ノ五分ノ一ニ及バズ而シテ大正八年度ニ於ケル盛期ノ調査ハ八月廿二日ニシテ一燈ノ飛來數ハ雄蛾五五、四雄蛾三四、四計八九、八飛來シ本年度ヨリ三日間遅ク飛來數モ約二分ノ一ニ近シ第壹號燈ニ比スレバ一日早ク飛來數ハ三倍以上ニ及ベリ三化螟虫ハ七月貳拾日ニシテ第貳號燈ニ雄蛾五雄蛾二四計二九飛來シ第壹號燈ハ七月廿一日ニ雄蛾五雄蛾四計九飛來シ前者ハ三分ノ二ニ及バ

ズ而シテ大正八年度ニ於ケル調査ノ盛期ハ七月廿一日ニシテ一燈ノ飛來數ハ雄蛾八雄一、六計九、六飛來シ本年度ヨリ僅カニ一日遅ク飛來數ハ半數ニ及バズ第壹號燈ニ比スレバ同日ニシテ飛來數モ又略ホ同ジ

第二回發生終期ノ二化螟虫ハ九月拾八日ニシテ第貳號燈ハ雄蛾一飛來シ第一號燈ハ九月拾貳日雄蛾飛來シ前者ヨリ早キコト三日而シテ大正八年度ニ於ケル調査ノ終期ハ九月拾八日ニシテ本年度ト同一ナリ然レドモ第一號ニ比スレバ三日間遅ク飛來蛾ハ雄蛾一雄蛾二ナリキ三化螟虫ハ何レモ七月三十日ニシテ第一號燈ニ雄蛾二第二號燈ニ雄蛾一飛來セリ而シテ大正八年度ニ於ケル調査ノ終期ハ八月二日ニシテ二日間遅ク飛來數ハ雄蛾一ナリ

第三回發生初期ハ八月十八日ニシテ第一號燈ニ雄蛾一飛來シ第二號燈ハ八月廿日ニシテ雄蛾二雄蛾一飛來シ第一號燈ヨリ三日遅ク然モ前者ニハ雄蛾ニシテ今回ノ飛翔力ハ雄蛾ノ方強大ナルカハ今後ノ調査研究ヲ要ス大正八年度ニ於ケル調査ノ初期ハ八月十七日ニシテ本年度ヨリ三日間早ク第二號燈ニ比スレバ六日間早カリキ

第三回發生盛期ハ何レモ九月四日ニシテ第一號燈ニ雄蛾十三雄蛾一計一四飛來シ第貳號燈ニ雄蛾二四雄蛾四計二八飛來セルヲ以テ前者ノ二倍ニ及ベリ而シテ大正八年度ニ於ケル調査ノ盛期ハ八月二十六日ニシテ一燈ノ平均飛來數ハ雄蛾七〇、八雄蛾二八計一〇八、八飛來シ本年度ヨリ八日間早ク且ツ飛來數ハ四倍ニ及バントシ第一號燈ニ比スレバ八倍ニ及バントス

第三回發生終期ハ九月十八日ニシテ第二號燈ニ雄蛾一飛來シ第一號燈ハ九月十六日ニシテ雄蛾一飛來シ前者ヨリ二日間早シ然ルニ何レモ雄蛾ノミナルハ彼等ノ發生生殖上ヨリ盾セザルカ今後ノ調査研究ヲ要ス而シテ大正八年度ニ於ケル調査ノ終期ハ九月十八日ニシテ本年度ト同ジク雄蛾一飛來セリ第壹號燈ニ比スレバ二日早カリキ

左ニ各號誘蛾燈ノ各日螟蛾飛來數ヲ示セバ次表ノ如シ(大正八年度)

第壹號誘蛾燈螟蛾飛來數調查表(大正九年度)

月	日	月齡	天候	氣溫	雌化螟計	雄化螟計	備考
五	一	三・一三	曇	一八・五	一		不点火
五	二	三・一四	曇	一六・二			
五	三	三・一五	曇	一八・五			
五	四	三・一六	時々小雨	一七・三			
五	五	三・一七	曇	一八・五			
五	六	三・一八	曇	二一・三			
五	七	三・一九	曇	一八・三			
五	八	三・二〇	曇(小雨)	一六・〇			
五	九	三・二一	曇	一四・五			
五	一〇	三・二二	曇	一八・三			
五	一一	三・二三	曇北風強	一五・三			不点火
五	一二	三・二四	曇(後晴)	一六・〇			
五	一三	三・二五	晴	一一・五			
五	一四	三・二六	晴	一六・五			
五	一五	三・二七	晴	二〇・三			
五	一六	三・二八	晴	一六・三			
五	一七	三・二九	晴	一六・五			
五	一八	四・一	晴	一八・〇			
五	一九	四・二	曇(夜雨)	一七・五			
五	二〇	四・三	曇(小雨)	一八・〇			
五	二一	四・四	曇	一八・〇			

月	日	月齡	天候	氣溫	雌化螟計	雄化螟計	備考
五	二二	四・五	晴	二一・五	一		
五	二三	四・六	雨	二二・〇			
五	二四	四・七	曇(後晴)	二二・三			
五	二五	四・八	晴北風和	二〇・三			
五	二六	四・九	曇南風和	一八・〇			
五	二七	四・一〇	曇北風稍強	一九・三			
五	二八	四・一一	晴北風稍強	一九・〇			
五	二九	四・一二	晴北風稍強	一九・五			
五	三〇	四・一三	晴北風稍強	一九・三			
五	三一	四・一四	晴北風稍強	一九・三			
六	一	四・一五	後曇北風強	一九・八			
六	二	四・一六	曇	二〇・五			
六	三	四・一七	雨北風和	二二・五			
六	四	四・一八	曇	二二・〇			
六	五	四・一九	晴南風和	二二・〇			
六	六	四・二〇	晴南風和	二二・三			
六	七	四・二一	晴南風和	二〇・三			
六	八	四・二二	晴南風和	二二・〇			
六	九	四・二三	晴北風和	二五・〇			
六	一〇	四・二四	晴北風和	二五・五			
六	一一	四・二五	曇(後雨)	二二・三			
六	一二	四・二六	雨	二二・八			
六	一三	四・二七	曇(後晴)	二四・〇			
六	一四	四・二八	雨南風和	二三・〇			不点火

六〇二一	六〇二〇	六〇一九	六〇一八	六〇一七	六〇一六	六〇一五	六〇一四	六〇一三	六〇一二	六〇一一	六〇一〇	六〇〇九	六〇〇八	六〇〇七	六〇〇六	六〇〇五	六〇〇四	六〇〇三	六〇〇二	六〇〇一	五九三〇	五九三〇	五九二九
五〇五六	五〇五五	五〇五四	五〇五三	五〇五二	五〇五一	四〇二九	四〇二八	四〇二七	四〇二六	四〇二五	四〇二四	四〇二三	四〇二二	四〇二一	四〇二〇	四〇一九	四〇一八	四〇一七	四〇一六	四〇一五	四〇一四	四〇一三	四〇一二
雨	雨	雨南和	曇四和	曇四和	曇四和	雨南和	雨南和	曇後晴	雨	曇後雨	晴北強	晴北強	晴南和	晴南和	晴南和	曇	曇	曇	曇	曇	曇	晴北稍強	晴北稍強
二二〇〇	二二〇八	二二〇三	二二〇五	二二〇八	二二〇〇	二二〇五	二二〇〇	二二〇〇	二二〇八	二二〇三	二二〇五	二二〇〇	二二〇〇	二二〇三	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇五	二二〇〇	二二〇五	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
五	四	五	三	二	一	五	一	二	九	一	三	九	四	一	一	四	九	二	六	三	一	一	一
二九	四六	一三	八	二	一	二	四	三	一	三	三	九	一	三	九	五	九	三	一	四	一	一	一
三四	六〇	一八	二一	四五	一六	一〇	四〇	三六	二二	二四	二二	八	二	八	二〇	九	二	三	〇	三	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

五二二八	五二二七	五二二六	五二二五	五二二四	五二二三	五二二二	五二二一	五二二〇	五二一九	五二一八	五二一七	五二一六	五二一五	五二一四	五二一三	五二一二	五二一一	五二一〇	五二〇九	五二〇八	五二〇七	五二〇六	五二〇五
四〇二一	四〇二〇	四〇一九	四〇一八	四〇一七	四〇一六	四〇一五	四〇一四	四〇一三	四〇一二	四〇一一	三〇二九	三〇二八	三〇二七	三〇二六	三〇二五	三〇二四	三〇二二	三〇二一	三〇二〇	三〇一九	三〇一八	三〇一七	三〇一七
晴北稍強	曇北稍強	曇南和	曇北和	曇後晴	雨	晴	曇小雨	曇夜雨	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴北稍強	曇後強	曇北強	曇	曇	曇小雨	曇	曇
一九〇〇	一九〇三	一八〇〇	二〇〇三	二二〇三	二二〇〇	二二〇五	一八〇〇	一七〇五	一八〇〇	一五〇五	一六〇五	一六〇三	二〇〇三	一六〇五	一一〇五	一六〇〇	一五〇三	一八〇三	一四〇五	一六〇〇	一八〇三	二〇〇三	一八〇五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

六・二二	六・二三	六・二四	六・二五	六・二六	六・二七	六・二八	六・二九	六・三〇
五・七	五・八	五・九	五・〇	五・一	五・二	五・三	五・四	五・五
蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶
二二・五	二二・八	二二・八	二二・八	二二・五	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三
四	九	七	五	六	一	三	三	四
二二	四六	三〇	八	二八	四五	九	六	六
二七	二五	三七	二二	二二	五二	一〇	九	〇
不點火								

備考

東西南北ト氣温ノ所ニ記シタルハ各風ノ方向ノ言ヒニシテ例ヘバ東強トアルハ東風強シノ言ヒナリ
 各誘蛾燈ニ付半旬期間ニ於ケル蠶蛾飛來數ニヨリ二化蠶虫ノ各回發生ノ初期盛期終了期ヲ調査シ尙大正八
 度調査セルモノト比較對照スレバ左表ノ如シ

二化蠶虫半旬期各發生期調査比較對照表 (大正八年)

化期	發生期	大正九年					大正八年
		一號燈	二號燈	三號燈	四號燈	五號燈	
第一化期	初	五月中旬	五月上旬	五月中旬	五月上旬	五月上旬	不點火
全	盛	六月中旬	七月中旬	六月中旬	七月中旬	六月中旬	不點火
全	終	七月中旬	七月中旬	七月中旬	七月中旬	七月中旬	不點火
第二化期	初	八月中旬	八月中旬	八月中旬	八月中旬	八月中旬	不點火
全	盛	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	不點火
全	終	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	不點火

三化蠶虫半旬期各發生期調査比較對照表 (大正八年)

化期	發生期	大正八年					大正八年
		一號燈	二號燈	三號燈	四號燈	五號燈	
第一化期	初	五月中旬	五月中旬	五月中旬	五月中旬	五月中旬	不點火
全	盛	六月中旬	六月中旬	六月中旬	六月中旬	六月中旬	不點火
全	終	七月中旬	七月中旬	七月中旬	七月中旬	七月中旬	不點火
第二化期	初	七月中旬	七月中旬	七月中旬	七月中旬	七月中旬	不點火
全	盛	八月中旬	八月中旬	八月中旬	八月中旬	八月中旬	不點火
全	終	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	不點火
第三化期	初	八月中旬	八月中旬	八月中旬	八月中旬	八月中旬	不點火
全	盛	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	不點火
全	終	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	九月中旬	不點火

前表ニヨリ本年度ノ各誘蛾燈ヲ比較シ更ニ大正八年度ニ於ケル調査期トヲ比較スレバ二化蠶虫第一化期發生
 初期ハ第二號燈第四號燈第五號燈ハ五月上旬下半期ニシテ半期早ク同盛期(三四五號燈ハ不明)ハ第二號燈ニ

於テ一旬期遅ク同終期(三四五號燈ハ消火)モ亦第二號燈ニ於テ半旬期遅ク迄出現セリ即チ燈火ノ位置一間半ノ差異ヲ發生期間ニ一旬期ノ長短ヲ示セリ大正八年度ハ第一號燈ニ等シク同終期ハ第二號燈ニ等シクシテ兩年ノ發生期大正八年度ノ發生初期ハ不明ニシテ同盛期ハ第一號燈ニ等シク同終期ハ第二號燈ニ等シクシテ兩年ノ發生期間ノ長短ハ比較スルコト能ハズ

第二化期ノ發生初期ハ第一化期ニ反シ第一號燈ニ於テ半旬期早く同盛期ハ第二號燈ニ於テ半旬期早く同終期ハ第二號燈ニ於テ半旬期遅ク迄出現セルヲ以テ第二化期ハ發生期間ニ長短ノ差ナキモ高低ニ於テハ早ク發生シテ早く終了ヲ示セリ大正八年度ノ發生初期及終期ハ第二號燈ニ等シク同盛期ハ第一號燈ニ等シク發生期間ハ本年度ト等シカリキ

三化蠟虫ノ第一回發生初期ハ第一號燈及第三號燈ハ五月中旬下旬半期ニシテ其他ノモノニヨリ半旬期早ク同盛期ハ第一號燈及第二號燈ハ五月下旬上半期ニシテ最早ク第四號燈及第五號燈ハ半旬期遅レテ六月上旬上半期第三號燈最モ遅ク六月上旬下旬半期ナリ同終期ハ第四號燈第五號燈六月上旬下旬半期ニシテ最早ク第二號燈七月中旬上半期ニシテ半旬期ニ遅レ第二號燈第三號燈ハ何レモ六月中旬上半期ニシテ半旬期遅レ何レモ六月中旬下旬半期ニシテ相等シク第一號燈ハ六月下旬上半期ニシテ最モ遅ク迄出現セリ即チ燈火高所ニアリシモノハ最モ長期間發生モ第四號燈ヲ第五號燈ヨリ反テ短期間發生モ光力ノ強弱ニ對シテハ尙調査研究ヲ要ス其他ハ中間ニアリ即チ三化蠟虫第一化期發生ハ燈火ノ高低並ニ強弱ニヨリ相當長短ノ差異アルモ苗代ノ遠近ニ特ニ左右セラレタルガ如シ大正八年度ノ發生初期ハ不明ニシテ同盛期ハ第三號燈ニ等シク同終期ハ本年度ノ内最モ遅ク迄發生セシ第一號燈ヨリ更ニ半旬期遅ク迄發生セリ同期間ノ長短ハ比較スルコト能ハズ第二化期ニ於テハ發生初期盛期終期何レモ相等セリ大正八年ノ發生終期八月上旬上半期ニシテ半旬期遅レシヲ以テ本年度ヨリ半旬期間長ク發生セリ第三化期ニ於テハ從生初期盛期終期何レモ相等シク只大正八年度ノ發生期盛期ガ八月下旬半期ニシテ半旬期早カリシノミ從テ發生期間ハ兩年相等シカリキ

前記ノ如ク本年度ノ調査ニヨレバ三化蠟虫ノ第二化第三化期發生期ハ燈火ノ位置一間半ノ高低ハ何等影響ヲ

認メザリキ
各誘蛾燈半旬期点火燈數並ニ蠟虫飛來數ヲ示セバ左表ノ如シ
第壹號誘蛾燈半旬期点火燈數並ニ蠟虫飛來數調査表(大正九年)

期	点火燈數	二化		計	三化		計
		雄	雌		雄	雌	
自五・三〇至五・三一	四	二	一	三	一	一	四
自五・三二至五・三三	四	二	一	三	一	一	四
自五・三四至五・三五	五	二	一	三	一	一	四
自五・三六至五・三七	五	一	一	二	一	一	三
自五・三八至五・三九	六	一	一	二	一	一	三
自五・四〇至五・四一	五	一	一	二	一	一	三
自五・四二至五・四三	五	一	一	二	一	一	三
自五・四四至五・四五	四	一	一	二	一	一	三
自五・四六至五・四七	四	一	一	二	一	一	三
自五・四八至五・四九	四	一	一	二	一	一	三
自五・五〇至五・五一	五	一	一	二	一	一	三
自五・五二至五・五三	五	一	一	二	一	一	三
自五・五四至五・五五	五	一	一	二	一	一	三
自五・五六至五・五七	五	一	一	二	一	一	三
自五・五八至五・五九	五	一	一	二	一	一	三
自五・六〇至五・六一	五	一	一	二	一	一	三
自五・六二至五・六三	五	一	一	二	一	一	三
自五・六四至五・六五	五	一	一	二	一	一	三
自五・六六至五・六七	五	一	一	二	一	一	三
自五・六八至五・六九	五	一	一	二	一	一	三
自五・七〇至五・七一	五	一	一	二	一	一	三
自五・七二至五・七三	五	一	一	二	一	一	三
自五・七四至五・七五	五	一	一	二	一	一	三
自五・七六至五・七七	五	一	一	二	一	一	三
自五・七八至五・七九	五	一	一	二	一	一	三
自五・八〇至五・八一	五	一	一	二	一	一	三
自五・八二至五・八三	五	一	一	二	一	一	三
自五・八四至五・八五	五	一	一	二	一	一	三
自五・八六至五・八七	五	一	一	二	一	一	三
自五・八八至五・八九	五	一	一	二	一	一	三
自五・九〇至五・九一	五	一	一	二	一	一	三
自五・九二至五・九三	五	一	一	二	一	一	三
自五・九四至五・九五	五	一	一	二	一	一	三
自五・九六至五・九七	五	一	一	二	一	一	三
自五・九八至五・九九	五	一	一	二	一	一	三
自五・一〇〇至五・一〇一	五	一	一	二	一	一	三

期		點火燈數	雌		雄		計	雌		雄		計
自	至		二	化	化	三		化	三			
自六〇	至六〇	五	七二	六六	一三八	三	一	九				
自六〇	至六〇	五	一八	八〇	一九八	三三	六	二七				
自六〇	至六〇	五	五六	二二	七八	二	二	二				
自五〇	至五〇	六	二	二	四							
自五〇	至五〇	五	九	二	一一							
自五〇	至五〇	五	〇	一	一一							
自五〇	至五〇	五	一	一	一							
自五〇	至五〇	五	一	一	一							
自五〇	至五〇	五	一	一	一							
自五〇	至五〇	五	一	一	一							

第參號誘蛾燈半旬期螟蛾飛來數調查表(大正九年度)

期		點火燈數	雌		雄		計	雌		雄		計
自	至		二	化	化	三		化	三			
自九〇	至九〇	五	二九	一八	四七	二〇	四	一	二四			
自九〇	至九〇	五	二七	三〇	五七	四五	二	一	二			
自八〇	至八〇	三	七〇	四九	一二九	二	七	一	三			
自八〇	至八〇	五	一三〇	二六	一五六	六	二	一	二			
自八〇	至八〇	五	八八	一九	一〇七	二	一	一	一			
自八〇	至八〇	五	八	二六	三四	一	一	一	一			
自八〇	至八〇	五	一	一	二	一	一	一	一			
自七〇	至七〇	六	一四	四	一八	三	二	二	二			
自七〇	至七〇	五	二二	九九	一二一	二	二	二	二			
自七〇	至七〇	五	二〇	一四二	一六二	六	一	一	一			
自七〇	至七〇	五	一四三	三四一	四八四	一	一	一	一			
自七〇	至七〇	五	九〇	二五一	三四一	一	一	一	一			
自七〇	至七〇	五	二八	七六	一〇四	一	一	一	一			
自六〇	至六〇	五	七六	一〇八	一八四	一	一	一	一			

第參號誘蛾燈半旬期一燈平均螟蛾飛來數並雌雄步合調查表(大正九年)

期	間	二		三		總飛來數
		雌蛾步合	雄蛾步合	雌蛾步合	雄蛾步合	
自五〇六	至五〇六	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇
自五〇五	至五〇五	九一	三九	四〇	六〇	一五〇
自五〇四	至五〇四	八二	一八	五〇	一〇〇	一八〇
自五〇三	至五〇三	五〇	一八	一〇〇	一〇〇	二〇〇
自五〇二	至五〇二	七二	二八	一〇七	九三	一六五
自五〇一	至五〇一	六〇	四〇	八五	一五	一四五
自四九〇	至四九〇	五九	四一	一〇〇	一〇〇	二〇〇
自四八五	至四八五	四九	五一	三一四	一〇〇	四一四
自四八〇	至四八〇	三一	六九	二四三	一〇〇	三四三
自四七五	至四七五	三四	六六	一六四	一〇〇	二六四

第四號誘蛾燈半旬期一燈平均螟蛾飛來數並雌雄步合調查表(大正九年)

第五號誘蛾燈半旬期一燈平均螟蛾飛來數並雌雄步合調查表(大正九年)

期	間	二		三		總飛來數
		雌蛾步合	雄蛾步合	雌蛾步合	雄蛾步合	
自五〇六	至五〇六	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇
自五〇五	至五〇五	七四	二六	七	九三	一六七
自五〇四	至五〇四	七〇	三〇	二〇	八〇	一五〇
自五〇三	至五〇三	四九	五一	三一	六六	一〇六
自五〇二	至五〇二	三四	六六	二一	六六	一〇〇
自五〇一	至五〇一	三一	六九	一	八	一〇〇
自四九〇	至四九〇	一八	八二	一	一	一〇〇
自四八五	至四八五	六七	三三	四五	五五	一二二
自四八〇	至四八〇	三三	六七	一	一	三四
自四七五	至四七五	三三	〇五	一	一	三四
自四七〇	至四七〇	二六	三一七	一	一	二二二
自四六五	至四六五	二六	〇七	一	一	二二二
自四六〇	至四六〇	二六	一七	一	一	二二二
自四五五	至四五五	二六	一七	一	一	二二二
自四五〇	至四五〇	二六	一七	一	一	二二二
自四四五	至四四五	二六	一七	一	一	二二二
自四四〇	至四四〇	二六	一七	一	一	二二二
自四三五	至四三五	二六	一七	一	一	二二二
自四三〇	至四三〇	二六	一七	一	一	二二二
自四二五	至四二五	二六	一七	一	一	二二二
自四二〇	至四二〇	二六	一七	一	一	二二二
自四一五	至四一五	二六	一七	一	一	二二二
自四一〇	至四一〇	二六	一七	一	一	二二二
自四〇五	至四〇五	二六	一七	一	一	二二二
自四〇〇	至四〇〇	二六	一七	一	一	二二二

八、六蛾第二號燈一八、六蛾ニシテ其三分ノ一ニ過キズ大正八年度ニ於ケル調査ノ雌雄飛來歩合ハ五割宛ニシテ本年度ノ中間ヨアリ...

飛來數ハ九、三蛾ニシテ第二號燈ノ半數ナリ第三化發生期ノ雌雄飛來數歩合ハ第一號燈第二號燈何レモ雌蛾歩合多ク第一號燈ハ雌蛾六割八分四厘雄蛾三割一分四厘第三號燈ハ雌蛾八割九分四厘雄蛾一割六厘ニシテ其差前者ヨリ大ナリ飛來數ハ第一號燈二二六、二蛾第二號燈二二二、七蛾ニシテ燈火ノ位置高キ第一號燈ノ半數ニ及バズ此亦彼等ノ飛翔力ニ原因スルガ今後ノ調査ヲ要ス大正八年度ニ於ケル調査ノ雌雄飛來歩合ハ本年ト同ジク雌蛾歩合多ク雌蛾五割五分雄蛾四割五分ニシテ其差ハ本年ノ如ク甚ダシカラズ飛來數ハ二二七、四一蛾ニシテ第二號燈ノ實ニ拾倍ニ大シテ第壹號燈ノ五倍ニ及バントス

第七、螟虫發生時間調査 (大正九年)

前項螟虫發生時期調査ト共ニ誘蛾燈点火各時間内ニ於ケル二化三化別各雄雌螟虫飛來數並ニ總飛來數ノ多少ヲ三期ニ亘リ調査セントセシモ三化螟虫ノ發生本年度ハ僅少ナリシヲ以テ比較資料トシテ甚ダ貧弱ナレバ止ムヲ得ズ二化螟虫ノ第一化期ニ包含シテ比較對照セントス各號誘蛾燈飛來數ヲ示セバ左表ノ如シ

第壹號誘蛾燈螟虫發生時間調査表 其一 (大正九年)

調査月日	自午後七時至全八時	自午後八時至全九時	自午後九時至全十時	自午後十時至全十一時	自午後十一時至全十二時	計	自午前零時至消火時	總計
六月四日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
六月十日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
六月十八日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
六月十九日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄

第二號誘蛾燈螟虫發生時間調査表 其一 (大正九年)

調査月日	自午後七時至全八時	自午後八時至全九時	自午後九時至全十時	自午後十時至全十一時	自午後十一時至全十二時	計	自午前零時至消火時	總計
六月十九日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
六月廿八日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
七月八日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
七月十一日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄
七月十八日	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄	二化雄 三化雄

第五號誘蛾燈螟蛾發生時間調查表 其一 (大正九年)		第四號誘蛾燈螟蛾發生時間調查表 其一 (大正九年)	
調查月日	至自 全午後七時 八時	調查月日	至自 全午後七時 八時
六月廿八日	三化 雌雄	六月廿八日	三化 雌雄
六月十九日	二化 雌雄	六月廿九日	二化 雌雄
六月十日	三化 雌雄	六月十日	三化 雌雄
六月四日	二化 雌雄	六月四日	二化 雌雄
	至自 全午後八時 九時		至自 全午後八時 九時
一一二八	一六二		四二
	至自 全午後九時 十時		至自 全午後九時 十時
一一一	一九一		一二一
	至自 全午後十時 十一時		至自 全午後十時 十一時
一一一	一五		一一一
	至自 全午後十一時 十二時		至自 全午後十一時 十二時
一一一	三		一一一
計	一一二九	計	一九三
至自 午前 消零 火時	一一一	至自 午前 消零 火時	一一一
總 計	一一三九	總 計	一一五

第三號誘蛾燈螟蛾發生時間調查表 其一 (大正九年)		第二號誘蛾燈螟蛾發生時間調查表 其一 (大正九年)	
調查月日	至自 全午後七時 八時	調查月日	至自 全午後七時 八時
六月四日	三化 雌雄	六月廿八日	三化 雌雄
六月十日	二化 雌雄	六月廿九日	二化 雌雄
六月十九日	三化 雌雄	六月十日	三化 雌雄
六月十九日	二化 雌雄	六月四日	二化 雌雄
	至自 全午後八時 九時		至自 全午後八時 九時
一一二四	一六二		一一〇三
	至自 全午後九時 十時		至自 全午後九時 十時
一一三三	一三三		一一四
	至自 全午後十時 十一時		至自 全午後十時 十一時
一一六三	一四七		一一一
	至自 全午後十一時 十二時		至自 全午後十一時 十二時
一一六二	一六四		一一一
計	一一七二	計	一一二七
至自 午前 消零 火時	一一一	至自 午前 消零 火時	一一一
總 計	一一八三	總 計	一一三三

六月十日	六月十九日	六月廿八日
二化雄 一三	二化雄 六四	二化雄 三
三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一
二化雌 一五	二化雌 二一	二化雌 一
三化雌 一八二	三化雌 一	三化雌 一
計 二二	計 一〇五	計 二一七
自午前零時 一四	自午前零時 三	自午前零時 一
自午後八時 一	自午後八時 一	自午後八時 一
自午後九時 一	自午後九時 一	自午後九時 一
自午後十時 一	自午後十時 一	自午後十時 一
自午後十一時 一	自午後十一時 一	自午後十一時 一
自午後十二時 一	自午後十二時 一	自午後十二時 一
計 九五〇	計 四一三	計 一〇七
至午前八時 一〇七	至午前八時 一〇七	至午前八時 一〇七
至午前九時 一〇七	至午前九時 一〇七	至午前九時 一〇七
至午前十時 一〇七	至午前十時 一〇七	至午前十時 一〇七
至午前十一時 一〇七	至午前十一時 一〇七	至午前十一時 一〇七
至午前十二時 一〇七	至午前十二時 一〇七	至午前十二時 一〇七
計 九一	計 三五	計 三

以上二化螟虫第一化期ニ於ケル飛來數ヲ各號誘蛾燈別ニ綜合スレバ左表ノ如シ

各誘蛾燈數	自午後七時 至全八時	自午後八時 至全九時	自午後九時 至全十時	自午後十時 至全十一時	自午後十一時 至全十二時	計	自午前零時 至午前八時	總計
第七第一號 回燈	二化雄 一	二化雄 一	二化雄 一	二化雄 一	二化雄 一	五三	四一	九五〇
第七第二號 回燈	三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一	三〇〇	一〇三	四一三
第四第三號 回燈	二化雄 一	二化雄 一	二化雄 一	二化雄 一	二化雄 一	八七	一六六	一〇七
第四第四號 回燈	三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一	三化雄 一	八七	一六六	一〇七
計	計 二一三	計 一六八	計 七三〇	計 九二五	計 七二	計 五三六	計 四一三	計 九五〇

第四第五號 回燈	二化雄	三化雄	二化雌	三化雌	計
二化雄	二二	一五六	二一五	一七	四三
三化雄	一八八	一三〇九	二七五	二一	三八二
二化雌	一	一	一	一	四
三化雌	一	一	一	一	四
計	計 二一五	計 一五六	計 二七五	計 二一	計 四三

以上ヲ通觀スルニ一ニ例外アルモ一般ニ雌蛾ノ飛來數ヨリ雄蛾ノ飛來數多ク其ダシキハ第二號燈ノ午後十一時ヨリ同拾貳時ニ至ル時間ニハ雄蛾ノ飛來數實ニ三十八倍ノ多キニ達セリ各號誘蛾燈ノ飛來數ヲ各時間毎ニ合計セシモノニヨレバ午後七時ヨリ同八時ニ至ル時間ハ未ダ陽光アリテ燈火ノ光ガ薄弱ナルタメ一蛾ノ飛來數モ見ズ日沒當時即チ午後八時ヨリ同九時ニ至ル間ニ二化共ニ雌蛾ノ飛來歩合最モ多ク午後十一時ヨリ同十二時ニ至ル間最モ少シニ化螟虫ノ雌雄總數モ亦午後八時ヨリ同九時ニ至ル間三六九蛾ニシテ最モ多ク午後十一時ヨリ同十二時ニ至ル間一四二蛾ニシテ最モ少キモ点火時間ニ換算スル時ハ午前零時ヨリ消火ニ至ル間ハ一時間四八蛾ノ割合ニシテ更ニ少シ

三化螟虫ノ總數ハ午前零時ヨリ消火ニ至ル間七蛾ニシテ最モ多ク午後十時ヨリ同拾壹時及ビ午後拾壹時ヨリ同拾貳時ニ至ル間六蛾午後九時ヨリ同拾時ニ至ル間三蛾ニシテ最モ少キモ点火時間ニ換算スルトキハ午前零時ヨリ消火ニ至ル間ハ一時間一、四蛾ノ割合ニシテ最モ少ク大正八年度ニ於ケル調査モ二化三化共ニ日沒當時ハ雌蛾ノ飛來數多ク午後拾貳時ニ近ヅクニ從ヒ雌蛾數ハ減ゼリ各時間總飛來數ノ二化螟虫ハ本年ヨリ一時間遅レテ午後九時ヨリ拾時ニ至ル間二六蛾ニシテ最モ多ク午前零時ヨリ消火ニ至ル間四蛾ニシテ点火時間ニ換算スレバ一時間一蛾ニ充タズ本年ト同ジク最モ少シ次ニ三化螟虫ハ午後拾時ヨリ同拾壹時ニ至ル及ビ午前零時ヨリ消火ニ至ル間各七蛾ナレドモ一時間トシテハ前者最モ多ク本年度ト畧ボ同ジキモ最小飛來數時間ハ午後八時ヨリ同九時ニ至ル間無飛來ニシテ本年ト異レドモ兩年共ニ二化螟虫第一化期間内ニ於ケル二化

蠅虫ノ飛來數僅少ニシテ尙今後ノ調査ヲ要スニ化蠅虫第二化期ニ於ケル發生時間調査表ヲ示セバ次ノ如シ

調査月日	自午後七時至八時	自午後八時至九時	自午後九時至十時	自午後十時至十一時	自午後十一時至十二時	計	自午前零時至午前六時	總計
七月廿七日	二化雄 二化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月十一日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月十九日	二化雄 二化雌	三雄 三雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	二六	二雄 二雌	二八
八月廿二日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月廿七日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月卅一日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
九月四日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八

蠅虫ノ飛來數僅少ニシテ尙今後ノ調査ヲ要スニ化蠅虫第二化期ニ於ケル發生時間調査表同其二(大正九年)同十一(大正九年)同十二(大正九年)同十三(大正九年)同十四(大正九年)同十五(大正九年)同十六(大正九年)同十七(大正九年)同十八(大正九年)同十九(大正九年)同二十(大正九年)同二十一(大正九年)同二十二(大正九年)同二十三(大正九年)同二十四(大正九年)同二十五(大正九年)同二十六(大正九年)同二十七(大正九年)同二十八(大正九年)同二十九(大正九年)同三十(大正九年)同三十一(大正九年)同三十二(大正九年)同三十三(大正九年)同三十四(大正九年)同三十五(大正九年)同三十六(大正九年)同三十七(大正九年)同三十八(大正九年)同三十九(大正九年)同四十(大正九年)同四十一(大正九年)同四十二(大正九年)同四十三(大正九年)同四十四(大正九年)同四十五(大正九年)同四十六(大正九年)同四十七(大正九年)同四十八(大正九年)同四十九(大正九年)同五十(大正九年)同五十一(大正九年)同五十二(大正九年)同五十三(大正九年)同五十四(大正九年)同五十五(大正九年)同五十六(大正九年)同五十七(大正九年)同五十八(大正九年)同五十九(大正九年)同六十(大正九年)同六十一(大正九年)同六十二(大正九年)同六十三(大正九年)同六十四(大正九年)同六十五(大正九年)同六十六(大正九年)同六十七(大正九年)同六十八(大正九年)同六十九(大正九年)同七十(大正九年)同七十一(大正九年)同七十二(大正九年)同七十三(大正九年)同七十四(大正九年)同七十五(大正九年)同七十六(大正九年)同七十七(大正九年)同七十八(大正九年)同七十九(大正九年)同八十(大正九年)同八十一(大正九年)同八十二(大正九年)同八十三(大正九年)同八十四(大正九年)同八十五(大正九年)同八十六(大正九年)同八十七(大正九年)同八十八(大正九年)同八十九(大正九年)同九十(大正九年)同九十一(大正九年)同九十二(大正九年)同九十三(大正九年)同九十四(大正九年)同九十五(大正九年)同九十六(大正九年)同九十七(大正九年)同九十八(大正九年)同九十九(大正九年)同一百(大正九年)

調査月日	自午後七時至八時	自午後八時至九時	自午後九時至十時	自午後十時至十一時	自午後十一時至十二時	計	自午前零時至午前六時	總計
七月廿七日	二化雄 二化雌	三雄 三雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	二六	二雄 二雌	二八
八月十一日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月十九日	二化雄 二化雌	三雄 三雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	二六	二雄 二雌	二八
八月廿二日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月廿七日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
八月卅一日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八
九月四日	三化雄 三化雌	四雄 四雌	五雄 五雌	六雄 六雌	七雄 七雌	二六	二雄 二雌	二八

前表ニ於ケル飛來數ヲ各時間毎ニ綜合スレバ左ノ如シ

蠶蛾發生時間調查表 其二 (大正九年)

各調查回燈	第一號回燈		第二號回燈		計
	雄	雌	雄	雌	
自午後七時至全八時	二	一	三	二	六
自午後八時至全九時	一	一	二	三	六
自午後九時至全十時	一	一	二	三	六
自午後十時至全十一時	一	一	二	三	六
自午後十一時至全十二時	一	一	二	三	六
計	二	二	四	四	八
自午前零時至全消火時	一	一	二	三	六
總計	二	二	四	四	八

以上ヲ通觀スルニ日沒後点火當初ハ二化三化蠶虫共ニ雌雄ノ飛來數ハ雄十ノ飛來數ヨリ多ク二化蠶虫ハ午後八時ヨリ同九時ニ至ル間ハ雄蠶ノ拾七倍ニ達シ三化蠶虫ハ一時間遅レテ午後九時ヨリ同十時ニ至ル間雄蠶ノ三倍半ニシテ各雌蠶ノ飛來歩合最モ多シ深夜ニ至ルニ縦ヒ反對ニ雄蠶ノ飛來數ハ雌我ヨリ多ク飛來シ第一化發生期ニ於ケル成績ト全然反セリ兩誘蛾燈ノ飛來數ヲ各時間毎ニ合計セシモノニヨレバ二化蠶虫午後十時ヨリ同拾壹時ニ至ル間五九蠶ニシテ最モ多ク午後十一時ヨリ同十二時ニ至ル間四八蠶ニシテ第二位ニアリ而モ最モ少キハ午後七時ヨリ同八時ニ至ル間一蠶ナルモ点火時間ニ換算スレバ午前零時ヨリ消火ニ至ル間ハ一時四蠶ニ及バザル割合ニシテ最モ少シ三化蠶虫薄暮即チ午後七時ヨリ同八時ニ至ル間二蠶ニシテ最モ多ク時間ノ遅レルニ從ヒ正確ニ其數ヲ減シ午前零時ヨリ消火ニ至ル間一蠶ニ充テ大正八年度ニ於ケル調査ノ二化蠶虫發生時間モ本年度ト同ジク午後八時ヨリ同九時ニ至ル間雌蠶ノ飛來數最モ多ク深夜ニ至ルニ從ヒ減少セリ各時間雌雄蠶合計ノ飛來數亦本年ト同ジク午後十時ヨリ同十一時ニ至ル間一六七蠶ニシテ

最モ多ク午前零時ヨリ消火ニ至ル間ハ一時二二、六蠶ノ割合ニシテ最モ少シ三化蠶虫雌蠶ノ飛來數ハ本年ト同ジク深夜ニ至ルニ從ヒ次第二減少シ飛來數ハ本年ヨリ一時間遅レテ午後八時ヨリ同九時ニ至ル間ハ一時三六、六蠶ノ割合ニシテ最モ少ク本年ト同様ナリ

第八、蠶虫對肥料配合量試驗 (大正九年)

供試品種トシテハ晚稻神力ヲ用ヒ苗代期ニ於テハ標準肥料トシテ反當窒素一貫五百多磷酸二貫多加里二貫八百多ヲ施用シテ育成シ本田ニテ一株三本植採間八寸トシテ移植シ左記試驗別記載ノ肥料配合量ヲ施用シ其配合量ニ因ル蠶虫被害(心枯數葉鞘變色莖數白枯穗數刈藁刈株潛伏虫數)ノ程度ヲ知ラントシ夫々調査期ニ於ケル稻成育狀況(草丈分蘗數穗數)ヲ調査シ併セテ各區ノ収收量ヲ調査比較セリ

試驗別	本		反		當		施		加	肥	量
	田	素	當	施	當	施	當	施			
第一區 標準區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第二區 窒素二倍區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第三區 無窒素區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第四區 磷酸二倍區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第五區 無磷酸區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第六區 加里二倍區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第七區 無加里區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇
第八區 無肥料區	二・三〇〇	四・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・三〇〇

以上ノ試驗別ニヨリ一區ノ面積約十坪宛トシテ三ヶ所ニ設ケテ灌溉排水ニヨル差異ノ可及的ニ平均セシメン
トシ境界ハ二尺幅ノ畦畔ヲ以テシ肥料ノ浸交ヲ遮斷シテ調査ニ着手セリ

移植前ニハ苗代ニ於テ嚴密ニ螟虫卵ヲ除去シ移植當時(六月下旬)草丈ハ總計三九、三〇ニシテ最長一、〇〇最
短〇、六七平均〇、八〇ナリキ、
本田ニ於テ螟虫被害心枯莖ハ五日乃至七日毎二六回調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ
螟虫被害心枯莖數對肥料配合量試驗調查表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査						計
		第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・〇)	第六回(八・六)	
標準區	二十八坪	九	二	四三	一三	一八	一六〇	
無肥料區	全	一	一	一	一	一	六〇	
窒素二倍區	全	三	一七	三八	三六	二四	三一五	
無窒素區	全	五	三	三	六	八五	一三三	
磷酸二倍區	全	二	九	五七	一六	二一七	二八五	
無磷酸區	全	六	三	三一	一五	二〇二	二七〇	
加里二倍區	全	四	七	六〇	三五	二二六	三二六	
無加里區	全	五	七	二九	一三	一二三	二二四	
計		九	二	四三	一三	一八	一六〇	
計		一〇七	八一	二〇	三一五	六四〇	一六〇	

以上ヲ通觀スルニ螟虫被害心枯莖數(ニヶ所合計)ハ加里二倍區ノ六百五十八本最モ多ク窒素二倍區ハ六百四
十本之レニ次ギ其他ハ五百九十本乃至八十一本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙各區並ニ總計ノ螟虫被害心枯
莖數ハ一〇〇トシテ夫々歩合ニ換算スレバ次表ノ如シ
螟虫被害心枯莖對肥料配合量試驗歩合表(大正九年)

試驗別	調査						計
	第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・〇)	第六回(八・六)	
標準區	二〇三	五六	一六五	九三	一三五	九一	一、二六五
無肥料區	一	一	〇四	一	一六	三四	一、二三八

以上ノ歩合表ニヨレバ螟虫被害心枯莖數ハ加里二倍施用區最モ多ク第一位ニシテ總莖數ノ一割八分七厘窒素
二倍區第二位ニシテ一割八分三厘磷酸二倍區第三位ニシテ一割六分八厘無磷酸區第四位ニシテ一割五分一厘
標準區第五位ニシテ一割一分六厘無加里區第六位ニシテ一割一分四厘無窒素區第七位ニテ六分無肥料區第八
位ニシテ最モ少ク僅ニ二分三厘ナリ
螟虫被害心枯出現期(八月上旬)ニ於ケル供試水稻ノ成育狀況ヲ四十九株ニ付キ調査セシニ左表ノ如シ
水稻成育調査表 其一 (大正九年)

試驗別	調査月日	草丈					總計
		最長	最短	平均	最多	最少	
標準區	八月一日	九八・九三	二・六	二・二	九八	二・四	
無肥料區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
窒素二倍區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
無窒素區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
磷酸二倍區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
無磷酸區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
加里二倍區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
無加里區	全	九四・七	二・六	二・一	九四	二・四	
計		九八・九三	二・六	二・二	九八	二・四	

螟虫被害心枯莖數ニ引キ續キ二化螟虫ノ第二期發生ノ被害莖即チ葉鞘變色莖數ヲ調査スルニハ螟虫對水稻特性試驗ニ於ケルト同様各區ノ一半ニツキ四日乃至五日毎ニ四回調査セシ成績左表ノ如シ
 螟虫被害葉鞘變色莖數肥料配合量試驗調査表(大正九年)

試驗別	調查坪數	調査月日				計
		第一回(八、三)	第二回(九、四)	第三回(九、八)	第四回(九、一二)	
標準區	十四坪	二〇	三四	一五	一八	
無肥料區	全	二〇	三四	一五	一八	
望素二倍區	全	三一	四六	四	一〇	
無望素區	全	三一	四六	四	一〇	
磷酸二倍區	全	四四	五七	三	一〇	
無磷酸區	全	四四	五七	三	一〇	
加里二倍區	全	五五	六七	二六	一七〇	
無加里區	全	五五	六七	二六	一七〇	
加里二倍區	全	八	六〇	一八	一〇八	
無加里區	全	八	六〇	一八	一〇八	
計		二〇	三四	一五	一八	

以上ヲ通觀スレバ螟虫被害葉鞘變色莖數ハ望素二倍區ノ百八十九本最多ク無磷酸區ノ百七十本磷酸二倍區ノ百四十九本加里二倍ノ百八本等之レニ次ギ其他ハ八十七本乃至八本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙各回並ニ總計ノ被害數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ニ換算スレバ左表ノ如シ
 螟虫被害葉鞘變色莖數對肥料配合量試驗歩合表(大正十年)

試驗別	調査月日				計	順位
	第一回(八、三)	第二回(九、四)	第三回(九、八)	第四回(九、一二)		
標準區	一〇二	一〇二	九〇	一九六	一〇二	二五
無肥料區	一〇二	一〇二	九〇	一九六	一〇二	二五
望素二倍區	一五八	一八	二四	三二五	二〇四	一
無望素區	一五八	一八	二四	三二五	二〇四	一

試驗別	第一回(八、三)	第二回(九、四)	第三回(九、八)	第四回(九、一二)	計	順位
無望素區	二〇	〇三	二八	一〇	二〇	八
磷酸二倍區	二二四	一七一	二二八	一〇九	一八七	三
無磷酸區	二二四	一七一	二二八	一〇九	一八七	三
加里二倍區	一一二	二〇二	一五六	二二九	二一六	二
無加里區	一一二	二〇二	一五六	二二九	二一六	二
加里二倍區	九二	一八一	一〇八	六五	一三〇	四
無加里區	九二	一八一	一〇八	六五	一三〇	四
計	二〇	〇三	二八	一〇	二〇	八

以上ノ歩合表ニヨレバ望素二倍區第一位ニシテ最モ多ク二割四分無磷酸區第二位ニシテ二割一分六厘磷酸二倍區第三位ニシテ一割八分七厘加里二倍區第四位ニシテ一割三分標準區第九位ニシテ一割一分一厘無加里區第六位ニシテ九分五厘無肥料區第七位ニシテ一分三厘無望素區第八位ニシテ最モ少ク僅カニ一分ニシテ其螟虫被害葉鞘變色莖出現期(九月上旬)ノ水稻狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシハ左表ノ如シ(大正九年)

水稻成育調査表 其二(大正九年)

試驗別	調査月日	草丈					總計	分	最多	最少	平均
		總計	最長	最短	平均	分					
標準區	九月一日	二五・二四	三・五七	二・九	三・二二	八・五二	二・五	三・二	二・一	二・七〇	
無肥料區	全	二六・九	二・七八	二・三	二・五八	八・三	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
望素二倍區	全	二六・三	二・五八	二・二	二・五七	八・三	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
無望素區	全	二七・九	二・九	二・二	二・六〇	八・三	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
磷酸二倍區	全	二五・四	二・九	二・六	二・五	八・二	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
無磷酸區	全	二五・四	二・九	二・六	二・五	八・二	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
加里二倍區	全	二九・五	三・五	二・九	三・〇	九・〇	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
無加里區	全	二九・五	三・五	二・九	三・〇	九・〇	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
加里二倍區	全	二八・〇	三・三	二・五	二・九	八・七	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
無加里區	全	二八・〇	三・三	二・五	二・九	八・七	二・〇	三・〇	一・六	二・四〇	
計		二五・二	三・五	二・九	三・二	八・五	二・五	三・二	二・一	二・七〇	

螟虫被害葉鞘變色莖數ヲ調査セザリシ他ノ一半ニ於テ刈取前螟虫被害枯穂ヲ切取ルコトナシニ二化三化螟虫

別ニ計算シ之ヲ總莖數ニ對スル歩合(特性試驗)於ケルト同一理由ニヨリニ換算セシム左表 如シ

試驗別	調查坪數	總莖數	二倍區		三倍區		計		順位
			枯莖數	歩合	枯莖數	歩合	枯莖數	歩合	
無肥料區	全	1100	107	9.7%	119	10.8%	226	20.5%	三
窒素二倍區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	一
無窒素區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	七
磷酸二倍區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	六
無磷酸區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	二
加里二倍區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	五
無加里區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	四
無加里區	全	1000	107	10.7%	106	10.6%	213	21.3%	五

以上ヲ通觀スルニ單ニ一定面積(十四坪)ニ於ケルニ化螟虫被害ノ白枯莖數ハ磷酸二倍區ノ二百二十八本ヲ最多トシ無磷酸區ノ百三十二本標準區ノ百七本無加里區ノ百一本之レニ次ギ其他ハ九十六本乃至三十五本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス三化螟虫ノ白枯莖數ハ標準區ノ百九十九本ヲ最多トシ無肥料區ノ百七本之レニ次ギ其他ハ九十九本乃至二十六本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス二化螟虫被害白枯莖ハ磷酸二倍區ノ二百六十二本ヲ最多トシ標準區ノ二十六本之レニ次ギ其他ハ百九十五本乃至七十八本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス以上ノ螟虫被害白枯莖數ヲ各區ノ總莖數ニ對スル歩合ヲ算出スレバ二化螟虫ノ被害歩合ハ磷酸二倍區第一位ニシテ最多ク一分九厘無磷酸區第二位ニシテ一分一厘標準區無肥料區第三位ニシテ一分無加里第四位ニシテ九厘加里二倍區第五位ニシテ八厘窒素二倍區無窒素區第六位ニシテ最モ少ク僅カニ六厘ナリ三化螟虫ノ被害歩合ハ無肥料區第一位ニシテ二分九厘標準區第二位ニシテ二分九厘標準區第二位ニシテ一分一厘加里二倍區第三位ニシテ九厘無加里區第四位ニシテ五厘無窒素區磷酸二倍區無磷酸區第五位ニシテ三厘窒素二倍區ハ第六位ニシテ最モ少ク二厘ナリ二

化三化螟虫被害白枯莖總數ノ歩合ハ無肥料區第一位ニシテ最モ多ク二分九厘磷酸二倍區第二位ニシテ二分二厘標準區第三位ニシテ二分加里二倍區第四位ニシテ一分七厘無磷酸區無加里區第五位ニシテ一分四厘無窒素區第六位ニシテ九厘窒素二倍區第七位ニシテ最モ少ク八厘ナリ

螟虫被害枯莖出現期(十月上旬)ニ於ケル水稻成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシム左表ノ如シ

水稻成育調査表 其二 (大正九年)

試驗別	調查月日	總計	莖				分			
			最長	最短	平均	總計	最多	最少	平均	
無肥料區	十月一日	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
窒素二倍區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
無窒素區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
磷酸二倍區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
無磷酸區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
加里二倍區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
無加里區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	
無加里區	全	1700	39.8	25.5	32.7	800	21.9	10.6	16.3	

各區收穫後螟虫被害枯莖數ヲ調査セル一平七坪ノ刈藁及ビ刈株ニ潜伏セル二化三化螟虫數ノ多少並ニ刈藁ヨリ螟虫蝕害莖數ヲ調査セシム左表ノ如キ成績ヲ得タリ他ノ一平七坪分ノ刈藁刈株ハ越冬後ニ於テモ調査ノタメ田面ノ一部ニ堆積セリ

秋季刈藁刈株潜伏螟虫數對水稻特性試驗調査表(大正九年)

試驗別	調查坪數	總莖數	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		計
				二化	三化	二化	三化	
標準區	七坪	1000	25	10	15	10	25	100

第六位ニシテ最モ少ク七分六厘ナルモ無窒素區ニハ一匹モ潜伏セズ第七位ナリ同三化螟虫ハ僅カニ無肥料區
 無加里區ノミ潜伏シ前者ハ後者ノ二倍ニシテ其他ノ區ニハ一匹モ潜伏セズ刈藁刈株潜伏數ノ總計ハ無磷酸
 區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割二分六厘加里二倍區第二位ニシテ一割六分九厘無加里區第三位ニシテ一
 割六分七厘窒素二倍區第四位ニシテ一割六分六厘磷酸二倍區第五位ニシテ一割二分七厘標準區第六位ニシテ
 七分五厘無肥料區第七位ニシテ六分六厘無窒素區第八位ニシテ最モ少ク僅カニ五厘ニ過ギズ
 刈藁刈株潜伏螟虫數ノ調査用ノ一半ハ水稻特性試驗ト同様ニ取扱ヒ春期(四月上旬)ノ調査施行セシ左表ハ
 如キ成績ヲ得タリ

春期刈藁刈株潜伏螟虫數對肥料配合量試驗調查表(大正九年)

試驗別	調査坪數	總莖數	蝨入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總計
				二化	三化	二化	三化	
無肥料區	全	500	1	1	1	1	1	4
窒素二倍區	全	337	1	1	1	1	1	4
無窒素區	全	403	1	1	1	1	1	4
磷酸二倍區	全	521	1	1	1	1	1	4
無磷酸區	全	333	1	1	1	1	1	4
加里二倍區	全	527	1	1	1	1	1	4
無加里區	全	526	1	1	1	1	1	4
總計		2500	6	6	6	6	6	24

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝨入莖數ハ單ニ數字ノ上ヨリ云フ時ハ加里二倍區ノ九百九十三本ヲ最モトシ無磷酸區
 ノ七百五十三本之レニ次ギ其他ハ五百九十八本乃至二十三本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈藁潜伏螟虫數ノ
 二化ハ加里二倍區ノ百七十二區ヲ最モトシ無磷酸區ノ百七匹之レニ次ギ其他ハ九十七匹乃至三匹ニシテ比
 較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ加里二倍區ニ僅カニ一匹ニシテ刈藁内ノ總潜伏虫數ハ殆ンド二化螟虫ニ左右セ

ラル刈株潜伏螟虫數ノ二化ハ無磷酸區ノ三十三匹ヲ最モトシ窒素二倍區ノ三十一匹之レニ次ギ其他ハ十七一
 匹乃至三匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同ジク二化ハ無肥料區及無窒素區ニ各三匹ニシテ其他ニハ一匹モ潜
 伏セザリキ從テ刈藁内ノ總螟虫數モ二化螟虫數ニ左右セラレ加里二倍區ノ百八十九匹ヲ最モトシ無磷酸區ノ
 百五十四匹標準區ノ百四十四匹之レニ次ギ其他ハ九十五匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス
 尙前表ノ内螟虫蝨入莖數ハ總莖數ニ對シ刈藁刈株潜伏螟虫數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ヲ算出セシハ左表ノ如
 シ

春期刈藁刈株潜伏螟虫數對肥料配合量試驗調查歩合表(大正九年)

試驗別	蝨入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總計	順位
		二化	三化	二化	三化		
無肥料區	100	1	1	1	1	4	3
窒素二倍區	337	1	1	1	1	4	7
無窒素區	403	1	1	1	1	4	4
磷酸二倍區	521	1	1	1	1	4	8
無磷酸區	333	1	1	1	1	4	5
加里二倍區	527	1	1	1	1	4	2
無加里區	526	1	1	1	1	4	6
總計	2500	6	6	6	6	24	

以上ノ歩合表ニヨレバ總莖數ニ對スル螟虫蝨入莖數歩合ハ加里二倍區第一位ニシテ最モ多ク一割七分六厘無
 磷酸區第二位ニシテ一割二分一厘標準區第三位ニシテ一割七厘磷酸二倍區第四位ニシテ七分二厘窒素二倍區
 第五位ニシテ六分九厘無肥料區第六位ニシテ三分七厘無加里第七位ニシテ二分六厘無窒素區第八位ニシテ最
 モ少ク僅カニ六厘ナリ刈藁潜伏螟虫數歩合ノ二化ハ加里二倍區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ三割一分四厘ヲ

占メ無磷酸區第二位ニシテ二割一分四厘標準區第三位ニシテ一割七分七厘窒素二倍區第四位ニシテ一割一分五厘磷酸二倍區第五位ニシテ九分八厘無加里區第六位ニシテ五分九厘無肥料區第七位ニシテ一分七厘無窒素區第八位ニシテ最モ少ク僅カニ五厘ナリ同三化ハ加里二倍區二十割トアルモ僅カ一匹ノ歩合ナレバ刈藁内ニ於ケル潜伏螟虫數止合ハ殆ンド二化ニ左右セラレ刈株内潜伏螟虫數歩合ノ二化ハ無磷酸區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割一步六厘ヲ占メ窒素二倍區第二位ニシテ二割三厘無加里區第三位ニシテ一割七分磷酸二倍區第四位ニシテ一割四分四厘標準區第五位ニシテ一割一分一厘加里二倍區第六位ニシテ一割四厘無肥料區第七位ニシテ二分三厘無窒素第八位ニシテ最モ少ク二分ナリ同三化ハ無肥料區及無窒素區ニシテ何レモ五割ヲ占ム刈株内ニ於ケル潜伏螟虫數歩合モ二化ニ左右セラレ即チ加里二倍區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割六分七厘ヲ占メ無磷酸區第二位ニシテ二割一分二厘標準區第三位ニシテ一割六分一厘窒素二倍區第四位ニシテ一割三分四厘磷酸二倍區第五位ニシテ一割六厘無加里區第六位ニシテ八分二厘無肥料區第七位ニシテ二分四厘無窒素區第八位ニシテ最モ少ク一分三厘ナリ

參考ノ爲メ各區同一面積ノ刈收量ヲ調査セシハ左表ノ如シ

試驗別	坪數	級數	量	順	位
無標	二八坪	全	四〇・五	二	
無肥	二八坪	全	二五・四	七	
無磷	二八坪	全	三三・六	六	
無窒	二八坪	全	二六・〇	五	
無加里	二八坪	全	三七・四	四	
無加里	二八坪	全	三九・七	三	
無加里	二八坪	全	四三・六	二	
無加里	二八坪	全	四〇・五	一	

第九、螟虫對播種量試驗 (大正九年)

苗代地ニ播種スル數量ヲ夫々異ナラシメ其差異ニヨリ螟虫被害(產卵數)ノ程度ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ比較調査セントシ各一區ノ坪數ヲ五坪トシテ晚稻神力種ヲ試驗ニ供シ一坪當一合播種區同三合五勺播種區同六合播種區ノ三區ニ分チ螟虫產卵數ヲ三日乃至五日毎ニ調査セシニ左ノ如キ成績ヲ得タリ

螟虫對播種量產卵數調查表(大正九年)

試驗別	調查坪數	調查						計
		第一回(六・三)	第二回(六・六)	第三回(六・二)	第四回(六・五)	第五回(六・九)	第六回(六・四)	
一坪當播種量	五坪	二	二	二	二	二	二	八
全三合五勺區	五坪	三	三	三	三	三	三	一八
全六合區	五坪	三	三	三	三	三	三	一八

前表ニ示スガ如ク播種量少キ程螟虫ノ產卵數多ク播種量多キ程產卵數少ク(換言スレバ粗生セル苗代ニ產卵數多ク密生セル苗代ニ產卵數少カリキ即チ坪當一合播種區二九卵塊同三合五勺播種區二八卵塊同六合播種區二五卵塊ヲ得タリ但シ三化螟虫ハ各區共ニ一塊モ產卵セズシテ其多少ヲ比較スルコト能ハズ今後ノ調査ニ俟タザルベカラズ)尙總卵塊ヲ一〇〇トシテ各區ノ產卵歩合ヲ比較セバ左表ノ如シ

螟虫對播種量產卵數歩合表(大正九年)

試驗別	歩合	備考
坪當播種量一合區	四〇・九	五坪調查
全三合五勺區	三・六四	
全六合區	二・二七	

一合播種區ハ總卵塊ノ四割九厘ニシテ最モ多ク六合播種區ハ二割二分七厘ニシテ最モ少ク三合五勺播種區ハ三割六分四厘ニシテ中位ナリ

第十、苗代田ニ於ケル藥液散布試驗 (大正九年)

左記ノ藥ヲ苗代水面ニ湛ヘテ螟虫産卵ノ有無多少並ニ成育狀況ヲ調査セシモ他試驗トノ關係上一區ノ坪數僅カニ一坪ニ過ギザリケレバ螟虫産卵ノ有無多少ハ標準區ニ二化螟虫卵只ダ一塊ヲ得シソミニテ各區ニツキ比較スルコト困難ナリシモ苗成育ニ關シテハ何等支障ヲ認メザリキ。

記

- 第一區 ナフタリン石油飽和液一畝歩ニ對シ五勺
- 第二區 除虫菊一畝歩ニ對シ五〇匁
- 第三區 蕃椒浸水液一畝歩ニ對シ五勺
- 第四區 標準區

以上試驗區別ニヨリ晚稻神力苗ヲ試驗ニ供シ第一回ハ六月十九日ナフタリン區ニ三.c.c除虫菊區三匁七分蕃椒區ニ三.c.c(何レモ一坪當)ヲ施用セシニ何等成育成上ニ差異ヲ認メザリシヲ以テ第二回ハ六月廿四日第一回ノ倍量即チナフタリン區ニ、六.c.c除虫菊ニ三匁四分蕃椒區ニ六.c.c(何レモ一坪當)ヲ施用セシニ第一回ト同ジク苗ノ成育上ニ支障ヲ認ムルコト能ハザリキ而シテ螟虫産卵狀況ヲ三日乃至五日毎ニ六回調査セシ成績左表ノ如シ

螟虫藥液撒布試驗調査表

試驗別	調査坪數	調査						計
		第一回(六・三)	第二回(六・六)	第三回(六・一)	第四回(六・二)	第五回(六・九)	第六回(六・二)	
標準區	三合五勺播	1	1	1	1	1	1	1
第一區	ナフタリン	1	1	1	1	1	1	1
第二區	除虫菊	1	1	1	1	1	1	1
第三區	蕃椒浸水液	1	1	1	1	1	1	1
第四區	標準區	1	1	1	1	1	1	1
除虫菊區	全一坪	1	1	1	1	1	1	1
蕃椒區	全一坪	1	1	1	1	1	1	1
ナフタリン區	全一坪	1	1	1	1	1	1	1

尙ホ大正十年度ニ於テハ一區ノ苗代面積ヲ可及的擴張シテ調査セントス

第十一、螟虫對苗代肥料配合量試驗 (大正九年)

供試品種トシテハ晚稻神力ヲ用ヒ坪當ニ合五勺播種シ苗代期ニ於テ肥料配合量ヲ左記ノ通り異ニシテ成育成セシ苗ヲ本田ニ於テハ標準肥料トシテ反當窒素二貫三百匁磷酸二貫五百匁加里二貫八百匁ヲ施用シ單ニ苗代ノ成育狀況ノ差異ニ因リ螟虫被害(産卵數心枯數葉鞘變色莖數白枯穗數刈藁刈株潜伏虫數)ノ程度ヲ知ラントシ夫々調査期ニ於ケル稻ノ成育狀況(草丈分蘗數穗數)ヲ調査シ併テ各區ノ収量ヲ調査比較セリ

記

試驗別	標準區	反當		施用		加用	量
		窒	磷	酸	加里		
第一區	標準區	1.500	3.000	2.000	2.000	2.800	2.800
第二區	窒素二倍區	3.000	3.000	2.000	2.000	2.800	2.800
第三區	無窒素區	1.500	3.000	2.000	2.000	2.800	2.800
第四區	磷酸二倍區	1.500	1.500	4.000	2.000	2.800	2.800
第五區	無磷酸區	1.500	1.500	2.000	2.000	2.800	2.800
第六區	加里二倍區	1.500	1.500	2.000	4.000	2.800	2.800
第七區	無加里區	1.500	1.500	2.000	2.000	5.600	5.600
第八區	無肥料區	1.500	1.500	2.000	2.000	2.800	2.800

以上ノ試験成績ニヨリ一區ノ面積一坪宛トシテニケ所ニ設ケ一區毎ニ畦ヲ以テ他區トノ肥料ノ混交ヲ斷チ
 (内ニケ所宛ハ木框ヲ用ヒ)テ可及的肥料ニヨル差異ヲ大ナラシメ本田移植ノ際ハ木框ノ苗ヲ用ヒ三本植株間
 八寸面積十五坪トシテ調査セリ
 苗代期間螟虫産卵數ヲ三日乃至五日毎ニ六回調査セシ成績左表ノ如シ

螟虫産卵數對苗代肥料配合量試驗調查表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査月日						計
		第一回(六・二)	第二回(六・六)	第三回(六・二)	第四回(六・二五)	第五回(六・九)	第六回(六・二四)	
標準區	三坪	二	一	一	一	一	一	三
無肥料區	全	一	一	一	一	一	一	六
窒素二倍區	全	一	一	一	一	一	一	六
無窒素區	全	一	一	一	一	一	一	六
磷酸二倍區	全	一	一	一	一	一	一	六
無磷酸區	全	一	一	一	一	一	一	六
加里二倍區	全	一	一	一	一	一	一	六
無加里區	全	一	一	一	一	一	一	六
計		三	二	二	二	二	二	一三

以上ヲ通觀スルニ螟虫産卵數ハ殆ンド二化螟虫ノミニシテ三化螟虫ハ僅カニ標準區及ビ無肥料區各一塊卵ノ
 ミナリニ化螟虫ハ無加里區ノ七ヲ最多トシ窒素二倍區無磷酸區各一塊卵ノミナリニ化螟虫ハ無加里區ノ七ヲ
 最多トシ窒素二倍區無磷酸區四區之ニ次ギ其他ハ三乃至二ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス而シテ總卵塊數ヲ一
 ○○トシテ各區ノ産卵歩合ヲ算出セバ左表ノ如シ

螟虫産卵數對苗代肥料配合量試驗調查歩合表(大正九年)

試驗別	調査坪數	産卵數	歩合	順位
標準區	三坪	一〇七	一〇七	三
無肥料區	全	一〇七	一〇七	三
窒素二倍區	全	一〇七	一〇七	三
無窒素區	全	一〇七	一〇七	三
磷酸二倍區	全	一〇七	一〇七	三
無磷酸區	全	一〇七	一〇七	三
加里二倍區	全	一〇七	一〇七	三
無加里區	全	一〇七	一〇七	三
計		一〇七	一〇七	三

以上ノ歩合表ニヨレバ無加里區第一位ニシテ最多ク總數ノ一割五分窒素二倍區無磷酸區第二位ニシテ一割四分
 分三厘標準區無肥料區磷酸二倍區第二位ニシテ一割七厘無窒素區加里二倍區第四位ニシテ最少ク僅ニ七分
 一厘ナリ移植期(六月下旬)ニ於ケル水稻成育狀況ヲ四十九本ニ付調査セシハ左表ノ如ク草丈ニ差異ヲ生ゼリ

水稻成育調査表 其一

試驗別	調査月日	總計	最長	最短	平均
標準區	六月廿八日	四二・三四	一〇八	七三	八七
無肥料區	全	二八・五七	六九	五一	五八
窒素二倍區	全	五五・二九	一三六	〇〇	一三
無窒素區	全	二九・三九	七〇	五〇	六〇
磷酸二倍區	全	四三・二〇	一〇七	七一	九〇
無磷酸區	全	四三・一〇	一〇七	七一	九〇
加里二倍區	全	四二・五八	一〇八	七二	八七
無加里區	全	四五・八六	一一〇	七六	九四

産卵數調査ニ次テ本田ニ於ケル螟虫被害心枯莖ヲ五日乃至七日毎ニ六回調査セシ成績左表ノ如シ
螟虫被害心枯莖數對苗代肥料配合量試驗調査表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査月						計
		第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・二)	第六回(八・元)	
標準區	十五坪	全	六	三	五〇	九〇	五五	二六〇
無肥料區	全	全	一	一	七	四五	三九	一一〇
窒素二倍區	全	全	一	三	二九	一〇六	八五	三〇八
無窒素區	全	全	一	四	七	二六	五四	一〇三
磷酸二倍區	全	全	一	一	四	四一	八六	二二〇
無磷酸區	全	全	一	一	四	四一	八六	一九九
加里二倍區	全	全	一	三	五九	四六	九八	二一二
無加里區	全	全	一	一	五八	四六	七四	一八六
計								

以上ヲ通觀スルニ螟虫被害心枯莖數ハ窒素二倍區ノ三百八本最多ク標準區ノ二百六十本之レニ次ギ其ノ他
ハ二百二十本乃至百二十本ニシテ比較の少キ部類ニ屬ス尙各區並ニ總計ノ被害心枯莖數ヲ一〇〇トシテ夫々
歩合ヲ換算スレバ次表ノ如シ

螟虫被害心枯莖數對苗代肥料配合量調査歩合表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査月						計
		第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・二)	第六回(八・元)	
標準區	十五坪	五・四六	二・七三	三・〇〇	一・三三	二・一〇	九・〇〇	一・六三
無肥料區	全	一	一	〇	〇	〇	二	〇・七三
窒素二倍區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
無窒素區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
磷酸二倍區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
無磷酸區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
加里二倍區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
無加里區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
計								

試驗別	調査坪數	第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・二)	第六回(八・元)	計
磷酸二倍區	十五坪	二・七三	一・八三	〇・九七	一・二六	〇・九三	一・〇九	一・七〇
無磷酸區	全	一	一	〇	〇	〇	二	〇・七三
加里二倍區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
無加里區	全	一	一	一	一	一	六	〇・七三
計								

以上ノ歩合ニヨレバ螟虫被害心枯莖數ハ窒素二倍區第一位ニシテ最多ク總數ノ一割九分二厘標準區第二位
ニシテ一割六分二厘磷酸二倍區第三位ニシテ一割三分七加里二倍區第四位ニシテ一割三分三厘無磷酸區第五
位ニシテ一割二分四厘無加里區第六位ニシテ一割一分六厘無肥區第六位ニシテ一割一分六厘無肥料區第七位
ニシテ七分五厘無窒素區第八位ニシテ最モ少ク六分二厘ナリ
螟虫被害心枯莖出現期(八月上旬)ニ於ケル供試永稻ノ成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシニ左表ノ如シ

水稻成易績調査表其二(大正九年)

試驗別	調査月日	草丈				分蘖			
		總計	最長	最短	平均	總計	最多	最少	平均
標準區	八月二日	八三・九九	一・八五	一・〇五	一・七三	八四・〇	三三	二二	二二
無肥料區	全	七九・二五	一・八五	一・〇五	一・六	七五	二二	九	一五・四
窒素二倍區	全	八七・五五	二・〇八	一・二六	一・九	八三	二六	二	一七・八
無窒素區	全	七六・五〇	一・九二	一・一五	一・六〇	七四	二四	五	一五・二
磷酸二倍區	全	八六・七六	二・〇〇	一・〇三	一・七	一〇三	三三	二	二二・二
無磷酸區	全	八四・八八	一・九五	一・〇三	一・七三	九六	三七	二	一九・七
加里二倍區	全	八三・四	二・〇六	一・〇五	一・七〇	九八	三三	八	一九・七
無加里區	全	八五・六九	一・九六	一・一〇	一・七五	九〇	三〇	六	一八・三
計									

螟虫被害心枯莖數調査ニ引續キニ化螟虫第二化期發生ノ被害莖即テ葉鞘變色莖數ヲ調査スルニハ螟虫對水稻

特性試験ニ於ケルト同様各區ノ一半ニツキ四日乃至五日毎ニ四日調査セシ成績左表ノ如シ
螟虫被害葉鞘變色莖數對苗代肥料配合量試驗調査表(大正九年)

試驗別	調查坪數	調査月日				計
		第一回(八・三)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・三)	
標準區	七坪五	三	三	三	三	一六
無肥二倍區	全	五	五	五	五	一九
窒素二倍區	全	六	六	六	六	一八
無窒素二倍區	全	二	二	二	二	一〇
磷酸二倍區	全	八	八	八	八	一〇
無磷酸二倍區	全	一	一	一	一	七
加里二倍區	全	三	三	三	三	二五
無加里二倍區	全	四	四	四	四	二九
無加里區	全	一	一	一	一	二九
總計		一八	一八	一八	一八	四二
平均		二・二	二・二	二・二	二・二	四・五

以上ヲ通觀スルニ螟虫被害葉鞘變色數ハ加里二倍區ノ五十一本最モ多ク磷酸二倍區ノ五十本之レニ次ギ其他ハ四十五本乃至二十五本ニシテ比較の少キ部類ニ屬ス尙各回並ニ總計ノ被害莖數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ニ換算スレバ左表ノ如シ

螟虫被害葉鞘變色莖數對苗代肥料配合量試驗調査歩合表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査月日				計	順位
		第一回(八・三)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・三)		
標準區	七坪五	七三	一八	二一	一四	四	
無肥二倍區	全	二二	一八	二五	一四	三	
窒素二倍區	全	四六	一八	一〇	二七	三	
無窒素二倍區	全	四九	四〇	二一	二二	四	

試驗別	調査坪數	調査月日				計	順位
		第一回(八・三)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・三)		
磷酸二倍區	全	五九	八四	九二	五九	二	
無磷酸二倍區	全	一	二五	二六	一八	三	
加里二倍區	全	三七	七八	一〇五	六八	一	
無加里二倍區	全	九八	一八	一五	五九	五	

以上ノ歩合表ニヨレバ加里二倍區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ一割六分四厘磷酸二倍區第二位ニシテ一割六分三厘無肥料區第三位ニシテ一割四分三厘標準區窒素二倍區第四位ニシテ一割三分四厘無磷酸區無加里區第五位ニシテ九分三厘無窒素區第六位ニシテ最モ少ク八分ナリ螟虫被害葉鞘變色莖出現期(九月上旬)ノ供試水稻成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシハ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其二(大正九年)

試驗別	調査月日	草丈				總計	分	最多	最少	平均
		總計	最長	最短	平均					
標準區	九月二日	一五〇・三	三三〇	二八二	三〇六	一〇五	三	九	一〇九	
無肥二倍區	全	一四八・〇	三三〇	二八〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	
窒素二倍區	全	一五七・三	三三〇	二九〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	
無窒素二倍區	全	一五三・六	三三〇	二九三	三〇三	九三	三	三	一〇九	
磷酸二倍區	全	一五三・三	三三〇	二九〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	
無磷酸二倍區	全	一五三・四	三三〇	二八〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	
加里二倍區	全	一五三・六	三三〇	二八九	三〇三	九三	三	三	一〇九	
無加里二倍區	全	一五三・二	三三〇	二八〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	
無加里區	全	一五三・二	三三〇	二八〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	
總計		一五三・三	三三〇	二九〇	三〇三	九三	三	三	一〇九	

螟虫被害葉鞘變色莖數ヲ調査セザリシ他ノ一半ニ於テ刈取前螟虫被害枯穂ヲ切り取ルコトナシニ二化三化螟虫別ニ計數シ之ヲ總莖數ニ對スル歩合(特種試驗ニ於ケル同一理由ニヨリ)ニ換算セシハ左表ノ如シ

螟虫被害枯穂數對苗代肥料配合量試驗調查並ニ歩合表 (大正九年)

試驗別	調查坪數	總莖數	二歩化		三歩化		計		順位
			枯穂數	歩合	枯穂數	歩合	枯穂數	歩合	
標準區	七坪五	六六〇	二〇	三・〇	三	二	二二	三	八
無肥料區	全	五〇八	六	一・二	七	二	一三	二	三
窒素二倍區	全	五〇八	一八	三・五	一〇	二	二〇	二	四
無窒素區	全	七〇六	三	〇・四	一	〇・八	四	三	三
磷酸二倍區	全	七〇六	三	〇・四	一	〇・八	四	三	三
無磷酸區	全	六〇〇	四	〇・七	一	〇・八	五	一	七
加里二倍區	全	六〇〇	三	〇・五	一	〇・八	四	二	五
無加里區	全	七〇四	七	一・〇	一	〇・四	七	六	六

以上ヲ通觀スルニ單ニ一定面積(七、五坪)ニ於ケルニ化螟虫被害ノ白枯穂數ハ無肥料區ノ八十六本ヲ最多トシ無磷酸區ノ四十本之ニ次ギ其他ハ三十七本乃至十本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス三化螟虫被害ノ白枯穂數ハ無磷酸區ノ百二十五本ヲ最多トシ無窒素區ノ六十五本之レニ次ギ其他ハ五十七本乃至二十本ニシテ比較的少キ部類ニ屬スルモ磷酸二倍區及無加里區ニハ一本モナカリキニ化三化螟虫被害ノ白枯穂數ハ無磷酸區ノ百六十五本ヲ最多トシ無肥料區ノ百一十一本之レニ次ギ其他ハ九十本乃至二十二本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス以上ノ螟虫被害白枯穂數ヲ各區ノ總莖數ニ對スル歩合ヲ算出スレバニ化螟虫ノ被害歩合ハ無肥料區第一位ニシテ最多クシテ一分三厘無磷酸區第二位ニシテ六厘加里二倍區無加里區第三位ニシテ五厘磷酸二倍區窒素二倍區第四位ニシテ四厘無窒素區第五位ニシテ三厘標準區第六位ニシテ最モ少ク二厘ナリ三化螟虫ノ被害歩合ハ無磷酸區第一位ニシテ最モ多ク一分八厘窒素二倍區第二位ニシテ一分一厘無窒素區第三位ニシテ八厘肥料區加里二倍區第四位ニシテ四厘標準區第五位ニシテ最モ少ク僅カニ二厘ナルモ磷酸二倍區及ビ無加里區

共一本モナカリキニ化三化螟虫被害白枯穂總數ノ歩合ハ無磷酸區第一位ニシテ最モ多ク二分四厘無肥料區第二位ニシテ一分六厘窒素二倍區第三位ニシテ一分五厘無窒素二倍區第三位ニシテ一分五厘無窒素區第四位ニシテ一分三厘加里二倍區第五位ニシテ九厘無加里區第六位ニシテ五厘磷酸二倍區第七位ニシテ四厘標準區第八位ニシテ最モ多ク三厘ナリ

螟虫被害枯穂出現期(十月上旬)ニ於ケル供試水稻成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシハ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其四 (大正九年)

試驗別	調查月日	草丈				分蘖			
		總計	最長	最短	平均	總計	最多	最少	平均
標準區	十月二日	一七四・七	三六	三・五	三・五	八九三	二〇	一〇	一八・三
無肥料區	全	一六九・九	三六	三・三	三・四	八九九	二六	一〇	一八・八
窒素二倍區	全	一七六・九	三六	三・三	三・四	八九九	二六	一〇	一八・八
無窒素區	全	一七二・六	三六	三・二	三・五	九七一	二六	一〇	一八・八
磷酸二倍區	全	一七三・四	四三	三・七	三・五	九二六	二七	一〇	一八・七
無磷酸區	全	一七四・七〇	四三	三・三	三・五	九三三	二六	一〇	一八・七
加里二倍區	全	一七〇・三	三九	三・三	三・六	八九八	二六	一〇	一八・三
無加里區	全	一七四・〇〇	三八	三・三	三・五	九三三	二六	一〇	一八・三

各區收穫後螟虫被害枯穂數ヲ調査セシ一半三坪七合ノ刈藁及刈株ニ潜伏セルニ化三化螟虫數ノ多少並ニ刈藁ヨリ螟虫蝕害莖數ヲ調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ他ノ一半三坪七合分ノ刈藁刈株ハ越冬後ニ於ケル調査ノタメ田面ノ一部ニ堆積セリ

秋期刈藁刈株潜伏螟虫數對苗代肥料配合量試驗調查歩合表 (大正九年)

試驗別	調査坪數	總莖數	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總計
				二化	三化	二化	三化	
標準區	三坪七	3300	94	1	1	1	1	3300
無肥料區	全	3300	31	1	1	1	1	3300
窒素二倍區	全	3300	11	1	1	1	1	3300
無窒素區	全	3300	11	1	1	1	1	3300
磷酸二倍區	全	3300	100	1	1	1	1	3300
無磷酸區	全	3300	100	1	1	1	1	3300
加里二倍區	全	3300	11	1	1	1	1	3300
無加里區	全	3300	11	1	1	1	1	3300
總計		3300	31	1	1	1	1	3300

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝕入莖數ヲ單ニ數字ノ上ヨリ云フトキハ無肥料區ノ二百三十三本ヲ最多トシ磷酸二倍區ノ二百十本之レニ次ギ其他ハ百四十七本乃至七十八本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈藁潜伏虫數ノ二化ハ無肥料區ノ五十四匹ヲ最多トシ磷酸二倍區ノ三十四匹之レニ次ギ其他ハ二十三匹乃至九匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ無磷酸區ノ十四匹ヲ最多トシ無加里區ノ六匹之レニ次ギ其他ハ四匹乃至一匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈藁潜伏虫數ハ三十七匹ニシテ之レニ次ギ其他ハ二十匹乃至十四匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈藁潜伏虫數ハ無肥料區ノ八十六匹ヲ最多トシ磷酸二倍區ノ五十七匹之レニ次ギ其他ハ五十四匹乃至二十六匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙前者ノ内螟虫蝕入莖數ハ總莖數ニ對シ刈藁潜伏虫數ハ四號各總虫數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ニ算出セシハ左表ノ如シ

秋期刈藁刈株潜伏虫數對苗代肥料配合量試驗調査歩合表 (大正九年)

試驗別	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總計	順位
		二化	三化	二化	三化		
標準區	3300	100	100	100	100	300	六
無肥料區	3300	100	100	100	100	300	一
窒素二倍區	3300	100	100	100	100	300	三
無窒素區	3300	100	100	100	100	300	八
磷酸二倍區	3300	100	100	100	100	300	二
無磷酸區	3300	100	100	100	100	300	五
加里二倍區	3300	100	100	100	100	300	四
無加里區	3300	100	100	100	100	300	七

以上ノ歩合ニヨレバ無肥料區第一位ニシテ最多ク六分八厘窒素二倍區磷酸二倍區第二位ニシテ五分九厘加里二倍區第三位ニシテ四分無窒素區第四位ニシテ三分八厘無磷酸區第五位ニシテ三分四厘標準區第六位ニシテ二分八厘無加里區第七位ニシテ最モ少ク二分一厘刈藁潜伏虫數ノ二化ハ無肥料區第一位ニシテ最モ多ク二分八厘加里二倍區第二位ニシテ一分九厘無加里區第三位ニシテ一分七厘無窒素區第四位ニシテ一分五厘無磷酸區第五位ニシテ一分三厘刈藁潜伏虫數ハ僅カニ歩合ノ差アルモ順位ハ二化螟虫ト同様ナルモ無加里區第六位ニシテ以下一宛下レリ刈株潜伏虫數ノ二化ハ順位ハ殆ンド刈藁ノ場合ト同ジク即チ無肥料區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割一分磷酸二倍區第二位ニシテ一割六分窒素二倍區第三位ニシテ一割四厘加里二倍區第四位ニシテ一割二分標準區無磷酸區第五位ニシテ一割四厘無窒素區第六位ニシテ九分九厘無加里區第七位ニシテ最モ少ク四分九厘ナリ同三化ハ無磷酸區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ四割三分四厘無加里區第二位ニシテ二割六

分室素二倍區第三位ニシテ一割七分四厘無肥料區第四位ニシテ八分七厘加里二倍區第五位ニシテ最モ少ク四分三厘ナルモ標準區無室素區磷酸二倍區ニハ一匹モ潜伏セザリキ刈株内ノ二化三化螟虫數ハ無肥料區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ一割九分三厘無磷酸區室素二倍區第二位ニシテ一割四分六厘磷酸二倍區第三位ニシテ一割四分一厘加里二倍區第四位ニシテ一割一分九厘標準區第五位ニシテ九分二厘無室素區第六位ニシテ八分六厘無加里區第七位ニシテ最モ少ク八分ナリ刈藁刈株ノ潜伏虫數ノ總計ハ無肥料區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割四分磷酸二倍區第二位ニシテ一割五分九厘室素二倍區第三位ニシテ一割三分八厘加里二倍區第四位ニシテ一割二分三厘無磷酸區第五位ニシテ一割標準區第六位ニシテ八分九厘無加里區第七位ニシテ七分八厘無室素區第八位ニシテ最モ少ク七分二厘ナリ

刈藁刈株潜伏調查田ノ一半ハ水稻特性試驗ト同様ニ取扱ヒ春期(四月上旬)ニ調査施行セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

春期刈藁刈株潜伏虫數對苗代肥料配合量試驗調查表(大正九年)

試驗別	調查坪數	總莖數	刈藁潜伏虫數			刈株潜伏虫數			總計
			二化	三化	計	二化	三化	計	
標準區	三坪七	3100	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
無肥料區	全	3000	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
室素二倍區	全	2100	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
無室素區	全	3300	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
磷酸二倍區	全	3300	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
無磷酸區	全	3300	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
加里二倍區	全	3300	二六	三三	三三	二四	三三	三三	
無加里區	全	3300	二六	三三	三三	二四	三三	三三	

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝕入莖數ハ單ニ數字ノ上ヨリ云フ時ハ室素二倍區ノ五百二十一本ヲ最モ多クシ標準區ノ二百六十一本磷酸二倍區ノ二百二十七本之レニ次ギ其他ハ百八十一本乃至九十五本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈株潜伏螟虫數ノ一化ハ標準區ノ三十三匹ヲ最モ多クシ磷酸二倍區ノ二十三匹無室素區ノ二十四匹之レニ次ギ其他ハ十八匹乃至三匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ磷酸二倍區ニ僅カ一匹ニシテ其他ノ區ニハ潜伏セズ從テ刈藁内ニ於ケル潜伏螟虫數ハ殆ンド二化螟虫ニ左右セラレ刈株潜伏螟虫數ノ二化ニ磷酸二倍區ノ十六匹ヲ最モ多クシ標準區ノ十二匹加里二倍區無加里區ノ各十一匹無磷酸區ノ十四匹之レニ次ギ其他ハ八匹乃至四匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ無磷酸區ニ三十二匹特別ニ多ク無加里區及無肥料ニ各一匹ニシテ其他ニハ一區モ潜伏セザリキ刈株内ノ總螟虫ハ無磷酸區ノ四十二匹最モ多ク磷酸二倍區ノ十六匹之レニ次ギ其他ハ十二匹乃至五匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈藁刈株内ノ總螟虫數ハ無磷酸區ノ五十五匹最モ多ク標準區ノ四十五匹之レニ次ギ其他ハ四十四匹乃至五十四匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙前表ノ内螟虫蝕入莖數ハ總莖數ニ對シ刈藁刈株潜伏螟虫數ニ各總虫數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ヲ算出セシハ左表ノ如シ

春期刈藁刈株潜伏虫數對苗代肥料配合量試驗調查歩合表(大正九年)

試驗別	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數			刈株潜伏虫數			總計	順位
		二化	三化	計	二化	三化	計		
標準區	0.7	0.84	1.1	1.94	0.8	1.1	1.9	二	
無肥料區	0.6	0.7	1.0	1.7	0.7	1.0	1.7	七	
室素二倍區	0.5	0.6	0.9	1.5	0.6	0.9	1.5	七	
無室素區	0.5	0.6	0.9	1.5	0.6	0.9	1.5	七	
磷酸二倍區	0.5	0.6	0.9	1.5	0.6	0.9	1.5	七	
無磷酸區	0.5	0.6	0.9	1.5	0.6	0.9	1.5	七	
加里二倍區	0.4	0.5	0.8	1.3	0.5	0.8	1.3	三	
無加里區	0.4	0.5	0.8	1.3	0.5	0.8	1.3	一	
無加里區	0.3	0.4	0.7	1.1	0.4	0.7	1.1	四	
無加里區	0.2	0.3	0.5	0.8	0.3	0.5	0.8	六	

以上歩合表ニヨレバ總莖數ニ對スル螟虫蝨入莖數歩合ハ標準區第一位ニシテ最モ多ク七分九厘磷酸二倍區第二位ニシテ六分九厘無加里區第三位ニシテ五分四厘無磷酸區第四位ニシテ四分八厘無磷酸區第四位ニシテ四分八厘無窒素第五位ニシテ四分六厘加里二倍區第六位ニシテ四分四厘無肥料區第七位ニシテ二分八厘窒素二倍區第八位ニシテ最モ少ク僅カニ一分五厘ナリ刈藁ニ越冬潜伏セル二化螟虫歩合ハ標準區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割五分四厘磷酸二倍區第二位ニシテ一割七分七厘無磷酸區第三位ニシテ一割五分三厘加里二倍區第四位ニシテ一割三分八厘無磷酸區第五位ニシテ一割二分四厘無加里區第六位ニシテ九分二厘無肥料區第七位ニシテ三分八厘窒素二倍區第八位ニシテ二分三厘ナリ同ジク三化螟虫歩合ハ十割トアルモ僅カニ磷酸二倍區一匹ノミニシテ其他ニハ潜伏セザリキ從ツテ刈藁内ノ總螟虫數歩合ハ三化螟虫一匹ノ爲メニ多少減少セルモ順位ニハ二化螟虫ノ場合ト異ラズ刈株ニ越冬潜伏セル二化螟虫歩合ハ磷酸二倍區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割三厘標準區第二位ニシテ一割五分三厘加里二倍區及ビ無加里第三位ニシテ一割三分九厘無磷酸區第四位ニシテ一割二分七厘無窒素區第五位ニシテ一割一厘窒素二倍區第六位ニシテ八分九厘無肥料區第七位ニシテ最モ少ク五分ナリ同三化螟虫歩合ハ無磷酸區特ニ多クシテ實ニ總數ノ九割四分一厘ヲ占メ無肥料區及ビ無加里區ハ各二分九厘ニシテ其他ハ潜伏セザリキ刈株内ノ總螟虫數歩合ハ無磷酸區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ三割七分三厘磷酸二倍區第二位ニシテ一割四分二厘無加里區第三位ニシテ一厘六厘標準區第四位ニシテ一割三厘加里二倍區第五位ニシテ九分七厘無窒素區第六位ニシテ七分一厘窒素二倍區第七位ニシテ六分二厘無肥料區第八位ニシテ最モ少ク四分四厘ナリ

刈藁刈株内ノ總螟虫數歩合ハ無磷酸區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割三分九厘ヲ占メ標準區第二位ニシテ一割八分四厘磷酸二倍區第三位ニシテ一割六分三厘加里二倍區第四位ニシテ一割一分九厘無窒素區第五位ニシテ一割一分五厘無加里區第六位ニシテ九分八厘無肥料區及窒素二倍區第七位ニシテ最モ少ク四分一厘ナリ

参考ノ爲各區同一面積ニ於ケル刈收量ヲ調査セシハ左表ノ如シ

苗代肥料配合量試驗區刈收量調査表(大正九年)

試驗區別	坪數	刈收量	順位	位
標準區	一五坪	二七〇	六	
無肥料區	全	二六〇	八	
無窒素區	全	二八〇	四	
無磷酸區	全	二八五	二	
無加里區	全	二六五	七	
加里二倍區	全	二七四	五	
加里四倍區	全	三〇四	一	
加里八倍區	全	二八三	三	

三 化 螟 虫

- 平均一卵塊ノ卵粒數
- 總卵粒數ニ對スル孵化歩合
- 總卵粒數ニ對スル不孵化歩合
- 總卵塊ニ對スル不孵化歩合
- 寄生卵塊粒數ニ對スル平均寄生歩合
- 總卵粒數ニ對スル寄生蜂ノ孵化歩合
- 總卵塊數ニ對スル寄生蜂ノ寄生歩合

第十一 螟虫對水稻特性試驗 (大正九年)

縣下ニ於テ栽培セラル、水稻ニツキ各其ノ特性ヲ異ニセルモノ十五種ヲ選定シ苗代期間及本田ニ於テ螟虫ノ被害(產卵數心枯數葉鞘變色莖數白枯數刈藁刈株潜伏虫數)ノ程度ヲ調査セントシ苗代期ニ於テハ一匹一坪ト

シ播種量ハ坪宛二合本田ニ於テハ一區二十坪株間八寸二本植トシテ試驗施行スルト共ニ一方播秧期(六月下旬)八月上旬九月上旬及ビ十月上旬ノ四回各水稻ノ成育狀況ヲ調査シ併セテ各區ノ収量ヲ調査比較セリ本試驗ニ供セシ特性及ビ種名ヲ記セバ左ノ如シ

- 第一區 稈ノ大ナルモノ(八束穗)
- 第二區 稈ノ小ナルモノ(關取)
- 第三區 稈節ノ長キモノ(三室)
- 第四區 稈節短キモノ(福岡晚稻六四號)
- 第五區 稈節ノ強キモノ(岡八號)
- 第六區 稈節ノ弱キモノ(穀良郡)
- 第七區 葉ノ濃綠色ノモノ(白笹)
- 第八區 葉ノ淡綠色ノモノ(晚稻神力)
- 第九區 葉ノ長キモノ(萬作)
- 第十區 葉ノ短キモノ(早稻神力)
- 第十一區 葉幅ノ大ナルモノ(三井神力)
- 第十二區 葉幅ノ小ナルモノ(信州金子)
- 第十三區 分蘗數ノ大ナルモノ(福岡晚稻五七號)
- 第十四區 分蘗數ノ小ナルモノ(雄町)
- 第十五區 有色稻(紫稻)

附記 水稻特性ニ對スル種名勿論比較的ノモノニシテ絶對的ノモノニアラザレバ更ニ感ル特性ニ對シテ適當アル品種ヲ見出セントキ適宜變更スルコトアルベシ

前記十五種特性品種ニツキ苗代期間螟虫ノ被害(産卵數)ヲ三日乃至五日毎ニ六回調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

苗代期間螟虫産卵數對水稻特性試驗(大正九年)

品 種 名	調査坪數	調 査					計
		第一回(六・三)	第二回(六・六)	第三回(六・二)	第四回(六・五)	第五回(六・九)	
八束穗	二合	二	一	一	六	二	計 九
關取	全一坪	三	一	一	一	一	
三室	全	三	一	一	一	一	
福岡晚六四號	全	二	一	一	一	一	
岡八號	全	二	一	一	一	一	
穀良郡	全	二	一	一	一	一	
白笹	全	二	一	一	一	一	
晚稻神力	全	二	一	一	一	一	
萬作	全	二	一	一	一	一	
早稻神力	全	二	一	一	一	一	
三井神力	全	二	一	一	一	一	
信州金子	全	二	一	一	一	一	
晚稻五七號	全	二	一	一	一	一	
雄町	全	二	一	一	一	一	
紫稻	全	三	一	一	一	一	

苗代期間螟虫産卵數對水稻特性試驗調査歩合表(大正九年)

品 種 名	歩 合	順 位				
			第一回	第二回	第三回	第四回
三室	四	一	一	一	一	一
福岡晚六四號	四	二	一	一	一	一
岡八號	四	三	一	一	一	一
穀良郡	四	四	一	一	一	一
白笹	四	五	一	一	一	一
晚稻神力	四	六	一	一	一	一
萬作	四	七	一	一	一	一
早稻神力	四	八	一	一	一	一
三井神力	四	九	一	一	一	一
信州金子	四	十	一	一	一	一
晚稻五七號	四	十一	一	一	一	一
雄町	四	十二	一	一	一	一
紫稻	四	十三	一	一	一	一

品名	調査時期	草	葉	長	幅
八束穂	六月廿八日	總計	最長	最短	平均
八束穂	六月廿八日	七四・七五	一八四	一三三	一〇三
關取					
三室					
關八號					
穀長都					
白笹					
晚稻神方					
萬作					
早稻神方					
三井神方					
信州金子					
福晚五四號					
雄町					
紫稻					

前表ニヨレバ螟虫被害(産卵數)ハ程ノ大ナル八束穂第一位ニシテ二割六分五厘程節ノ長キ三室第二位ニシテ二割三分五厘分葉數ノ大ナル福岡晚稻五ノ號第三位ニシテ一割一分八分程節ノ強キ關八號及ビ葉幅ノ大ナル三井神方ハ第四位ニシテ何レモ八分九厘程節ノ短カキ福岡晚六稻四號葉ノ濃綠色ナル白笹分葉數ノ小ナル雄町ハ第五位ニシテ五分九厘葉幅ノ小ナル信州金子ハ第六位ニシテ二分九厘其他ノ關取穀長都萬作早稻神方紫稻ハ第七位ニシテ一塊モ産卵セズ

三化螟虫卵ハ各區共ニ一卵塊モナクシテ被害ノ順位ヲ定ムルコト能ハズ移植期(六月下旬)ニ於ケル各品種ノ成育狀況ヲ四十九本ニツキ調査セシニ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其一 (大正九年)

品名	調査時期	草	葉	長	幅
八束穂	六月廿八日	總計	最長	最短	平均
八束穂	六月廿八日	七四・七五	一八四	一三三	一〇三
關取					
三室					
關八號					
穀長都					
白笹					
晚稻神方					
萬作					
早稻神方					
三井神方					
信州金子					
福晚五四號					
雄町					
紫稻					

苗代期間産卵數調査ニ引續キ本田ニ於テ螟虫被害心枯莖ヲ五日乃至七日毎ニ六回調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

螟虫被害心枯莖數對水稻特性試験調査表 (大正九年)

供試品種	調査株數	調査						計
		第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・一〇)	第六回(八・八・九)	
八束穂	二十坪	一六三	二六〇	四三二	八五三	三八八	一一五	二二一一
關取	全	一八	一三	四四	二四五	二九	二二二	五七一
三室	全	二三	九七	一三六	三〇六	一一七	八二二	一五〇一
福晚五四號	全	五	一三	六八	一二九	一一一	一七六	五一一

供試品種	第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・〇)	第六回(八・八)	計	順位
岡八號	全	一六	二六	四八	二五	六五	五八七	七五七
穀其都	全	一四	二二	六二	二六	二二	五五八	一〇二五
白笹	全	五五	三三	八一	五一	三九	三八二	五八一
晚稻神力	全	五二	九	一四	三七	五〇	三七八	四九七
萬作	全	五	九六	一三七	九一	一一	三二三	八一〇
早稻神力	全	七	一一	八	一七	一四	二八五	三四〇
三井神力	全	三	一〇	六一	二六	五八	一八五	二三七
信州金子	全	二	一五	六	一六	二二	一五九	二一三
福晚五七號	全	一六	二	一四	二九	三七	二四九	三三一
雄町	全	二	三三	一	六九	一二三	五七二	八五〇
紫稻	全	二一	二九	四九	三九	三九	九八	二七一

以上ヲ通觀スレバ螟虫被害心枯數ハ八束ノ二千二百十一本三室ノ千五百一本穀良都ノ千二十五本等比較的多ク雄町ノ八百五十本之レニ次ギ其他ハ七百五十七本乃至二百十二本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙ホ各回並ニ總計ノ螟虫被害心枯莖數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ニ換算スレバ次表ノ如シ

螟虫被害枯莖數對水稻特性試驗歩合表(大正九年)

供試品種	第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・〇)	第六回(八・八)	計	順位
八束穗	四・七二	三・九〇	三・五四	四・二二	二・七〇	二・三三	二〇・五	一
關取	五・二	二・〇	三・六	一・二一	二・〇	四・三	一五・三	八
三室	六・七	一・四五	一・一一	一・五二	八・一	一・六一	一三・九	二
福晚六四號	一・四	二・〇	五・六	六・四	八・四	三・四	四七	九
岡八號	一・七	三・九	三・九	二・二	四・五	一・五	七〇	六

以上ヲ通觀スルニ螟虫被害心枯莖數ハ程ノ大ナル八束穗第一位ニシテ最モ多ク二割五厘程ノ長キ三室第二位ニシテ一割三分九厘程ノ弱キ穀良都第三位ニシテ九分五厘分蘖數ノ小ナル雄町第四位ニシテ七分九厘葉長ノ大ナル萬作第五位ニシテ七分五厘節ノ強キ岡八號第六位ニシテ七分葉ノ濃綠色ナル白笹第七位ニシテ五分四厘程ノ小ナル關取第八位ニシテ五分三厘節ノ短キ福岡晚稻六四號第九位ニシテ四分七厘葉ノ淡綠色ナル晚稻神力第十一位ニシテ四分六厘葉幅ノ大ナル三井神力分蘖ノ大ナル福岡晚稻五七號葉長小ナル早稻神力ハ何レモ第十位ニシテ三分一厘有色紫稻第十二位ニシテ二分五厘葉幅ノ小ナル信州金子第三位ニシテ最モ少ク僅ニ二分ナリ螟虫被害心枯出現期(八月上旬)ニ於ケル各品種成育狀況ヲ四十九種ニ付調査セシニ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其二(大正九年)

品種名	調査月日	草				丈				葉				長				葉				幅				
		總計	最長	最短	平均	總計	最長	最短	平均	總計	最長	最短	平均	總計	最長	最短	平均	總計	最長	最短	平均	總計	最長	最短	平均	
八束穗	八月一日	八・三	七・二	二・二	一・四	七・二	七・二	二・四	一・八〇	七・二	二・四	七	一・八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關取	八月一日	六・三	二・二	一・四	一・八〇	七・二	二・四	七	一・八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

品名	調査坪數	第一回(八・三〇)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・一一)	計
三寶	全	九〇・八	一・七	一・七	一・七	九六・九
福晚六四號	全	八・六〇	一・七	一・七	一・七	一二・七
岡八號	全	八・九三	一・七	一・七	一・七	一二・七
穀長都	全	九・〇〇	一・七	一・七	一・七	一二・七
白笹	全	八・四七	一・七	一・七	一・七	一二・七
晚稻神力	全	九・〇二	一・七	一・七	一・七	一二・七
萬一作	全	九・五二	一・七	一・七	一・七	一二・七
早稻神力	全	九・五二	一・七	一・七	一・七	一二・七
三井神力	全	八・八六	一・七	一・七	一・七	一二・七
信州金子	全	八・九三	一・七	一・七	一・七	一二・七
福晚五七號	全	八・九三	一・七	一・七	一・七	一二・七
雄町	全	二・〇七	一・七	一・七	一・七	五・五
紫稻	全	二・〇七	一・七	一・七	一・七	五・五

螟虫被害心枯莖數調査ニ引續キ二化螟虫第二期發生ノ被害莖即チ葉鞘變色莖數ヲ調査スルニ當リテハ各區
 坪數ノ一半ヲ之ニ充テ他ノ一半ハ被害枯穂數並ニ刈藁刈株潜伏螟虫數調査成績ニ充テシテ以テ本調査ハ拾坪
 ノ被害數ナリ而シテ五日乃至四日毎ニ四回調査セシ成績左表ノ如シ
 螟虫被害葉鞘變色莖數對水稻特性試驗調査表(大正九年)

品名	調査坪數	第一回(八・三〇)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・一一)	計
八東	全	一・二	一・九	一・八	一・八	五・七
三東	全	一・九	一・九	一・八	一・八	五・七
福晚	全	二・〇	一・九	一・八	一・八	五・七
岡六四號	全	二・〇	一・九	一・八	一・八	五・七

品名	調査坪數	第一回(八・三〇)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・一一)	計
穀長都	全	二・五	一・二	一・二	一・二	五・一
白笹	全	一・二	一・三	一・三	一・三	五・一
晚稻神力	全	一・二	一・三	一・三	一・三	五・一
萬一作	全	一・七	一・三	一・三	一・三	五・六
早稻神力	全	一・三	一・三	一・三	一・三	五・二
三井神力	全	一・三	一・三	一・三	一・三	五・二
信州金子	全	一・〇	一・三	一・三	一・三	五・〇
福晚五七號	全	一・四	一・三	一・三	一・三	五・〇
雄町	全	一・九	一・三	一・三	一・三	五・八
紫稻	全	一・九	一・三	一・三	一・三	五・八

以上ヲ通觀スレバ螟虫被害葉鞘變色莖數ニ雄町ノ七十七本早稻神力ノ六十本萬作ノ五十七本等比較的多少
 良都ノ五十一本信州金子ノ五十本等之ニ次ギ其他ハ四十九本乃至九本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙ホ各回
 並ニ總計ノ螟虫被害葉鞘變色莖一〇〇トシテ夫々歩合ニ換算スレバ次表ノ如シ
 附記 前表中出穂トアルハ調査ノ際ニ出穂期ニ達セシモノナレドモ未ダ被害ノタメニ白穂トナラズシ
 テ葉鞘部ノミ被害セラレ居リシヲ以テ之ヲ葉鞘變色莖トシテ計數セリ
 螟虫被害葉鞘變色莖數對水稻特性試驗歩合表(大正九年)

品名	第一回(八・三〇)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・一一)	計
八東	三・四	二・〇	七・六	五・一	一八・一
三東	五・二	七・八	七・六	五・〇	二五・六
福晚	六・九	八・六	七・六	七・二	二八・三
岡六四號	六・九	八・六	七・六	七・二	二八・三

品種名	調査坪數	總莖數	二		三		計		順位
			枯穂數	歩合	枯穂數	歩合	枯穂數	歩合	
八東穗	十坪	三四七〇	三三	〇・二五	八	〇・〇二	六	〇・一八	二
關取	全	七七六〇	三三	〇・五	一一	〇・〇一	四四	〇・〇六	一〇
三室	全	六五〇〇	四三	〇・七	五	〇・〇一	四八	〇・〇七	九
福晚六四號	全	九五五〇	三八	〇・四	四〇	〇・〇四	七八	〇・〇八	八
關八都	全	六五六〇	四五	〇・七	七一	〇・〇一	一六	〇・〇八	二
白笹	全	五八二〇	六七	〇・二	一	〇・〇一	六七	〇・〇二	五
晚稻神作	全	八〇八〇	三五	〇・四	一三	〇・〇二	四八	〇・〇六	一〇
萬	全	八二一〇	五七	〇・七	七	〇・〇一	六四	〇・〇八	八
早稻神作	全	五五三〇	五二	〇・一〇	一	〇・〇一	五四	〇・〇一	六
三井神力	全	七七六〇	一〇三	〇・一三	一	〇・〇一	一〇三	〇・〇一	四
信州金子	全	八〇四〇	三四	〇・四	三五	〇・〇二	六九	〇・〇九	七
福晚五七號	全	一〇五〇	九四	〇・二	六	〇・〇一	一〇〇	〇・〇一	三
紫雄	全	六六八〇	三六	〇・四	一	〇・〇一	三六	〇・〇四	一
紫稻	全	三〇六〇	八四	〇・二七	一	〇・〇一	八四	〇・二七	一

以上ヲ通觀スレバ單ニ一定面坪(十坪宛)ニ於ケル二化螟虫被害白枯穂數ハ早稻神力ノ一〇三本ヲ最多トシ信州金子ノ九十四本紫稻ノ八十四本之ニ次ギ其他ハ六十四本乃至三十三本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス三化螟虫ノ被害白枯穂數ハ關八號ノ七拾青本ヲ最多トシ福岡晚稻六四號ノ四二本三井神力ノ三十五本之ニ次ギ穀良都萬作早稻神力福岡晚稻五七號雄町紫稻等ニハ一本モナクシテ其他ハ十三本乃至五本ニシテ中位ニアリ二化三化被害白枯穂總數ハ關八號ノ百十六本ヲ最多トシ早稻神力ノ百三本信州金子ノ百本之ニ次ギ其他ハ八十四本乃至三十七本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス以上ノ螟虫被害白枯穂數ヲ各區ノ總莖數ニ對スル歩合ヲ算出スレ

バ二化螟虫ノ被害歩合ハ有色ナル紫稻第一位ニシテ二分七厘程ノ大ナルハ東穗第二位ニシテ一分五厘葉長ノ小ナル早稻神力第三位ニシテ一分三厘程ノ弱キ穀良都葉幅ノ小ナル信州金子第四位ニテ一分二厘葉長ノ大ナル萬作分蘖數ノ小ナル雄町第五位ニシテ一分程節ノ長キ三室程節ノ強キ關八號葉ノ淡綠色ナル晚稻神力第六位ニシテ七厘程ノ小ナル關取第七位ニシテ五厘程節ノ短キ福岡晚稻六四號葉ノ濃綠色ナル白笹葉幅ノ大ナル三井神力分蘖數ノ大ナル福岡晚稻五七號ハ第八位ニシテ最モ少ク四厘ナリ三化螟虫ノ被害歩合ハ程節ノ強キ關八號第一位ニシテ一分七厘程節ノ短カキ福岡晚稻六四號葉幅ノ大ナル三井神力第二位ニシテ四厘程ノ大ナル八東穗等ノ濃綠色ナル白笹第三位ニシテ二厘程ノ少ナル關取程節ノ長キ三室葉ノ淡綠色ナル晚稻神力葉幅ノ小ナル信州金子第四位ニシテ一厘其他程ノ弱キ穀良都葉長ノ大ナル萬作葉長ノ小ナル早稻神力分蘖ノ大ナル福岡晚稻五七號分蘖數ノ小ナル雄町有色ナル紫稻ニハ何レモ一本モ認メザリキ二化三化螟虫被害莖總數ノ歩合ハ有色ナル紫稻第一位ニシテ二分七厘程ノ大ナル八東穗程ノ強キ關八號第二位ニシテ一分八厘葉幅ノ小ナル信州金子第三位ニシテ一分五厘葉長ノ小ナル早稻神力第四位ニシテ一分三厘程ノ弱キ穀良都第五位ニシテ一分二厘葉長ノ大ナル萬作分蘖數ノ小ナル雄町第六位ニシテ一分葉幅ノ大ナル三井神力第八位ニシテ八厘程節ノ長キ三室第九位ニシテ七厘程ノ小ナル關取葉ノ濃綠色ナル白笹第十位ニシテ六厘分蘖數大ナル福岡晚稻五七號第十一位ニシテ最モ少ク四厘ナリ

水稻 成育 調査表 其四 (大正九年)

品種名	調査日	草			丈			分			葉			長			葉			幅		
		總計	最長	最短	總計	最長	最短	總計	最長	最短	總計	最長	最短	總計	最長	最短	總計	最長	最短	總計	最長	最短
八東穗	十月一日	一八・八六	四七・四	二九・九	四六・二	三三	一	八・二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關取	全	一八・三	三七・三	三〇・六	四六・二	三三	一	八・二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三室	全	二〇・九	四〇・五	三六・〇	四六・二	三三	一	八・二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

品名	調査坪數	總莖數	蝨入莖數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
福晚六四號	全	一七五・七三	三・六〇	三・二一	三・九元	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
岡八號	全	一七五・元	三・九四	三・二四	三・六六	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
穀其都	全	一七三・元	四・〇三	三・〇〇	三・六六	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
白笹	全	一八七・七	四・四三	三・四〇	三・八二	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
晚稻神力	全	一八七・七六	四・四三	三・四〇	三・八二	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
萬作	全	二二二・三	四・六八	三・七七	四・一三	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
早稻神力	全	一六九・九四	三・七〇	二・七七	三・六二	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
三井神力	全	二〇〇・三六	四・四一	三・五五	四・〇九	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
信州金子	全	一九六・〇〇	四・四一	三・五五	四・〇九	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
福晚五七號	全	一八・四四	四・四一	三・五五	四・〇九	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
雄町	全	二二・四三	四・四一	三・五五	四・〇九	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元
紫稻	全	一六・六五	三・八八	二・七七	三・〇九	三・二四	三・六六	三・九元	三・二四	三・九元

各區收獲後螟虫被害枯穂數ヲ調査セシ五坪ノ刈藁及ビ刈株ニツキ潜伏セル二三化螟虫數ノ多少並ニ刈藁ヨリ螟虫蝨害莖數ヲ調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ他ノ五坪分ノ刈藁刈株ハ越冬後ニ於ケル調査ノ爲田面ノ一部ニ堆積セリ

秋期刈藁刈株潜伏螟虫數對水稻特性試驗調査表 (大正九年)

品名	調査坪數	總莖數	蝨入莖數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
八東	全	一七三・五	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九
關取	全	三・八〇	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三
三號室	全	三・五〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇
福晚六四號	全	四・七五	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七
岡八號	全	三・八〇	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三
穀其都	全	二・一〇	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六

品名	調査坪數	總莖數	蝨入莖數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
白笹	全	四〇・〇〇	九・九	九・九	九・九	九・九	九・九	九・九	九・九	九・九
晚稻神力	全	四一・〇	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三
萬作	全	二七・六五	二・六	二・六	二・六	二・六	二・六	二・六	二・六	二・六
早稻神力	全	三・八〇	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二
三井神力	全	四〇・〇	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三
信州金子	全	五〇・七五	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六
福晚五七號	全	五〇・七五	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六
雄町	全	三三・四〇	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三
紫稻	全	二二・〇〇	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝨入莖數ハ單ニ數字ノ上ヨリ云フ時ハ雄町ノ五百二十一本ヲ最多トシ晚稻神力ノ三百五十本三室ノ三百四十本云レニ次ギ其他ハ二百五十六本乃至八十六本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈潜伏螟虫數ノ二化ハ紫稻ノ百二十六匹ヲ最多ト雄町ノ百二十五匹八東穂ノ百十八匹之レニ次ギ其他ハ八十四匹乃至四匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ總數僅カニ五匹ニシテ雄町ノ二匹ヲ最多トシ白笹穀良都三室ニ各一匹其ノ他ノ刈藁ニハ一匹モ潜伏セザリキ、刈藁内ノ潜伏莖數モ亦タ雄町ト紫稻轉頭スルノミナリ刈潜伏螟虫數ノ二化ハ八東穂ノ三十九區ヲ最多トシ三井神力ノ三十六匹岡八號ノ三十四匹紫稻ノ三十三匹雄町ノ二十九匹之ナニ次ギ其他ハ十七匹乃至四匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ刈藁ニ於ケル數ヨリ稍々多キモ二化螟虫ニ比シテハ遙ニ少ク總數十三匹ニシテ岡八號六匹最多クシテ紫稻ノ四匹信州金子ノ二匹三井神力ノ一匹ノミニシテ其他ノ刈株ニハ一匹モ潜伏セザリキ刈株内ノ潜伏螟虫數計ハ岡八號ノ四十四匹ガ最多トナリ八東穂ノ三十九匹紫稻三井神力ノ三十七匹之レニ次ギ其他ハ二化螟虫ノミト同様ニシテ少キ部類ニ屬ス尙前表歩合ノ内螟虫蝨入莖數ハ總莖數ニ對シ刈藁刈株潜伏螟虫數ハ莖數ノ多少ニ拘ハラザルヲ以テ總數ヲ一〇〇トシテ算出セシハ左表ノ如シ

秋期刈藁刈株潜伏害虫數對水稻特性試驗調查歩合表(大正九年)

品 種 名	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總 計	順 位
		二 化	三 化	二 化	三 化		
八束穗	1.04	1.63	1.00	1.00	1.00	1.63	1
關取	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	2
三六室	1.05	0.0	0.0	0.0	0.0	1.05	3
福晚六四號	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	4
岡八號	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	5
穀長都	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	6
白符	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	7
晚稻神作	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	8
萬神力	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	9
早稻神力	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	10
三井神力	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	11
信州金子	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	12
福晚五七號	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	13
雄町	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	14
紫稻	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	15
總計	1.63	1.63	1.00	1.00	1.00	3.63	

以上ヲ通觀スルニ總莖數ニ對スル蝕入莖數ハ分蘖數ノ小ナル雄町第一位ニシテ最モ多ク一割五分六厘有
 色ナル紫稻第二位ニシテ一割四分九厘程ノ大ナル八束穗第三位ニシテ一割四分四厘程ノ長キ三室第四位ニ
 シテ一割五厘葉ノ淡綠色ナル晚稻神力第五位ニシテ八分五厘葉長ノ大ナル萬作第六位ニシテ八分葉長ノ小ナ
 ル早稻神力第七位ニシテ六分六厘程ノ小ナル關取第八位ニシテ六分程節ノ弱キ穀良都葉幅ノ小ナル信州金子
 第九位ニシテ五分七厘程節ノ短カキ福岡晚稻六四號第十位ニシテ四分三厘程節ノ弱キ岡八號第十一位ニシテ

四分一厘葉幅ノ大ナル三井神力第十二位ニシテ三分三厘葉ノ濃綠色ナル白笹第十三位ニシテ二分五厘分蘖數
 ノ大ナル福岡晚稻五七號第十四位ニシテ最モ少ク一分七厘ナリ刈藁潜伏二化蝕虫數ハ有色ナル紫稻第一位ニ
 シテ最モ總數ノ一割七分六厘程ノ大ナル八束穗第二位ニシテ一割六分三厘分蘖數ノ小ナル雄町第三位ニシテ
 一割六分三厘葉ノ淡綠色ナル早稻神力第四位ニシテ一割一分程ノ弱キ穀良都第五位ニシテ七分五厘葉幅ノ大
 ナル三井神力第六位ニシテ六分二厘葉長ノ大ナル萬作第七位ニシテ五分二厘程ノ強キ岡八號ノ第八位ニシテ
 四分一厘程節ノ長キ三室第九位ニシテ四分葉ノ短キ早稻神力第十位ニシテ三分六厘程ノ小ナル關取第十一位
 ニシテ二分三厘程節ノ短キ福岡晚稻六四號第十二位ニシテ二分二厘葉幅ノ小ナル信州金子第十三位ニシテ一
 分七厘葉ノ濃綠色ナル白笹第十四位ニシテ一分四厘、分蘖數ノ大ナル福岡晚稻五七號第十五位ニシテ最モ少
 ク僅カニ七厘ナリ同三化蝕虫ハ分蘖數小ナル雄町第一位ニシテ最モ多ク總數ノ四割葉ノ濃綠色ナル白笹程ノ
 弱キ穀良都程節ノ長キ三室ニハ何レモ甲乙ナク第二位ニシテ二割其他ノ品種ノ刈藁ニハ一匹モ潜伏セズ刈藁
 ニ潜伏セル蝕虫數ハ前記ノ如ク殆ンド二化ニヨリ左右セラル、モ雄町白笹穀良都三室ノ四種ノ爲メニ多少歩
 合ニ差異ヲ生ジ即チ藁内ニ於ケル潜伏虫數ノ第一位ハ紫稻ナリシガ雄町ニ代リ紫稻ハ第二位トナレリ從テ一
 位宛下リ第七位ノ岡八號ト第八位ノ三室ト同歩合トナリ第八位ヲ占メ其他ハ順位ニ變化ヲ生ゼズ刈株ニ於ケ
 ル潜伏虫數ノ二化蝕虫ハ八束穗第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割四分七厘三井神力第二位ニシテ一割三分五厘
 岡八號第三位ニシテ一割二分八厘紫稻第四位ニシテ一割二分四厘雄町第五位ニシテ一割九厘早稻神力第六位
 ニシテ六分四厘福岡晚稻六四號第七位ニシテ六分六厘福岡晚稻五七號第八位ニシテ四分九厘晚稻神力第九位ニシ
 テ四分一厘穀良都第十位ニシテ三分四厘三室第十一位ニシテ三分信州金子第十二位ニシテ二分六厘關取及ビ
 白笹第十三位ニシテ一分九厘萬作第十四位ニシテ最モ小僅カニ一分五厘ナリ同三化蝕虫ハ刈藁ニ於ケルト同
 ジク四品種ノミニ潜伏シテ岡八號第一位ニシテ最モ多ク總數ノ四割六分二厘紫稻第二位ニシテ三割八厘信州
 金子第三位ニシテ一割五分四厘三井神力第四位ニシテ最モ少ク僅カニ七分七厘其他ノ品種ニハ一匹モ潜伏セ
 ス刈株ニ潜伏セル蝕虫數モ亦タ殆ンド二化蝕虫ニヨリ左右セラル、モ岡八號紫稻信州金子三井神力ノ爲ニ多

少歩合ヲ異ニシ刈株内ニ於ル潜伏虫數ハ岡八號第一位ニシテ最モ多ク總數ノ一割四分三厘八束穗第二位ニシテ一割四分紫稻三井神力第三位ニシテ一割三分三厘雄町第四位ニシテ一割四厘第五位以下第九位迄ハ二化螟虫ノ順位ニ同ジ刈藁刈株潜伏虫數歩合ハ稍々差異甚ダシク紫稻第一位ニシテ最モ多ク總數ノ一割六分一厘八束穗第二位ニシテ一割五分六厘雄町第三位ニシテ一割五分四厘晚稻神力第四位ニシテ九分三厘三井神力第五位ニシテ八分一厘岡八號第六位ニシテ六分九厘穀良都第七位ニシテ六分一厘萬作早稻神力第八位ニシテ四分二厘三室第九位ニシテ三分八厘福岡晚稻六四號第十位ニシテ三分二厘關取第十一位ニシテ二分二厘信州金子第十二位ニシテ二分一厘白笹第十三位ニシテ一分八厘福岡晚稻五七號第十四位ニシテ最モ小ク一分七厘ナリ

刈藁刈株潜伏虫數調査田ノ一半ヲ刈株ハ堀起シテ田面ニ撒布シ刈藁ハ畦畔ニ地方農民取扱ヒニ準ジ堆積シテ冬間ヲ過シ所謂潜伏虫ノ越冬ヲナサシメ春期(四月上旬)ニ及ビ秋期調査ト同様ノ調査施行セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

春期刈藁刈株潜伏虫數對水稻特性試驗調査表(大正九年)

品 種 名	調査坪數	總 莖 數	蝨 入 莖 數	刈藁潜伏虫數			刈株潜伏虫數			總 計
				一 化	二 化	計	一 化	二 化	計	
八 束 穗	五 坪	一七五	一七	六	一三	一	一	一	一	一七
關 取	全	三六〇	三	三	三	三	一	一	一	一
三 室	全	三三〇	四	四	四	三	一	一	一	一
福 岡 六 四 號	全	四七五	一三	一三	一三	一	一	一	一	一
岡 八 號	全	三六〇	一五	一五	一五	一	一	一	一	一
穀 良 都	全	二九〇	一	一	一	一	一	一	一	一
白 笹	全	四〇〇	四	四	四	一	一	一	一	一
晚 稻 神 力	全	四〇〇	一〇	一〇	一〇	一	一	一	一	一
總 計			一七	六	一三	一	一	一	一	一

品 種 名	蝨 入 莖 數	刈藁潜伏虫數	刈株潜伏虫數	總 計
萬 作	三六〇	一七	一	一
早 稻 神 力	四〇〇	三	一	一
三 井 神 力	四〇〇	四	一	一
信 州 金 子	四〇〇	三	一	一
福 岡 五 七 號	四七五	一三	一	一
雄 町	三三〇	一〇	一	一
紫 稻	二九〇	一	一	一
總 計		一七	六	一三

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝨入莖數ハ單ニ數字ノ上ヨリ云フ時ハ三室ノ三百六十二本ヲ最モトシ紫稻ノ二百八十三本早稻神力ノ二百十五本信州金子ノ二百十三本三井神力ノ二〇八本之レニ次ギ其他ハ百八十二本乃至四十四本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス刈藁潜伏虫數ノ二化ハ紫稻ノ百五十四本最モトシ八束穗ノ六十三本三室ノ四十四本之レニ次ギ其他ハ三十一匹乃至九匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ八束穗ニ二匹ノミニシテ其他ハ一匹モ潜伏セズ從ツテ刈藁内ノ潜伏虫數計モ亦二化ニ左右セラルルカ如シヲ株潜伏虫數ノ二化ハ關取ノ二十八匹刈最モトシ三室ノ二十五匹萬作ノ十九匹之レニ次ギ其他ハ十三匹乃至二匹ニシテ比較的小シ同三化ハ六品種ノミニ潜伏シ雄町ノ七匹ヲ最モトシ岡八號及紫稻ノ三匹三井神力ノ二匹之レニ次ギ其他ハ各々一匹ニ過ギズ刈株潜伏虫數計モ刈藁ト同ジク二化ニ左右セラル、ガ如シ

尙前表ノ歩合ヲ算出スルニ螟虫蝨入莖數ハ總莖數ニ對シ

春期刈藁刈株潜伏虫數對水稻特性試驗調査歩合表(大正九年)

品 種 名	蝨 入 莖 數	刈藁潜伏虫數			刈株潜伏虫數			總 計	順 位
		一 化	二 化	計	一 化	二 化	計		
八 束 穗	〇・九八	一・四八	一・〇〇	一・五二	〇・四〇	〇・五九	〇・四二	一・一八	二

關	三	福	岡	穀	白	晚	萬	早	三	信	福	雄	紫
取	室	六	八	其	符	神	作	神	井	州	晚	雄	稻
○・五七	○・三一	○・四六	○・五〇	○・一一	○・四二	○・六一	○・五五	○・五二	○・五三	○・二八	○・三〇	○・一八	
○・五〇	一・〇三	○・三二	○・五四	○・二三	○・四三	○・七三	○・二三	○・六九	○・二六	○・四二	○・二二	二・七〇	
○・五〇	一・〇三	○・三〇	○・二六	○・五四	○・二三	○・四二	○・七二	○・六八	○・二六	○・四二	○・二二	二・六九	
一・六〇	一・四三	○・五七	○・七四	○・六九	○・四〇	○・六三	○・〇九	○・五七	○・一七	○・五七	○・五七	○・四五	
一・四六	一・三〇	○・五二	一・七六	○・六二	○・三六	○・五七	○・〇四	○・六二	一・一八	○・一六	○・五二	一・七六	
○・七九	一・一一	○・三七	○・四三	○・五七	○・二八	○・四六	○・八二	○・六六	○・一〇	○・二一	○・四二	二・〇三	
一・四六	一・三〇	○・三七	○・四三	○・五七	○・二八	○・四六	○・八二	○・六六	○・一〇	○・二一	○・四二	二・〇三	
一・四六	一・三〇	○・三七	○・四三	○・五七	○・二八	○・四六	○・八二	○・六六	○・一〇	○・二一	○・四二	二・〇三	
一・四六	一・三〇	○・三七	○・四三	○・五七	○・二八	○・四六	○・八二	○・六六	○・一〇	○・二一	○・四二	二・〇三	

以上ヲ通観スルニ總莖數ニ對スル螟虫蝨入莖數歩合ハ稈ノ大ナル八束穂第一位ニシテ最モ多ク九分八厘葉長ノ大ナル万作第二位ニシテ六分一厘稈ノ小ナル關取第三位ニシテ五分七厘葉長ノ小ナル早稻神力第四位ニシテ五分五厘葉幅ノ小ナル信州金子第五位ニシテ五分葉幅ノ大ナル三井神力第六位ニシテ五分二厘稈節ノ弱キ穀長郡第七位ニシテ五分稈節ノ強キ岡八號第八位ニシテ四分六厘葉ノ淡綠色ナル晚稻神力第九位ニシテ四分二厘稈節ノ短カキ福岡晚稻六四號及ビ分蘗ノ小ナル雄町第十位ニシテ三分分蘗ノ大ナル福岡晚稻五七號第十一位ニシテ二分八厘有色ナル紫稻第十二位ニシテ一分八厘稈ノ長キ三室及ビ葉ノ濃綠色ナル白笹第十三位ニシテ最モ少ク一分一厘ナリ刈藁潜伏二化螟虫數歩合ハ紫稻第一位ニシテ總數ノ二割七分ヲ占メ八束穂第二位ニシテ一割四分八厘三室第三位ニシテ一割三分万作第四位ニシテ七分三厘三井神力第五位ニシテ六分九厘穀

良郡第六位ニシテ五分四厘關取第七位ニシテ五分晚稻神力第八位ニシテ四分三厘福岡晚稻五七號第九位ニシテ四分二厘福岡晚稻六四號第十位ニシテ三分一厘岡八號及信州金子第十一位ニシテ二分六厘白笹及早稻神力第十二位ニシテ二分三厘雄町第十三位ニシテ最モ少ク二分一厘ナリ同三化螟虫數歩合ハ八束穂ノミニシテ他ニ潜伏セズ從ツテ刈藁内ニ於ケル潜伏螟虫數歩合モ二化螟虫ノ順位ニ異ラズ刈株潜伏虫數歩合ハ二化螟虫ニテハ關取第一位ニシテ最モ多ク總數ノ一割六分ヲ占メ三室第二位ニシテ一割四分三厘万作第三位ニシテ一割九厘岡八號第四位ニシテ七分四厘穀長郡第五位ニシテ六分九厘晚稻神力第六位ニシテ六分三厘福岡晚稻六四號三井神力福岡晚稻五七號雄町ハ何レモ第七位ニシテ五分七厘紫稻第八位ニシテ四分五厘八束穂第九位ニシテ四分信州金子第十位ニシテ一分七厘早稻神力第十一位ニシテ最モ少ク一分一厘ナリ同二化螟虫數歩合雄町第一位ニシテ最モ多ク總數ノ四割一分二厘ヲ占メ岡八號及紫稻ハ第二位ニシテ一割七分六厘二井神力第三位ニシテ一割一分八厘八束穂及ビ万作第四位ニシテ五分九厘其他ニハ潜伏セザリ刈株内ニ於ケル潜伏螟虫數ノ歩合モ第一位第二位第三位ハ二化螟虫ノ順位ニ同ジク雄町第四位ニシテ八分八厘岡八號第五位ニシテ八分三厘穀長郡三井神力第六位ニシテ六分三厘晚稻神力紫稻第七位ニシテ五分七厘福岡晚稻六七號第八位ニシテ五分二厘八束穂以下ハ又二化螟虫ノ順位ニ同ジ刈藁刈株潜伏螟虫數ノ歩合ハ稍々順位ヲ異ニシテ紫稻第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割三分ヲ占メ八束穂第二位ニシテ一割一分八厘三室第三位ニシテ一割一分一厘万作第四位ニシテ八分二厘關取第五位ニシテ七分九厘三井神力第六位ニシテ六分六厘穀長郡第七位ニシテ五分七厘晚稻神力第八位ニシテ四分六厘福岡晚稻五七號第九位ニシテ四分五厘岡八號第十位ニシテ四分三厘雄町第十一位ニシテ四分二厘福岡晚稻六四號第十二位ニシテ三分七厘白笹第十三位ニシテ二分八厘信州金子第十四位ニシテ二分一厘早稻神力第十五位ニシテ最モ少ク一分九厘ナリ

尙ホ參考ノ爲メ各品種ノ同一面積ニ於ケル収量ヲ調査セシハ左表ノ如シ

水稻特性試驗區収量調査表(大正九年)

試驗別	坪數	収量	順位
八東	二〇坪	一八・三	一四
三關	全	二六・一	一三
福岡	全	三二・五	二五
岡	全	三五・〇	二
穀	全	三二・八	四
白	全	二八・二	一一
晚	全	三七・二	一
萬	全	三三・〇	三
早	全	二七・八	二
三	全	二八・三	〇
信	全	三一・九	八
福	全	三二・二	六
雄	全	二九・五	九
紫	全	三一・〇	七

第十三、螟虫對栽植本數試驗 (大正九年)

本田移植ニ當リ株間苗代播種量施肥量等ハ水稻特性試驗ト同様ニシ一本ノ栽植本數ヲ異ニシ其ノ多少ニヨリ螟虫ノ被害(心枯莖數葉鞘變色莖數枯穂數刈藁刈株潜伏虫數)ノ程度ヲ調査セントシ供試品種トシテハ福岡早稻二號ヲ以テシ標準區一本栽植區三本栽植區五本栽植區七本栽植區九本栽植區ノ六區ヲ設ケ一區ノ面積三十

坪トセリ但シ標準區トハ試驗地附近ノ農民ノ移植本數ニ準ジ本數ヲ限定セザルモノトス
 螟虫被害ヲ調査スルト共ニ一方插秧期(八月下旬)八月月上旬九月月上旬及ビ拾月上旬ノ四回各區ノ水稻成育狀況ヲ調査シ併セテ各區ノ収量ヲ調査比較セリ移植ニ際シテハ嚴密ニ螟虫ノ探卵ヲナシ第一回ノ水稻成育狀況ヲ四十九本ニツキ調査セシニ草丈總計四九・四一最長一尺一五最短尺七五平均一尺〇一ニシテ標準區ノ移植本數ヲ四十九株ニツキ調査セシニ總計二三二本最多七本最少三本平均四本七ナリキ
 本田ニ於テ螟虫被害心枯莖數ヲ五日乃至七日毎ニ六回調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ
 螟虫被害心枯莖數對栽植本數試驗調査表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査					計
		第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・二)	
標準區	三十坪	五本	一本	四本	六本	三八本	二二八
一本栽植區	全	三本	七本	一五本	二〇本	六一本	二二八
三本栽植區	全	三本	七本	一五本	二〇本	六一本	二二八
五本栽植區	全	三本	七本	一五本	二〇本	六一本	二二八
七本栽植區	全	三本	七本	一五本	二〇本	六一本	二二八
九本栽植區	全	三本	七本	一五本	二〇本	六一本	二二八

以上ヲ通觀スルニ螟虫被害心枯莖數ハ三本栽植區ノ二百九十八本最多ク標準區ノ二百二十八本五本栽植區ノ二百二十三本之レニ次ギ其他ハ百九十五本乃至百四十一本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙ホ各區並ニ總計ノ螟虫被害心枯莖數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ヲ換算スレバ次表ノ如シ

螟虫被害心枯莖數對栽植本數試驗調査歩合表(大正九年)

試驗別	調査坪數	調査					計	順位
		第一回(七・七)	第二回(七・三)	第三回(七・元)	第四回(八・五)	第五回(八・二)		
標準區	三十坪	二・八	一・三	二・六	三・八	一・九	二	
一本栽植區	全	三・三	七・七	一五・五	二〇・六	六一・一	二	
三本栽植區	全	三・三	七・七	一五・五	二〇・六	六一・一	二	
五本栽植區	全	三・三	七・七	一五・五	二〇・六	六一・一	二	
七本栽植區	全	三・三	七・七	一五・五	二〇・六	六一・一	二	
九本栽植區	全	三・三	七・七	一五・五	二〇・六	六一・一	二	

一本栽植區	三・三三	三・七五	三・三三	一・〇四	一・〇〇	一・三三	一・六
三本栽植區	二・三三	四・六	二・三四	三・三	二・三	二・四七	二・六
五本栽植區	三・三	一・五	二・〇九	三・三	二・三四	一・九四	一・七
七本栽植區	一・六	一・九	三・六	一・四	一・九	一・四	一・四
九本栽植區	一・五	一・六	三・六	一・五	一・五	一・五	一・五

以上ノ歩合表ニヨレバ螟虫被害心枯莖數ハ三本栽植區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割三分六厘標準區第二位ニシテ一割八分一厘五本栽植區第三位ニシテ一割七分七厘九本栽植區第四位ニシテ一割五分五厘七本栽植區第五位ニシテ一割四分一本栽植區第六位ニシテ最モ少ク一割一分一厘ナリ

螟虫被害心枯出現期(八月上旬)ニ於ケル供試水稻ノ成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシニ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其二 (大正九年)

試驗別	調査月日	草丈				分蘖			
		總計	最長	最短	平均	總計	最多	最少	平均
一本栽植區	八月二日	九・六	二・〇五	一・八	一・八三	一一三	三三	一六	三・三
三本栽植區	全	七・七七	一・九七	一・三	一・五九	七四	二四	八	二・九
五本栽植區	全	八・〇七	一・九七	一・〇	一・七三	一〇六	三〇	〇	二・〇
七本栽植區	全	八・八	二・〇七	一・五	一・八〇	九三	三三	〇	二・〇
九本栽植區	全	九・七六	二・〇六	一・五	一・八七	八六	二七	〇	二・〇
總計		九・五〇	二・〇三	一・七	一・八七	八二	二五	三	二・〇

螟虫被害心枯莖數調査ニ引續キ二化螟虫第二期發生ノ被害莖即チ葉鞘變色莖數ヲ調査スルニハ螟虫對水稻特性試驗ニ於ケルト同様各區ノ一半ニツキ四日乃至五日毎ニ四回調査セシ成績左表ノ如シ

螟虫被害葉鞘變色莖數對栽植本數試驗調査表 (大正九年)

試驗別	調査坪數	調査				計
		第一回(八・三)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・一一)	
一本栽植區	十五坪	一三	六九	六一	四三	一八六
三本栽植區	全	七	四五	四四	一七	一一三
五本栽植區	全	二	三〇	二四	一一	七八
七本栽植區	全	一	一九	三七	二四	九三
九本栽植區	全	二	二四	二六	二五	六一
總計		二六	二九	二七	二六	一一八

以上ヲ通觀スルニ螟虫被害葉鞘變色莖數標ハ準區最モ多ク百八十六本九本栽植區百十八本一本栽植區百十三本ニシテ之レニ次キ其他ハ九十三本乃至六十一本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス尙各回並ニ總計被害莖數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ニ換算スレバ左表ノ如シ

螟虫被害葉鞘變色莖數對栽植本數調査歩合表 (大正九年)

試驗別	調査	月日				計	順位
		第一回(八・三)	第二回(九・四)	第三回(九・八)	第四回(九・一一)		
一本栽植區	一・六九	三・一九	二・六六	三・三九	二・八七	一	
三本栽植區	〇・九一	二・〇八	一・九二	一・三四	一・七四	三	
五本栽植區	一・五六	一・三九	一・〇五	九四	一・二〇	五	
七本栽植區	一・六九	八八	一・六二	一・八九	一・四三	四	
九本栽植區	三・三八	一・三四	一・六二	二・〇五	一・八二	二	

以上ノ歩合表ニヨレバ標準區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割八分七厘九本栽植區第二位ニシテ一割八分二厘一本栽植區第三位ニシテ一割七分四厘五本栽植區第四位ニシテ一割四分三厘三本栽植區第五位ニシテ一割

二分七本栽植區第六位ニシテ最モ少ク九分四厘ナリ螟虫被害葉鞘變色莖出現期(九月上旬)ノ供試水稻ノ成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシニ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其三 (大正九年)

試驗別	調查月日	草丈				分蘖			
		計	最長	最短	平均	計	最多	最少	平均
標本栽植區	九月二日	一六五・〇	三・七六	二・三三	三・三六	九六四	二八	一四本	一九・七
一本栽植區	全	一五〇・〇	三・七三	二・三〇	三・三二	九二二	二六	一六本	一九・六
三本栽植區	全	一五〇・〇	三・七三	二・三〇	三・三二	九二二	二六	一六本	一九・六
五本栽植區	全	一五〇・〇	三・七三	二・三〇	三・三二	九二二	二六	一六本	一九・六
七本栽植區	全	一五〇・〇	三・七三	二・三〇	三・三二	九二二	二六	一六本	一九・六
九本栽植區	全	一五〇・〇	三・七三	二・三〇	三・三二	九二二	二六	一六本	一九・六

螟虫被害葉鞘變色莖數ヲ調査セザリシ他ノ一半ニ於テハ刈取前螟虫被害枯穂ヲ刈取ルコトナシニ二化三化螟虫別ニ計數シ之レヲ總莖數ニ對スル歩合(特性試驗ニ於ケルト同一理由ニヨリ)ニ換算セシハ左表ノ如シ

螟虫被害枯穂數對栽植本數試驗調查歩合表 (大正九年)

試驗別	調查坪數	總莖數	二化		三化		計		順位
			枯穂數	歩合	枯穂數	歩合	枯穂數	歩合	
標本栽植區	十五坪	一六七〇	二八五	一七%	一五五	九%	四四〇	二六%	一
一本栽植區	全	一五〇〇	二五	一%	一五	一%	四〇	三%	二
三本栽植區	全	一五〇〇	二五	一%	一五	一%	四〇	三%	三
五本栽植區	全	一五〇〇	二五	一%	一五	一%	四〇	三%	四
七本栽植區	全	一五〇〇	二五	一%	一五	一%	四〇	三%	五
九本栽植區	全	一五〇〇	二五	一%	一五	一%	四〇	三%	六

以上ヲ通觀スルニ單ニ一定面積(一五坪)ニ於ケル二化螟虫被害ノ白枯穂數ハ標準區ノ二百八十五本ヲ最多トシ一本栽植區ノ百九十五本之レニ次ギ其ノ他ハ百八十六本乃至百三十三本ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス三化螟虫ノ被害ノ白枯穂數ハ標準區二十五本七本栽植區ニ七本ノミニシテ其ノ他ニハ之レヲ認メザリキ二化三化螟虫被害白枯穂總數モ數ニ多少アルモ二化螟虫ノ場合ト同様ナリ以上ノ螟虫被害白枯穂數ハ各區ノ總莖數ニ對スル歩合ヲ算出スレバ二化螟虫ノ被害歩合ハ標準區第一位ニシテ最モ多ク二分四厘一本栽植區第二位ニシテ一分七厘三本栽植區六本栽植區九本栽植區ハ何レモ第三位ニシテ一分二厘五本栽植區第四位ニシテ最モ少ク一分一厘ナリ三化螟虫ノ被害歩合ハ標準區ニ一厘ニシテ七本栽植區ノモノハ一厘ニ及バズ其ノ他ニハ一本モ認メザリキ二化三化螟虫被害白枯穂總數ノ歩合ハ畧ボ二化螟虫歩合ト同ジク標準區第一位ニシテ最モ多ク二分三厘一本栽植區第二位ニシテ一分七厘三本栽植區九本栽植區第三位ニシテ一分二厘五本栽植區第四位ニシテ一分一厘六本栽植區第五位ニシテ最モ少ク一分ナリ螟虫被害白枯穂出現期(十月上旬)ニ於ケル供試水稻成育狀況ヲ四十九株ニツキ調査セシハ左表ノ如シ

水稻成育調査表 其四 (大正九年)

試驗別	調查月日	草丈				分蘖			
		計	最長	最短	平均	計	最多	最少	平均
標本栽植區	十月二日	一七六・七	三・九六	二・四四	三・六四	七七八	二六	一〇本	一五・九
一本栽植區	全	一七四・〇	三・七六	二・四〇	三・五五	七六八	二四	九本	一五・七
三本栽植區	全	一〇八・〇	三・六七	二・四〇	三・五五	八五二	二四	九本	一五・七
五本栽植區	全	一六〇・五	三・五二	二・三六	三・三三	七四二	二四	九本	一五・七
七本栽植區	全	一六四・六	三・六〇	二・三〇	三・三三	七八一	二六	九本	一五・七
九本栽植區	全	一六四・六	三・六〇	二・三〇	三・三三	七八一	二六	九本	一五・七

各區收穫後螟虫被害枯穂數ヲ調査セシ一半七坪五合ノ刈藁及ビ刈株ニ潜伏セル二化三化螟虫數ノ多少並ニ刈藁ヨリ螟虫蝕入莖數ヲ調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ他ノ一半七坪五合分刈藁刈株ハ越冬後ニ於ケル關

秋期刈藁刈株潜伏螟虫數對栽植本數試驗調查表 (大正九年)

試驗別	調查坪數	總莖數	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總計
				二化	三化	二化	三化	
標準區	七坪五	九〇五	七四	六	一	六	一	九〇五
一本栽植區	全	七〇五	八	一	一	一	一	七〇五
三本栽植區	全	三〇六	三九	一	一	一	一	三〇六
五本栽植區	全	五〇六	二六	一	一	一	一	五〇六
七本栽植區	全	七〇三	二二	一	一	一	一	七〇三
九本栽植區	全	七〇〇	二六	一	一	一	一	七〇〇

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝕莖入數ヲ單ニ數ノ上ヨリ云フトキハ一本栽植區ノ五百九十八本ヲ最多トシ標準區ノ五百七十四本七本栽植區ノ五百二十一本之レニ次ギ其ノ他ハ四百二十六本乃至二百六十二本ニシテ比較の少キ部類ニ屬ス刈藁潜伏螟虫數ノ二化ハ九本栽植區ノ三十七匹ヲ最多トシ一本栽植區ノ三十六匹之レニ次ギ其ノ他ハ二十六匹乃至十九匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ三本栽植區及七本栽植區ニ各一匹ニシテ其ノ他ニハ潜伏セズ從ツテ刈藁内總螟虫數ハ二化螟虫ト同様ナリ刈株潜伏螟虫數ノ二化ハ五本栽植區ノ四十四匹最多トシ標準區ノ四十四匹ヲ最多トシ標準區ノ四十四匹ヲ最多トシ標準區ノ二十八匹一本栽植區ノ二十四匹之レニ次ギ其ノ他ハ五十四匹乃至二十七匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス
尙ホ前表ノ内螟虫蝕入莖數ハ總莖數ニ對シ刈藁刈株潜伏螟虫數ハ莖數ノ多少ニ拘ラザルヲ以テ總虫數ヲ一〇

〇トシテ夫々歩合ヲ算出セシハ左表ノ如シ

秋期刈藁刈株潜伏螟虫數對栽植本數試驗調查歩合表 (大正九年)

試驗別	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總計	順位
		二化	三化	二化	三化		
標準區	九八	七	〇	六	〇	一〇四	三
一本栽植區	一〇四	一	〇	一	〇	一	二
三本栽植區	六二	一	〇	一	〇	二	四
五本栽植區	四八	一	〇	一	〇	二	一
七本栽植區	七〇	一	〇	一	〇	二	六
九本栽植區	七〇	一	〇	一	〇	二	五

以上ノ歩合ニヨレバ總莖數ニ對スル螟虫蝕入莖數歩合ハ一本栽植區第一位ニシテ最多ク一割四厘標準區第二位ニシテ九分八厘七本栽植區第三位ニシテ七分三厘三本栽植區第四位ニシテ六分一厘九本栽植區第五位ニシテ五分七厘五本栽植區第六位ニシテ最モ少ク四分八厘ナリ刈藁潜伏螟虫數ノ二化ハ九本栽植區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割二分六厘ヲ占メ一本栽植區第二位ニシテ二割二分三本栽植區及七標準區第三位ニシテ一割五分九厘七本栽植區第四位ニシテ一割二分五本栽植區第五位ニシテ最モ少ク一割一分六厘ナリ同三化ハ三本栽植區及七本栽植區ニ各五分割ナルモ其ノ數一匹ナリ從ツテ刈藁内ノ總螟虫數歩合モ稍々數字ヲ畧スルモ二化螟虫數歩合ニ同ジク只ダ第三位ノ標準區カ第四位トナレルノミニシテ以下順位ハ同ジ刈株潜伏螟虫數ノ二化ハ五本栽植區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ三割二分六厘ヲ占メ標準區第二位ニシテ二割二分七厘一本栽植區第三位ニシテ二割二厘三本栽植區第四位ニシテ一割五分一厘七本栽植區第五位ニシテ五分九厘九本栽植區第六位ニシテ最モ少ク三分四厘ナリ同三化ハ五本栽植區ニ八割標準區ニ二割ニシテ其ノ他ニハ潜伏セズ從ツテ刈株内總螟虫數ハ三化ノ爲メニ多少歩合減スルモ少スルモ順位ハ二化螟虫ト同ク異ナラズ刈藁刈株總螟虫數ハ五本栽植區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割一分七厘ヲ占メ一本栽植區第二位ニシテ二割七厘標準區

第三位ニシテ一割八分六厘三本栽植區第四位ニシテ一割五分五厘九本栽植區第五位ニシテ一割四分一厘七本栽植區第六位ニシテ最モ少ク九分三厘ナリ
刈藁刈株潜伏螟虫數調査用ノ一半ヲ刈株ハ掘リ起シテ田面ニ撒布シ刈藁ハ畦畔ニ地方農民ノ取り扱ヒ方ニ準ジ堆積シテ冬間ニ置シ所謂潜伏螟虫ノ越冬ヲナサシメ春期(四月上旬)ニ及ビ秋期調査ト同様ノ調査施行セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

春期刈藁刈株潜伏螟虫對栽植本數試驗調査表 (大正九年)

試 驗 別	調査坪數	總莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總 計
			二化	三化	二化	三化	
標 準 區	七坪五	五〇本	四	二	二	一	五
一本栽植區	全	五〇本	三	一	一	一	六
三本栽植區	全	五〇本	四	一	一	一	七
五本栽植區	全	五〇本	四	一	一	一	七
七本栽植區	全	五〇本	四	一	一	一	七
九本栽植區	全	五〇本	三	一	一	一	六
總 計			一八	六	六	五	二九

以上ヲ通觀スルニ螟虫蝕入莖數ヲ單ニ數字ノ上ヨリ云フトキハ三本栽植區ノ四百九十九本ヲ最モトシ標準區ノ四百十二本之レニ次ギ其ノ他ハ三百四十六本乃至六十本ニシテ比較的少キ類ニ屬ス越冬セル刈藁潜伏螟虫類ノ二化ハ一本栽植區及ビ九本栽植區各十八匹ヲ最モトシ標準區ノ十五匹三本栽植區ノ十四匹之レニ次ギ其ノ他ハ十四匹乃至九匹ニシテ比較的少シ同三化ハ一匹モ潜伏螟虫數ノ二化ハ五本栽植區ノ四十二匹ヲ最モトシ一本栽植區ノ四十四匹ニ次ギ其ノ他ハ三十四匹乃至十五匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス同三化ハ一匹モ潜伏越冬セザルヲ以テ刈株内ノ總螟虫數モ全然二化螟虫ト異ナラズ刈藁刈株内ノ總螟虫數モ二化ノミニシテ一本栽植區ノ五十八匹ヲ最モトシ五本栽植區ノ五十一匹之レニ次ギ其ノ他ハ四十九匹乃至二十九匹ニシテ比較的少キ部類ニ屬ス

尙ホ前表ノ内螟虫蝕入莖數ハ總莖數ニ對シ刈藁刈株潜伏螟虫數ハ莖數ノ多少ニ拘ラザルヲ以テ總虫數ヲ一〇〇トシテ夫々歩合ヲ算出セシニ左表ノ如シ

春期刈藁刈株潜伏螟虫對栽植本數試驗調査歩合表 (大正九年)

試 驗 別	蝕入莖數	刈藁潜伏虫數		刈株潜伏虫數		總 計	順 位
		二化	三化	二化	三化		
標 準 區	七〇	一・九	一・七	一・八	一・六	三・三	三
一本栽植區	六〇	二・四	一・九	二・三	一・九	四・二	一
三本栽植區	五九	一・六	一・六	一・八	一・九	三・六	六
五本栽植區	五八	一・七	一・七	二・三	一・九	四・二	二
七本栽植區	五八	一・九	一・七	一・六	一・九	三・五	五
九本栽植區	五四	二・四	一・九	一・六	一・九	四・九	四
總 計		一八	六	六	五	二九	

以上ノ歩合表ニ依レバ總莖數ニ對スル螟虫蝕入莖數ハ三本栽植區第一位ニシテ最モ多ク七分九厘標準區第二位ニシテ七分一本栽植區第三位ニシテ六分五厘五本栽植區第四位ニシテ四分六厘九本栽植區第五位ニシテ四分四厘七本栽植區第六位ニシテ最モ少ク僅ニ八厘ナリ刈藁内潜伏越冬セル二化螟虫ハ一本栽植及ビ九本栽植區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割一分四厘ヲ占メ標準區第二位ニシテ一割七分九厘三本栽植區第三位ニシテ一割六分六厘七本栽植區第四位ニシテ一割一分九厘五本栽植區第五位ニシテ最モ少ク一割七厘ナリ同三化螟虫ハ一匹モ潜伏越冬セザルヲ以テ刈藁内ノ總螟虫數歩合ハ二化螟虫ト全然同様ナリ刈株内ニ潜伏越冬セル二化螟虫ノ五本栽植區第一位ニシテ最モ多ク總數ノ二割三分ヲ占メ一本栽植區第二位ニシテ二割二分標準區第三位ニシテ一割八分六厘九本栽植區第四位ニシテ一割五分八厘七本栽植同三化螟虫モ刈藁ト同ジク一匹モ潜伏越冬セザレバ刈株内ノ總螟虫數歩合モ亦タ二化螟虫ト全然同様ナリ刈株刈藁螟虫總數歩合ハ一本栽植區第一位ニシテ總數ノ二割二分ヲ占メ五本栽植區第二位ニシテ一割九分一厘標準區第三位ニシテ一割八分一厘九本栽

植區第四位ニシテ一割七分八厘七本栽植區第五位ニシテ一割二分三厘三本栽區第六位ニシテ最モ少ク一割九厘ナリ

尙ホ參考ノ爲メ各試驗區ノ同一面積ニ於ケル収量ヲ調査セシニ左表ノ如シ
栽植本數試驗區収量調査表(大正九年)

標 準 區	坪 數	収 量	順 位
一本栽植區	三〇坪	五・四	一
三本栽植區	同	四・三	五
五本栽植區	同	四・六	四
七本栽植區	同	四・七	三
九本栽植區	同	四・三・七	六
平均一卵塊ノ總粒數	同	四九・一	二

第十四 螟虫寄生蜂瓢虫配布調査

螟虫卵ニ對スル天敵即チ寄生蜂ノタメニ螟虫ノ孵化ヲ如何ナル程度ニ減滅セルカ其ノ効力歩合ヲ調査セントスルニ當リ便宜上螟虫試驗地所在地附近ヲ三部落ニ分割シ三井郡浮羽郡中部ヲ八女郡三瀨郡南部ハ小門郡三池郡トシ各部落ヨリ二化三化螟虫卵ヲ各五拾塊宛採集シテ各卵塊ニツキ螟虫ノ孵化數寄生蜂ノ羽化數及ビ總粒數ヲ計上シテ其等ノ歩合ヲ調査セシ第一期ニ於テ左表ノ如キ歩合ヲ得タリ

一 北部(三井郡浮羽郡)

平均一卵塊ノ總粒數	二化螟虫	一〇八粒	三化螟虫	四四粒
總卵粒數ニ對スル孵化歩合	八割三分四厘		六割二分三厘	

總卵粒數ニ對スル不孵化卵數歩合	二分七厘	二割八分九厘
總卵塊數ニ對スル不孵化卵塊數歩合	一割	一割六分八厘
寄生卵塊粒數ニ對スル平均寄生歩合	四割六分二厘	八分七厘
總卵粒數ニ對スル寄生蜂羽化歩合	一割三分八厘	四割六分
總卵塊數ニ對スル寄生蜂ノ寄生歩合	三割	三化螟虫
平均一卵塊ノ卵粒數	二化螟虫	三五粒
總卵數ニ對スル孵化歩合	五割四分九厘	五割一分七厘
總卵塊數ニ對スル孵化歩合	四分	四割一分
寄生卵塊粒數ニ對スル平均寄生歩合	五割四分四厘	一割六分
總卵粒數ニ對スル寄生蜂ノ浮化歩合	四割一分一厘	八分一厘
總卵塊數ニ對スル寄生蜂ノ寄生歩合	七割八分	三割六分
三南部(山門郡三池郡)	二化螟虫	三化螟虫
平均一卵塊ノ卵粒數	一・二四粒	五一粒
總卵數ニ對スル孵化歩合	七割七分二厘	六割四分九厘
總卵塊數ニ對スル不孵化卵塊數歩合	一	八分
總卵粒數ニ對スル不孵化粒數歩合	四分七厘	七分九厘
寄生蜂卵粒數ニ對スル平均寄生歩合	三割二分七厘	四割一分八厘
總卵粒數ニ對スル寄生蜂ノ羽化歩合	一割八分八厘	二割六分
總卵塊數ニ對スル寄生蜂ノ寄生歩合	五割二分	五割六分

以上ノ各五十現ノ内試験地ノ北部(三井郡浮羽郡)ニ於テ採集セシニ化螟虫卵ハ一卵塊ノ粒數最モ多キハ二百六十八粒ニシテ最モ少キハ三十九粒平均一〇八粒ナリ孵化歩合ハ八割三分四厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ僅カニ二分七厘ナリ寄生蜂ノ羽化歩合ハ一割三分八厘ナリ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシハ一塊モ無ク寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其粒數ノ九割五分ヲ最多トシ最少四分三厘平均四割六分二厘ナリ然ルニ總卵塊數ニ對スル寄生歩合ハ三割ナリキニ化螟虫卵ハ一卵塊ノ粒數最モ多キハ九十二粒ニシテ最モ少キハ十粒平均四十四粒ニシテ螟虫ノ半數ニ及バズ孵化歩合ハ六割二分三厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ二割八分九厘ナリ寄生蜂ノ羽化歩合ハ八分七厘ニ過ギズ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシ卵塊ハ一割ニ及ビ寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其粒數ノ三割七分七厘ヲ最多トシ最少二分二厘平均一割六分八厘ニシテ二化螟虫ノ半バニ及バズ然ルニ總卵塊數ニ對スル寄生歩合ハ四割六分ニシテ二化螟虫ヨリ稍々多シ

中部(八女郡三瀨郡)ニ於テ採集セシニ化螟虫卵ハ一卵塊ノ粒數最モ多キハ二百四十六粒ニシテ最モ少キハ拾六粒平均九十五粒ナリ孵化歩合ハ五割四分九厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ僅カニ四分ナリ寄生蜂ノ羽化歩合ハ四割一分一厘ナリ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシハ一塊モナク寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其粒數ノ十割即チ全部寄生セラレシモノ一塊ナレドモ最モ多ク最少ハ四分五厘平均五割四分四厘ナリ然ルニ總卵數ニ對スル寄生歩合ハ七割八分ニ達セリニ化螟虫卵ニ於テハ一卵塊ノ卵粒數最モ多キハ九十一粒ニシテ最モ少キハ七粒平均三十五粒ニシテ二化螟虫ノ三分ノ一ニ近カシ孵化歩合ハ五割一分七厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ四割一分ナリ寄生蜂ノ羽化歩合ハ僅カニ八分一厘ニ過ギズ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシハ卵現ニ一割六分ニ及ビ寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其粒數ノ七割三分六厘ヲ最多トシ最少ハ一分七厘平均一割六分ニシテ二化螟虫ニ對スル時ハ遙ニ少ク總卵塊ニ對スル寄生歩合ハ三割六分ニシテ二化螟虫ノ半數ニ及バズ南部(山門郡二池郡)ニ於テテ三池郡ニ於テハ適當ナルモノニ化三化共得ザリシヲ止ムヲ得ズ山門郡ヨリ採集セルモノニツキ調査セリ此ニヨレバ二化螟虫卵ハ一卵塊ノ粒數最モ多キハ三百三十七粒ニシテ最モ少キハ三十一粒平均一二四粒ナリ孵化歩合ハ七割七分二厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ僅カニ四分七厘ナリ寄生蜂ノ羽

化歩合ハ一割八分八厘ナリ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシテ一塊モナク寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其粒數ノ八割五分五厘ヲ最多トシ最少ハ三分六厘平均三割二分七厘ナリ然ルニ總卵塊數ニ對スル寄生歩合ハ五割二分ナリ三化螟虫卵ニ於テ一卵塊ノ卵粒數ハ最モ多キハ百十二粒ニシテ最モ少キハ十一粒平均五十一粒ニシテ二化螟虫ノ半數ニ及バズ孵化歩合ハ六割四分九厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ七分九厘ナリ寄生蜂ノ羽化歩合ハ二割六分ナリ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシハ僅カニ八分ニシテ寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其粒數ノ七割七分四厘ヲ最多トシ最少ハ四分一厘平均四割一分八厘ニシテ二化螟虫ヨリ稍々多シ

總卵塊數ニ對スル寄生歩合モ五割六分ニシテ二化螟虫ヨリ稍多シ之ヲ要スルニ第一化期ニ於ケル一卵塊ノ粒數ハ二化螟虫ニ於テ甚ダシク孵化歩合モ寄生歩合モ亦タ一般ニ本年度調査セシニヨレバ二化螟虫ニ多キガ如シ

第二化期ニ於テハ各郡共ニ二化螟虫卵ハ採集スルコト能ハズシテ止ムナク調査ヲ中止シ三化螟虫卵モ亦北部及ビ南部ヨリハ採集スルコト能ハズシテ中部ノ三瀨郡ヨリ僅カニ二十五塊ヲ採集シ之等ニツキ調査セシハ左表ノ如シ

三化螟虫

平均一卵塊ノ卵粒數	四四粒
總卵粒數ニ對スル孵化歩合	六割八分四厘
總卵粒數ニ對スル不孵化歩合	一割六分五厘
總卵塊數ニ對スル不孵化歩合	八分
寄生卵塊粒數ニ對スル平均寄生歩合	二割八分一厘
總卵粒ニ對スル寄生蜂ノ羽化歩合	二割一分八厘
總卵塊數ニ對スル寄生蜂ノ寄生歩合	七割二分

以上ヲ二十五塊ノ内一卵塊ノ粒數最モ多キハ百三十七粒ニシテ最モ少キハ三十八粒平均四十四粒ナリ孵化歩

合ハ六割八分四厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ一割六分五厘アリ寄生蜂ノ羽化歩合ハ二割一分八厘ナリ幼虫寄生蜂共ニ出デザリシハ八分ニシテ寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ其ノ總粒數ノ六割六分九厘ヲ最多トシ最少一分二厘平均二割八分一厘ナリ然ルニ總卵塊數ニ對スル寄生卵塊歩合ハ七割二分ナリキ

採集卵塊數第一化期ト等シカラザリシヲ以テ歩合ノ比較ニモ差異ヲ生ズル恐アリ故ニ其多少ヲ論ズルコト能ハズ第三化期ニ於テモ第二化期ニ於テモ第二化期同様北部南部ヨリハ採集スルコト能ハズシテ中部ノ内三瀨郡ヨリ五十卵ヲ採集シテ調査セシ結果ハ左表ノ如シ

平均一卵塊ノ卵粒數

三化 螟 虫

總卵粒數ニ對スル孵化歩合

一一三粒

八割三分九厘

總卵塊數ニ對スル孵化セザリシ卵粒數歩合

四分三厘

寄生卵塊ノ粒數ニ對スル平均寄生歩合

二

一割六分二厘

總卵粒數ニ對スル寄生蜂ノ羽化歩合

一割二分一厘

七割二分

總卵塊ニ對スル寄生蜂ノ寄生卵塊數歩合

一割二分

以上五十塊ノ内一卵塊ノ粒數最モ多キハ二百粒ニシテ最モ少キハ四十一粒ニシテ平均百拾參粒ナリ孵化歩合ハ八割三分九厘ニシテ孵化セザリシ歩合ハ四分三厘ナリ總卵粒數ニ對スル寄生蜂ノ羽化歩合ハ一割二分一厘ナリ幼虫寄生蜂ノ何レモ出デザリシハ僅カニ二分ニ過ギザリキ寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ平均寄生歩合ハ其總粒數ノ三割五分八厘ヲ最多トシ最少一分六厘ニシテ平均一割六分二厘ナリ然ルニ總卵塊數ニ對スル寄生卵塊歩合ハ七割二分ナリ

第一化期中部ニ於テ採集セシモノト今回ノモノト比較對照スレバ一卵塊ノ最大粒數モ第一化期ニ於テハ九十一粒第三化期ニ於テハ二百粒最少數モ前者ハ僅カニ七粒ナリシモ後者ハ四十一粒平均前者ハ三十五粒後者ハ

百十三粒ニシテ其何レモ後者ハ二倍乃至三倍以上ノ多キニ達セリ幼虫孵化歩合ハ前者ハ五割一分七厘後者ハ八割三分九厘ニシテ三割二分三厘ニシテ十分ノ一ニ及バントス寄生蜂ノ羽化歩合ハ前者ハ八分一厘ニ過ギザレドモ後者ハ一割二分一厘ニシテ四分多ク幼虫寄生蜂共ニ出デザリシ卵塊ハ總卵塊數ノ一割六分前者ニシテ後者ハ僅カニ二分ニ過ギザリキ寄生蜂ニ寄生セラレタル各卵塊ノ寄生歩合ハ前者ノ最多七割三分六厘最少一分七厘ナルニ後者ハ最多三割五分八厘最少一分六厘ナルモ平均歩合ハ前者ハ一割六分ニシテ後者ハ一割六分二厘ニシテ殆ンド相等シ總總卵塊數ニ對スル寄生卵塊歩合ハ前者ハ三割六分後者七割二分ニシテ二倍ノ多キニ達セリ

之ヲ要スルニ大正九年度中部ニ於テハ第一化期ヨリ第三化期ノ方幼虫寄生蜂共ニ孵化率羽化率多ク卵粒數ニモ亦第三期ニ於テ甚ダシク多シ寄生歩合ハ一卵塊ニ對シテハ第一化期ハ最多最少ニ甚シキ差アルモ第三期ニ於テハ第一化期程ノ差ナク總卵塊數ニ對スル寄生卵塊數歩合ヨリ見レバ第三期ノ寄生蜂ノ活動ハ普遍的ニ在レルガ如キ觀アリ

第十五 べたりや瓢虫配布

本場ニ於テ飼育繁殖セルモノ並ニ静岡縣農事試驗場ヨリ配付ヲ受ケタルべたりや瓢虫ヲ郡市町村農會及當業者ヨリノ申込ニ依リテ配付シタル數ハ二千八百五十六頭ニシテ郡市別左ノ如シ

郡市名	配布頭數	郡市名	配布頭數
久留米市	一四五	筑紫郡	二三〇
福岡市	六〇〇	鞍手郡	三五〇
宗像郡	三三九	遠賀郡	二〇〇
粕屋郡	八二二	嘉穂郡	五〇〇

雑之部

八三三浮

女瀬井羽

郡郡郡郡

一
二
五
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

三金早山

池救真門

郡郡郡郡

一
〇
〇
一
三
〇
一
八
五
〇

（以下は極く暗く、内容はほとんど不可読である）

雜
之
部

八	三	三	淨
女	瀨	井	羽
郡	郡	郡	郡
五	六	〇	〇
〇	〇	五	〇
三	企	早	山
池	教	良	門
郡	郡	郡	郡
一	一	一	一
〇	三	一	八
〇	〇	五	〇

雜之部

第一 見習生ノ養成

見習生規程ニ依リ甲種十名ヲ入場セシメ學理及技術ニ就キ一ケ年間養成シ修得セシモノニ對シテハ夫々修業證書ヲ授與シタリ其人名左ノ如シ

朝倉郡安川村	石	井	孝	雄
浮羽郡江南村	松	竹	米	藏
浮羽郡水繩村	森	田	增	次
三瀨郡大善寺村	恒	屋	道	介
筑紫郡日佐村	笹	淵		巖
三瀨郡蒲池村	島	松	久	郎
築上郡椎田町	安	部	讓	治
鞍手郡新入村	栗	原	毬	郎
京都郡諫山村	村	上	無	太郎
鞍手郡頓野村	中	川	國	守

第一 講習會

普通農事講習會ニ出張シ農業、稻、麥、大豆、小豆、蔬菜類、薯苔、綠肥、産業組合、米券倉庫、果樹、養蠶、家畜、家禽其他工藝作物ノ栽培加工法等ヲ講演且實驗セリ今各郡別ニ其修得者數ヲ示セバ左ノ如シ

郡名
粕屋郡

修得生數
六七

郡名
三井郡

修得生數
四八

遠賀郡	三〇	三	三
朝倉郡	七六	八	四
筑紫郡	四一	三	二
糸島郡	四三	金	三
浮羽郡	四五	救	二
築上郡	二六	都	二
計		郡	六

第三出張

場員出張回数四百拾八回延日數千〇二十七日ニシテ内管外出張拾一回日數百拾七日管内出張四百七回日數八百二十七日ナリ今是レガ事項別ニ示セバ次ノ如シ

農事講習會	三五	三	一
農事調査	五二	一	六
農事談會	一九	二	八
農事視察	一三	二	三
病虫害試驗並調査	五九	一	二
依託試驗調査	七八	一	八
實地指導	一七	三	五
農事獎勵	二一	五	六
採種圃監督	二六	八	三
綠肥調査	七	二	九

其他

第四印刷物

左記印刷物ヲ調製シ參觀人其他へ配布セリ

大正八年度業務年報	一、〇〇〇	九一	一七一
嘉穂郡之土壤	二〇〇		
三池郡之土壤	二〇〇		
山門郡之土壤	二〇〇		
企救郡之土壤	二〇〇		
早良郡之土壤	二〇〇		
筑紫郡之土壤	二〇〇		
三井郡之土壤	二〇〇		
朝倉郡之土壤	二〇〇		
柏屋郡之土壤	二〇〇		
遠賀郡之土壤	二〇〇		
鞍手郡之土壤	二〇〇		
京都郡之土壤	二〇〇		
田川郡之土壤	二〇〇		
三潞郡之土壤	二〇〇		
浮羽郡之土壤	二〇〇		
八女郡之土壤	二〇〇		

米作の手話
 麥作の手引
 堆肥の作り方
 鶏の飼ひ方
 葱頭の栽培法
 甘藷の栽培法
 蕎麥作の菜
 綠肥の栽培法
 馬鈴薯の栽培法
 蘭作の手引
 黒土、赤土、砂土の改良法
 驅虫殺菌劑の作方と使ひ方

第五 種子、種畜、種禽、種卵ノ配布

種別	數
種豚	四拾四頭
種禽	二百六拾六羽
種卵	二千三百二拾七個
種畜	二十八石八斗七升九合
種禽	七斗三升
種卵	六斗七升

裸麥種子配布 四石一斗八升五合
 其他茄子、胡瓜、南瓜、蕃茄、甘藍、葱頭、結球白菜等ノ優良種苗ヲ配布セリ

第六 質問應答

質問應答

二二四

第七 文書收發

文書收發

三、五二六

第八 參觀人

參觀人

一三、二五六

第九 職員異動

異動月日	異動事項	職名	氏名
七月十九日	依願免職	技手	吉田末彦
七月廿七日	任	技手	長澤誠
八月十日	任	技手	宮城實
八月三十日	依願免職	助手	安武清
九月一日	任	助手	橋本彌
十月二十九日	依願免職	助手	千代島廣
十二月十七日	任	助手	長尾啓
一月二十九日	依願免職	技手	富澤正之
二月十二日	任	技手	熊澤正

1421
3321

大正十年十月一日印刷
大正十年十月五日發行

福岡縣立農事試驗場

福岡縣福岡市地行東町拾壹番地

印刷者 納屋久

福岡縣福岡市博多中島町壹番地

印刷所 株式會社 共文社

電話三三五番

農 綠 畜 農 種 會 庶 會 昆 種 園 農 種 昆
藝 藝 藝 藝 藝 藝 藝 藝 藝 藝 藝 藝
化 化 理 理 理 理 理 理 理 理 理 理
學 肥 產 學 藝 計 務 計 病 藝 藝 藝 理 藝

同 同 同 同 同 助 同 同 主 同 同 同 同 同
手 事 補

角 川 濱 松 大 吉 高 番 長 橋 道 八 吉 恒
邊 田 英 金 久 太 朝 穗 野 尾 本 家 尋 野 屋
美 代 喜 美 彌 芳 道
一 郎 藏 務 郎 實 次 範 治 吉 港 彦 與 介

1421

3321

終

